カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行兼編集人 山田成章
電話092—522—5139
振替口座 福岡42981
定価 一部 20円

共同訳聖書作成資金募集

一、募金額 五百万円
一、方法 一口五百円
一、送り先 本誌編集部
寄付者

年頭の願い

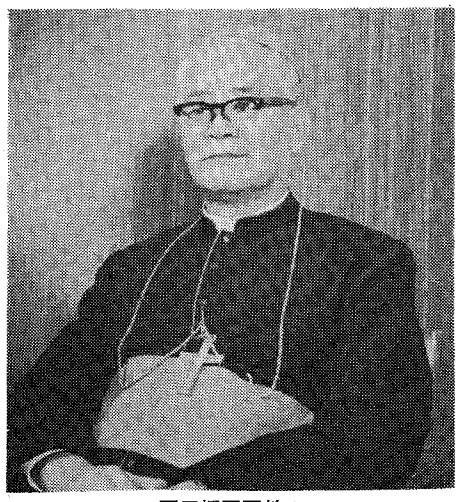
福岡教区司教 平田三郎

神のお恵みによって新らしい年を迎えるにあたり、教区の司祭・修道者・信徒の皆様に新年の挨拶と祝福を送ります。今年も神の祝福がすべての司祭館・修道院・家庭に豊かに注がれ、教区の信仰共同体が、ますますキリストを知り、キリストを知らせる使命を果たしていくよう祈ります。

信徒と教会の使命

「キリストを知り、キリストを知らせよう」は、一昨年の暮に祝いました教区誕生五〇周年の標語でした。この標語はキリスト信者とその共同体である教会の大使命であり、決して終わることのない課題であります。キリストを知るとは、聖書によれば、単に頭の知識として知るばかりでなく、知る対象との実存的、人格的な交わりに入ることであり、キリストとその教えに魅せられ、キリストと共に生きることがどんなにすばらしいことであるかを体験的に悟ることであります。主は祈られました「永遠の生命とは、唯一のまことの神であられるあなたと、あなたがお遣しになったイエズス・キリストを知ることです」。(ヨハネ17・3)そこにいたるためには神のみ言葉である聖書の朗読、祈りや黙想、神との和睦に導くゆるしの秘跡、キリストとの一致をもたらす聖体拝領などが必要でしょう。

このような深い生活にいたってはじめて、キリストを人々に知らせようとの熱意が自然に沸き出てくると思います。ただ義務だから宗教を守るといった消極的な考えでは、キリストを知らせるという宣教の精神は生れて来ないのです。キリストの宣教を受け継いだ教会、信仰の共同体にとって宣教は本来の使命であり、信徒の義務です。キリストをよく知った人、つまり深い信仰の人、信仰の規範に従って喜び勇んで生きる人だけが、よくキリストを知らせ、キリストに引きつけ、キリストを愛させることができるでしょう。


平田福岡司教

召し出しに配慮を

新年に当たってのもう一つの願いは、司祭・修道者の召し出しがふえるよう心を配っていただくということです。世界の宗教状勢は大きく変わり、外国宣教師の派遣も多く望めないようになった今日、教区の神の民は、明日の教会を指導する司祭や修道者が自分のところからもっと出るよう努力し将来に備えなければならないのです。子供の数が少なくなったとか、豊かな生活に馴れ、人のために自分を献げる精神が薄らいだとか、世俗化の波が家庭にも教会にも打ち寄せ、独身生活に引かれるような青少年はいなくなったなどの声を時たま耳にしますが、教区の司祭・信徒は、まだまだ召し出しに関しての意識を失っているとは思いません。召し出しのために祈り、犠牲を捧げておられる人々の姿を見受けます。ひとりの司祭を養成するのに十二年もかかり、その間の養育費は教区の共同体が負担するのは当前だとして、喜んで神学校援助会に加入して下さっている方も多いのです。実に明日の司祭の養成は教区の最大の関心事であり、そのためには、何ひとつ惜んではならないと思います。教区民が力を合わせて、こぞってこの大事業を前にもまして、前進させて下さるようお願いいたします。

司教座聖堂の建設

教区の司教座聖堂と司牧・宣教センターの建設につきましては、六カ月前に教書を送ってお知らせし、協力の心構えを造っていただきました。建物の構想などについては、司祭・修道者・信者の代表の方々のご意見、ご要望を聞いて集約し、実行に移して行きたいと思っております。互に忙しい身でありますので、一堂に会することのできる日の決定が延び延びになっており、申し訳ないと思っております。また、あまり広くない大名の敷地をどのように利用し、宗教建築に相応しい、合理的で、あとに悔いを残さないような企画・設計を誰れに頼んだらよいか、とまどいを感じております。教区の母教会に相応しい聖堂と、教区の司牧・宣教の中心が早くできるよう教区民あげてのご協力を切にお願いいたします。

児童の信仰育成

最後に、国際連合は、今年を「児童の年」と決め、教会も「子供を守り、子供を伸ばそう」をテーマに、マス・コミなどを通して協力することになっております。児童の権利の擁護と健全な育成は、現代社会にとって緊急課題であります。カトリック信者にとって、家庭や教会における児童の信仰育成は、何にもまして大切なことであります。教会内外において、この「国際児童年」を実り多いものにして下さいますようお願いいたします。

一九七九年一月一日

微光

新春を迎えるに当たり、読者諸賢に心からの祝詞を申し上げ、ご多幸とご健康を祈念する次第である。一九七七年がやって来た。というのは、「歓迎されざる客」のようだからである。小生、感傷欠乏症となったのか、年を取るのをおっくうに感じるこの頃となり果てた。正月を楽しく夢見た少年時代が懐しく浮んでは足早に沈んでゆく。元旦は三六五日の一日に過ぎない、と強がりをいっても、新年のスタートであることに注目せざるを得ない。

▼毎年のことながら、泣き言を述べてみよう。過ぎ去った一年は、川の流れに似てどこにあるのかわからない。楽しい思い出や悲しい出来事、恥さらしの日々は遠い彼岸に流れ着いたのであろうか。小なりとはいえ、天下の教区報を拙筆で汚し続けた恥さらしは拭い去ることができまい。それにしてもよく忍耐してくださった読者にはお詫びとともに満腔の謝意を表したい。「小さき者」として召された神のみ旨にお委せしたいと思う。

▼今年の決意は?回心し、読書すること。書物の活字を読んで満足するのではなく、神のみ前にその内容を考える訓練を重ねる必要がある。「黙想し、黙想したものを他に与える」ことになろうか。或る聖者の言を寸借りした形になったが、最近の実感と反省に通ずる。映像文化に汚染された現代人は「観想の人」を変人扱いにしていないだろうか。時の人大平総理は読書家との評判である。かれのア・ウはいただけないが、国民に対するア・イ(愛)に期待したい。

事務用機器・コンピューター・学校用・幼稚園備品
㈲シオタ事務機・㈱日本幼育社
社長 カシミロ・塩田五郎
福岡市南区大楠2丁目23—15(西田ビル2F)
TEL 代表 092(521)—8266—7

Custom Tailor
糸永洋服店
福岡市中央区浄水通8—8
TEL 531—3831
夜間 521—0820

謹んでクリスマスと新年のお慶びを申し上げます

福岡教区司教・司祭団

福岡地区

平田　三郎司教
深堀　仙石衛門司教
茶山教会　伊東　誠二神父
司教館　平田　惣五郎〃
川口　康頼〃
ガイヤル〃
大名町教会　深堀　勝人〃
青木　保〃
竹森　勇〃
浄水通　山田　成章〃
西新　平田　勇〃
東田島　マホニ〃
高宮　ハトリック〃
中村　道生〃
菊池　勝〃
美野島　グローガン〃
大楠　堤　要吉〃
吉塚　シュルツ〃
カーテン〃
リシャール〃
ディキン〃
籾崎　ハー〃
老司　乾　盛夫〃
光ケ丘　山崎聡一郎〃
古賀　浦口　均〃
二日市　平田　正喜〃
小郡　糸永　武男〃
今村　糸永　一〃
本郷　牧山　重光〃
久留米　三村　邦朗〃
吉野　牧山　勝美〃
大牟田　堤　敏雄〃
馬渡島　黒川　博〃
田川　清美〃

大神学院　山内　清海〃
ラブラント〃
ラベル〃
ツルデル〃
イエール〃
高木　善行〃
中浜　一男〃
高見　三朗〃
明石　健次〃
畠山　七郎〃
山頭原太郎〃
永富　久雄〃
夫津木　昇〃
鈴木　信一〃
パウロ〃
鈴木　忠一〃
リチャード〃

小神学校
泰星高校
聖パウロ修道院
默想の家

北九州地区

門司港　グロジャン〃
門司　ラバルタ〃
小倉　バスチ〃
ベリヨン〃
平田　寛〃
西田　邦洋〃
浦　俊雄〃
平田　敬〃
ボネ〃
徳山　登〃
デシャンプ〃
モーゼ〃
ドルエ〃
ボンカズ〃
ベルトラン〃
バイヨ〃
キニュ〃
カウス〃

若松　天神町
八王寺
湯川
戸畑
黒崎

水巻　ベルトラン〃
直方　鶏野　泰年〃
飯塚　ドレル〃
田川　パスカレル〃
新田原　牧山　藤房〃
山川　辰幸〃
渡辺　隆義〃
岩永　義人〃
行橋　ラグレブ〃
天使の聖母修道院

佐賀地区

唐津　マグリン〃
呼子　サルディ〃
武雄　サルビ〃
伊万里　パスカーレ〃
多久　アレグリニ〃
鹿島　ルッチ〃
佐賀　ガザルディ〃
島栖　ピアッチニ〃
聖母の騎士修道院　オジョルニ〃
トラピスチン　ガブリエル〃

熊本地区

ドイル〃
キルケニ〃
コフィルド〃
グリフィン〃
オブライエン〃
オキャロル〃
ノーリス〃
ヤングキャンプ〃
ブランチフィルド〃
フラハチ〃
オーサリバン〃
ディバイン〃
オマニ〃
オファロ〃
グリン〃
ホーガン〃
マッコーネル〃
モラハン〃
マックナリ〃
シーヒ〃
パチフィコ〃

荒尾　玉名　手取
健軍
帯山
島崎
菊池
八代　人吉　水俣
本渡
大江
崎津
琵琶崎修道院

「家庭における親子の信仰教育について」

（北九州カトリック婦人会の練成会記録より）

○祈りについて

祈りは強制するものではなく、親子の会話の中でも神の存在を知らせ、感謝し、反省を持たせる内容が望ましい。

祈りの指導として……年令にあった言葉で祈る。「なぜ祈らなければならないか」その必要性を教えるとともに、親が信仰態度をはっきり示すことに効果があると思う。

○片親のみ信者の場合

未信者側は協力はするが、実際には足ぶみ状態である。互いに誠意をもって相手を理解し、尊敬し合うことが家庭生活の中でとくに必要である。形式にとらわれず、感謝の気持をれず、広い考えをもって行動すること。

○中学生の場合

家族全員がそろって祈るということは時間的に困難である。とにかく、この中学生時代は反抗期でもあるので、口先きだけで注意するのでなく、また、逃げ腰にならず、よく話し合って子どもの立場を理解してあげることが大切である。小学生の場合と異なり、クラブ活動、また、受験準備などにより、自然に教会に行くことから遠ざかるようである。親として大きな悩みである。その悩みを解決するためには、親子の話し合いが必要であろう。親が信念をもって、信者としての模範を示すことも必要である。中学生が社会的活動に参加することも助けとなる。教会との交流、子ども同志の交流など教会にもっと行事があれば、これに参加することによって自然と友達ができるし、教会は楽しい場所となる。神さまのいる所は本当に楽しい場所となり、祈る心が育ってゆくと思う。

ーバスチ師のまとめー

○家庭における子どもの信仰教育は、信者である親自身の問題である。

○母親中心で父親としての役割について話し合いがもたれなかったことは残念である。

○祈りについてーどんな祈りを唱えたらよいか、祈る心があるのかを注意すること。祈りは手段ではない、祈りの義務づけと強制を混同してはいけない。祈りは義務である

○親の権威と立場を失わないようにその責任を果たす努力をすること。

○親の責任を司祭に転嫁しないこと。その時その場合で決定するのは家庭の親である。信仰の面では、大人としての聖書その他の勉強を忘れてはならない。

なお、北九州カトリック婦人会の総会が、昭和54年1月30日（火曜日）午前十時から午後二時まで小倉カトリック教会で開かれる。

議題としては

一、役員選出

一、53年度の反省と54年度の要望事項

一、54年度の計画

一、その他

参考として53年度の行事はつぎの通りであった。

㈠、一月二十六日、門司教会で委員会を行い、年度計画、その他を話し合った。

㈡、二月二十八日、八王寺教会で委員会、年度計画の具体化や会費の値上げについて討議した。

㈢、四月二十七日、八王寺教会で委員会、第二回委員会の結果を持ち帰り話し合ったものを、再び審議して決定した。

㈣、七月五日若松教会で委員会、切手集めの活動を決定、実行する練成会の具体的な話し合い。

㈤、八月十八日新田原教会を訪問、楽しい会員の親睦会となった。

㈥、十一月十三日小倉教会で練成会を催した。練成会の成果を生かし、54年度を成果の実践の年にしたいと考えている。

⊙お知らせ

既報のとおり昭和五十四年一月十四日（日曜日）、福岡市内の教会は、成人となった信者を対象に合同成人式を開くことになっている。午前九時の司教ミサと祝賀会で、新成人を祝福する。多数の参加を希望しているので、各教会のご協力をお願いする。

内科、放射線科、循環器科、消化器科
正　金　診　療　所
院長　古賀　明恭
福岡市中央区天神4丁目80　福岡ショッパーズプラザセンタービル7階
休診日日曜、祭日、ダイエー定休日　TEL（713-7912）
診療時間　午前10時～午後5時　昼休み　午後1時30分～2時15分
土曜日　午前10時～午後3時　昼休みなし

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1—4—23
TEL 771—3657

◇羊飼いの牧場◇

「山で想う」

浦　俊雄

夢ある人生

少し古い話になるが、正月が来ると思い出すので紹介したい。

寒さには絶対の強みを持ち、風邪はひかぬとたかを括っていた男が微小極まりないインフルエンザA菌に侵されて、ひとたまりもなく倒れてしまった。正月休みをいかに過ごそうかと、あれこれ練っていた楽しい計画を前にすっかり狼狽した彼は、何としても病いを克服しなければと慎事をきした。少々のことでへこたれない彼が寝込んでしまうからには、体の具合も相当よろしくなかったのであろう。

病魔を追っ払わないことには楽しみにしていた計画がお流れになる、と考えると、どうしても治したい、治らねばとの意欲が回復に必要な凡ゆる手段を講じさせようとした。

人生の旅を続けている一巻子が一年の計とは別に、冬山を憧れて立てた小旅行の計画はあわや潰れるかに見えた。いささかあわて気味だった彼が、懸命に養生した甲斐あってようやく小康を得た大晦日の夜、眠れないまま往く年、来る年をうち守り、仏教でいう百八つの煩悩をわが身に感じながら除夜の鐘の音を聞いていると、いつしか眠りに誘われていた。夢かうつつか、その煩悩も鐘の音に掻き消されて悟りが開けてくる。

人生のはかなさ、無情さにも拘らず、目的と計画あるところに行動を促す力と意欲が湧き出るものだ。独り楽しむ旅であれば、あるいはあっさり断念したかも知れない計画も、同道を約束した弟妹を落胆させたくない義務感も目的達成を手伝った。人生の旅路、仮にそれが厳しさにみちていても、あこがれのある迎春であれば正月も意味があり、これまた神の恵みである。旅は道連れ、世は情、人生は一人旅ではない。幸福な人生の旅の計画に一人でも多くの人が加わるように呼びかけ、その目的達成のために一層欲を燃やしながらも、スキーで捻挫したわが無謀さを忠告されて、ちと心が痛み出した。

山での出会い

「面倒なことは一切お断り」の昨今になって小生に一つの問いかけをする山行きを綴ってみよう。かって乗鞍岳に続いて穂高に登ったときを回想してみた。三千米の雲の上を散歩できる乗鞍岳にはスカイラインをジープで山頂近くまで走り上った。スピードにスリルを覚え、快適なドライブを楽しんだが、頂上に立ってみたものの感激が小さい。すれちがうだけで人に会わずじまいだった。翌日、重いリュックサックを背負って一歩一歩辿る登山道では人間に逢える。「今日は」と交わす言葉は、喘ぎながら登る者にとっては慰めであり励ましになる。通りすがりでありながら仲間の親しみを覚える。単独行ではあったが孤独ではなかった。稜線に近づく頃降り出した雨がはげしくなったので穂高連峰縦走を断念した。西穂山荘は逃げ込んだキャンパーや登山客でかなりこんでいた。四人部屋に詰め込まれた六人の山男たちは、さしちがいに身を横たえ、ひとの声が自分の足もとから聞えて奇妙だったが、結構楽しく語らいながらの一夜であった。天候が回復せずタイムアップ。穂高連峰を目前にして下山のやむなきにいたったが、山に登った実感を味わって下り列車の人となった。人生は理想の山、愛と幸福の高嶺目指して急坂やけわしい岩場、狭い山路を苦労しながらでも自分の足で登る以外になさそうだ。快適さのみを求め、安楽なドライブ登山をあてにしたのでは美しい景色を眺める余裕はなく、高山植物の可れんな花に気付かずまいてや、人に出会うこともない。真の出会いを経験しない人生は味気ない。

山のいざない

千寿ケ原のユースホステルで同室した若者たちから「ここまで来て山に登らない者は馬鹿ですよ」と妙に煽動されて、登る積りもなかった立山に向かって彼等と一緒に宿を出た。

連休を控えてか、いやはや大変な人出だ。若い連中ばかりと思いのほか、相当の年輩の男女が混っているのに驚き、また大いに慰めとなった。美女平に着いたケーブルから降りたとたん、「熊が出没していますから、登山者は注意下さい」との貼り紙を駅舎の壁に見て、ますます興味が増してきた。乗り継いだバスはしばらく杉木立の中を走り、弥陀ケ原の広い台地の上に出た。そこに展開する眺望は満目変化の妙、深紅にもえる葉、淡紅色の木の葉、黄ばんだ葉むらが織りなす山肌の装いは、二天女が置き忘れた衣でないならば、俗人が天上界に遊ぶのか、その美しさは目をみはるばかりであった。室堂でバスを降りると、ゴツゴツした岩肌をむき出した立山が登山者の挑戦を受けて立つ身構えをしていた。頂上に立つと、雲海の中から剣岳、槍ケ岳など北アルプス連峰が雄姿を現わす。はるか下方に黒部ダムを望み、頂上からすぐ下には雪渓が白い肌をつくり、紅葉した台地と頂きに近い岩場の中間はハイマツの緑が取持って面白い。「主よ、私たちがここにいるのはよいことです。お望みなら、私はここに三つの幕屋をつくりましょう」(マタイ17の14)と思わず叫んだペトロのように、魂を奪いさられてしまいそうな美しいこの場所にテントを張りたくなったとき、例の熊の件を思い出して、矢張り下山することにした。

(湯川教会主任)

○会合と催し○

◎平田司教
1月1日　平和ミサ
9日　教区司祭新年集会
12日　中央協議会秘書会議
14日　合同成人式

◎福岡黙想の家
1月14～15日　バプテスト集会

祈禱の使徒会の意向

(一般)暴力の追放と平和の確立
(布教)カトリック児童福祉事業の発展。

一月年忌の司祭

◎グスターブ・ロー師(パリ外国宣教会)一九五〇年一月一日帰天
◎アウグスチン・ハルプ師(パリ外国宣教会)一九四五年一月十四日帰天。
◎ジャンマリー・マルタン師(パリ外国宣教会)一九七五年一月十八日帰天。
◎ルドビコ・ガルニエ師(パリ外国宣教会)一九四一年一月十九日帰天。◎ヨゼフ・フレスノン師(パリ外国宣教会)一九二九年一月帰天。

御礼

去る十一月二十一日福岡シングフェライン公演によるチャリティコンサートに際しましては、皆様の御協力を得て聴衆は満員となり盛況の裡に無事終わらせて頂きました。

之は各教会、修道院、学校、及び信者の方々の一方ならぬ御援助の賜と厚く御礼申しあげます。

大名町司教座教会建設委員会

『葉隠』と『驢鞍橋』

(北島佐大付中教諭の見解)

武士の行動精神を説いた『葉隠』は、山本常朝の思想である。常朝の思想形成に大きな影響を与えた人物として、父山本重澄、僧濃然、石田一鼎、年長の甥山本常治の四人が〝葉隠四哲〟として有名。

北島さんは、彼らに勝るとも劣らない影響を与えたものとして『驢鞍橋』をあげる。作者の鈴木正三は、徳川譜代大名の家臣で関ケ原の戦い、大阪冬の陣などで数々の武勲をあげた三河武士だったが、四十二歳で髪を落とし、独自の禅を創り上げた有名な僧侶。

まず、濃然和尚は、元三河国の住職で同じ肥前国武雄出身の名僧月舟と深いつながりがあった。月舟は正三の弟子であったことから濃然もなんらかの形で影響を受けた可能性が強いこと。『葉隠』によく出てくる〝大慈悲心〟という思想は濃然によるものだが、その原点は正三ではなかったか、と指摘する。

ほかに、正三に弟子入りした佐賀藩士の話が『葉隠』にあり、常朝は『驢鞍橋』を読むように勧めていることから、愛読書であったことがうかがわれるという。同書の〝義とは、ぐっと死ぬことなり〟と〝武士道とは……〟を連想させる。

(佐賀教会信徒)

〝任意保険に加入してから車の運転を致しましょう〟
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険等々
福岡市中央区天神2丁目13番7号
(長銀ビル5階)ＡＩＵ福岡支店内
大石保険事務所　大石真澄
〒810　ＴＥＬ 771―4761

祭壇・洗礼盤他
石材　石他
理　影の
大御そ
石のパイオニア
髙木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2―21
TEL ５２－２４１７

〈教区大神学生紹介〉

ラテン科一年　平田三好

『あこがれの大神学校に入学して一年足らず―まだ、司祭職についての具体的なことは、何も分らないが、とにかく、自分の好きなキリストのイメージを追い求めて行きたい』と語るのは、今村教会出身の、平田三好神学生。四十七年四月に、小神学校へ入学し、五十三年三月に泰星高校及び小神学校を卒業して、同年四月大神学校へ入学した。現在、ラテン科一年生である。

大神学校の生活にも慣れたが、小神学校に比べて、自主性を重んじ、規則正しい面では、初めのうちはなかなか大変だったらしい。

「一日の時間割を、自分なりに考え、勉学、霊的生活の面でも、自発的に、責任をもって取り組まないと、囲りの人に引き離されてしまう…よほど自覚しないと…」と若さと希望にあふれる心境を、切々と述べてくれた。大神学校に入って感激したのは、まずその環境―あらゆるスポーツを楽しむことができること、更には多くの霊的兄弟たちとの交流、同じ屋根の下で、同じ目的のために喜怒哀楽をともにすることのできる多くの学友とのめぐり合いだと言う。

司祭像は?と問えば、『まだよく分らないが、ひとりひとりの信者との交わり、触れ合いを大切にする司祭、そして特に、子供たちを大切にし、子供たちとともにイエズス様を探し求める…ような司祭になりたい』という返事が返ってきた。

今、一番考えていることは、一日の時間の使い方、過ごし方だと言う。『毎日、同じ時間割りのくり返しの中で、如何に時間を有効に、上手に使うかによって、将来の司祭としての自分が決まるような気がする。将来、〝一日二十四時間司祭〟として、フルに活動できるためにもやはり、今のうちからわずかな時間でも、その使い方に気を配って自己鍛練して行きたい』と語る姿に、やる気十分、〝頼りになる男〟という印象を受けた。祈りと学問、共同生活の園―大神学校で明日の司祭職を目ざして身心ともにひたすら、自己修練に励む当神学生のために、多くの祈りと励ましとをお願いしたい。

（文責・竹森）

〝邦人司祭育成〟献金

（12月3日）

大名町	78 000	久留米	26,500
浄水通	63,746	大牟田	7,500
西新	17,913	吉野	1,735
美野島	10,000	今村	70,000
高宮	23,500	本郷	11,546
吉塚	15,000	小郡	15,550
茶山	8,500	伊万里	5,500
箱崎	7,000	唐津	12,085
大楠	10,785	鹿島	2,200
東田島	17,500	佐賀	12,000
老司	20,000	武雄	
八王寺	8,000	多久	
天神町	10,000	鳥栖	3,160
黒崎	12,000	呼子	4,000
小倉	69,781	馬渡島	8,900
門司	20,000	荒尾	5,400
門司港	7,538	人吉	9,800
戸畑	35,500	本渡	26,225
湯川	27,230	菊池	30,000
若松	10,000	水俣	6,200
飯塚	7,000	帯山	11,000
水巻	16,400	大江	13,702
直方	3,000	崎津	12,000
田川	7,230	島崎	39,000
新田原	50,770	玉名	10,500
行橋	12,575	手取	32,530
古賀	18,212	八代	13,720
二日市	35,000	合計	1,012,933

平和への教育

「平和への教育」これは次回世界平和の日（一九七九年元旦）のために故パウロ六世が選まれたテーマである。

平和はその時代を生きる人間にかかっている。その人間は必ず教育の影響のもとにあるので、もし平和の思想が人々の心を得るなら平和は保全され、否むしろ人間がそれによって救われる。それは、人々と統治者を政治、立法における組織体制を助けることであり社会的、経済的、文化的なあらゆる面に於て協議、条約の中に人間の権利と基本的自由の認識を深める道具となるであろう。

平和への教育と言うのはただ学識を与え、知識を提供することではない。

平和は精神と心、思想と行動の上で成り立つもの。先づ魂の中で次にひとを取り巻くあらゆる事柄の中で人格と共同体を一つの賭に備えさせることである。

平和は常に動きを持ったもの、しかも近代にあっては宇宙的な拡がりを持った動きの中で、人間生活の安定性と同時に、現在の自分を超えてより高度な平和のために危険をもあえて覚悟する程の賢明さが人間に懸っている。人間は最上のことと最悪のことを選ぶ自由を持っている。

個人の中に平和に資する精神をつくり、人々の間に新しい関係を立ててゆける様な人を育てることは、他の人の思考、必要、感動の間にあって、よき理解と兄弟愛の協力を志すまでに内心の変革をはかる生涯の教育である。平和へのこの内心の成長の義務は誰をも除外しない。

キリストの教え、教会の指針の光のもとにこの心構えを整えるにしても、当然考えねばならぬことは平和が人間の業であると同時に神の賜であることである。

緩慢な歩み、時として失望的様相に踏み入ることがあっても、神はひとの努力を祝福される。神に対する愛を表現する平和は来るべきみ国の平和を促進するものであることを忘れないようにしよう。

平和への教育は幼年より老年に至るまで、又、社会、政治の場に責任をもって立つ人や、公共の意見を調整整理するマスメディアの場にある人、人性の広範な価値観に関しての感動に豊かな青年期の人も、すべて例外なく平和の使徒なのである。また、ある意見は、反射的に殆どの人から受けられ、公的意見として通ったものでも、その効果は割引きされたものとなる事もあればこれとは対蹠的に、一般からは反対を受け、（―感動的で理性的であっても―）反感さえするどく受けながら思い通りにならぬものもあろう。双方とも基本的な平和への態度さえしっかりして居ればその使命を十分に果たしているのである。この平和への教育が生涯の教育であることを想うべきであろう。

以上数次に亘る世界平和の日を中心に故パウロ六世とこの思想普及に努力した人々の考えを要約収集したものである。

〝主の平和が地を満たされますように〟

味に生きる　まるわ　の
かまぼこ、てんぷら
まるわ水産加工有限会社
代表取締役　マテオ　下田数信
福岡市西区神后町　TEL 881―1135

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話　52―3306
52―8622

建築設計監理
教会・修道院・学校・幼稚園・他
菅建築設計事務所
所長　菅　種雄
福岡市中央区警固3―11―14
TEL 092・741・8852

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL 521―0568

カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行兼編集人 山田成章
電話092—522—5139
振替口座 福岡42981
定価 一部 20円

共同訳聖書作成資金募集

一、募金額 五百万円
一、方法 一口五百円
一、送り先 本誌編集部
寄付者 一、五〇〇円 砂場みちえ

人類共通善の中心—家庭

託身の神秘が教えるもの

（パパさまは語る）

一月三日の公式謁見において教皇ヨハネ・パウロ二世がお話しになった内容を、オッセルバトーレ・ロマノ紙から伊東師の抄訳で紹介する。

一、年毎に教会の典礼は主の生誕の祝日の前日に人類の期待の夜を思い出させる。その夜主の約束は実現されたのである。

生まれたお方は待たれたお方、彼は待望の時を朗じる、それでも彼は常に待たれるお方であることを止めない。

キリストは生まれる。ベトレヘムの夜に一度だけ。しかし典礼の中で毎年繰り返され特殊な方式で現代化される。即ち毎年同じ要素で豊かにされている。人間的にも神的にもひとの単的な見方ではすべてを把握することは不可能なものである。典礼周年の降誕節もこの幻惑を感じさせるおどろくべき神秘を考えさせるにはあまりに短かすぎるように感じられる。キリストの来臨、人間性の中への神の誕生を吟味するにはあまり短い二、典礼はこの事件のいきさつの一つを特殊な浮彫りとしてくれる。即ちベトレヘムの夜の幼児の誕生は新しい家庭を形づくる。そのため降誕の八日間に来る日曜日をナザレの聖家族の祝日と定めている。この家族が「聖」と呼ばれるのは敵達にさえ「神の聖なるお方」と呼ばせた（マルコ一の24）イエズスの誕生のために準備されたからである。

生れたお方の聖性は勿論、母マリアの聖化の特殊な泉、したがって彼女の夫をも聖化したものであるヨゼフは人口調査の時もマリアの夫と法的にも取りあつかわれていた。

この家族は全く人間的な家庭である。そのために降誕節の季節に聖なる教会はこの聖家族を通して人間のすべての家庭に想いを馳せるのである。聖性は神の子がその中のひととなられた家庭に唯一で例外的な超自然の性格を帯びさせると同時に、またこの聖家族については人間的な面、家庭の性質、義務その困難さについても言及出来るものである。また事実この家族は真に貧しくあった。幼児の誕生には彼を覆う屋根はなかった。敵手を避けねばならなかったしその危険が去ったあともつつましい生き方、貧しさと手仕事のうちに展開される。その条件も他のどの様な家庭と違いはない。それは複数の家庭との連帯の場所、一人の男と一人の女の別々の、共同体の合わされるところ新しい人間存在が生まれる所である。聖家族は祭壇上に祭りあげられるただ一つの家庭ではなく、ルカやマテオが語ってくれるように世のどの家庭にも近いものである。それは美しい事であれ困難なことであれ、夫婦生活家庭生活の深遠な意味を持つ問題を背負っているものである。福音史家、特にマテオが語ってくれるヨゼフとマリアがイエズスの出生前に生きた出来事に思いをいたせばもっと明確に見ることが出来るだろう。

三、降誕祭と密接に結びついた聖家族の祝日は私たちの信仰の基本的な拡がりを感じさせて、私たちにことさらに近くて親しいものである。何故なら神の託身の神秘は人間の変ぼうと全く同立してその基調をなしているからである。

人間の変ぼうの場は実は家庭であることを知らねばならぬ。実に家庭において新しい生命の創造が行われる。一人の新しい人間が胎まれこのことから夫婦である男と女は父となり母となって新しい義務をともなって新しい資格を得ることになる。そしてこの基本的な義務が多くの事柄の中で重要な意味を帯びて来る。そして一家庭と言う具体的な共同体だけにかぎられず全人類の共同体—社会であり、国家であり学校であり職場である共同体の中にその存在の意味を持って来るのである。そしてすべては両親と家庭の一義的な基本的な義務をどの様に果たしていくかに子供は人間のあり方を修得して「人類」の姿を形成していくのである。こう言う事柄において家庭は他のもので代行され得ない性格を持っていてすべての人の個人的善のためばかりでなく如何なる大陸のどの社会、国家のためにも要求されることである。

家庭はこの様に人類の共同善のあらゆる面における核心に位置づけられているのである。そしてこの一人間の存在が望まれ、待たれる時点から唯一で他のものをもって代えられない価値あるものとして私たちの最善をつくして行かねばならぬ性質のもの、現実のきびしさの中でもたじろかずに大切に考えられねばならぬ理由がここにある。

託身の神秘が私たちに教えるものはこれである。また真正のヒューマニズムの理念はこの他にはないと私は考えている。

私が気になるのは一つの現代の誰もが反撥をおぼえる一つの大きな叫びである。子を待つ母親は屡々道徳上の大きな試練に立たされている。皮肉に「母性中断」と呼ばれてまでいる妊娠中絶に関しては正真正銘の人間の問題と道徳律の枠から外されて判断され勝ちである。人体とその良心を分離して事がすすめられるのである。告白場の良心糺明は別としても母性の立場にある人々のカウンセリングにあらわれるいちじるしい事実を問題外に置く訳にはいかない。

この問題をその母親独りの迷いや悩み試練として放棄すべきではない。私たちは彼女等の側に立って、彼女等の良心の汚染を避けさせるに十分な勇気と信頼を与え、人間の人間に対する尊敬を回復すべきである。これが子を宿した母親に私たち皆が結ばれているきづなであり私たちに可能な援助を与える理由でもある。

微光

梅見月とも呼ばれる二月の声を聞いて、ほのぼのした解放感を覚える。いくらか、身軽になった、と思う。寒さからの解放までには少々時間がかかるとしても、冬のきびしさ、重苦しさは日を追って去りゆくであろう。眠っていた大自然は活動を始め、その美しさを楽しませる季節となった。正確には、眠っていたのではなく、黙々と厳しく生きてきたのである。かれは人間社会に優しく生命のことばを語りかけていたのではなかろうか。▼生命の讃歌を高らかに唱う大自然は、われらの味方である。「生きる」ことの美しさと厳しさを教えてくれる先輩である。美しい人生は厳しい生き方によって実現するが、美の本源を直視する心が肝要。美しいものは美しいものとして卒直に認め、醜いものを美化してはならない。百鬼夜行の社会において美醜倒錯の事例は枚挙にいとまがない程である。美の本源に札束を置き換えてはなるまい、金銭がすべてを新たにするのではない。▼月末は灰の水曜日、四旬節の開幕である。「回心」と「生活の刷新」を空念仏に終わらせないためには、過度の欲からの解放、「おごり」と「ひがみ」に挑戦してみては？ 美しい信者を目指して出発進行、これが四旬節の青信号であろう。華麗な人生は、生活の形式にではなく生きる心に注目したい。奉仕の原点が問われることになる。誰が、神との一致の心で奉仕する人以上に、美しい信者を想像できよう。自己本位の生き方に灰をかけて、新しい生活の歌を作ろう。

事務用機器・コンピューター・学校用・幼稚園備品

㈲シオタ事務機・㈱日本幼育社

社長 カシミロ・塩田五郎

福岡市南区大楠2丁目23—15（西田ビル2F）

TEL 代表 092（521）—8266—7

Custom Tailor

糸永洋服店

福岡市中央区浄水通8—8

TEL 531—3831

夜間 521—0820

＜教区大神学生紹介＞

ラテン科一年生　川上惣一

木枯しの吹きぬけるスルピス丘―厳しい寒さと戦いながら、将来の司祭職を夢みて修練に励む神学生たちの、静かな、真冬の館―その中に、寒さなんかどこ吹く風…ただひとり気を吐いて、大自然の厳しさに立ち向いながら、〝じっとしていられない〟ほどの快活で、にぎやかな男がいる。小倉教会出身の川上惣一神学生である。

四十七年四月に小神学校へ入学、泰星高校を卒業して、五十三年四月に大神学校へ入学、現在ラテン科一年生である。

大神学校生活も、一年になろうとしている今、一年を振り返れば他の神学生に比べて、自分自身の甘さと物足りなさが反省させられてならないという。しかし、小神学校時代に比べて、神様との一対一の対話の機会の多さや、霊的生活の充実感、霊的緊張感からくる自覚と責任の必要性を痛感させられた一年間だったと語っていた。

「司祭像は？と問えば、『アシジの聖フランシスコが目標です。貧しさの中に、ひた向きに人々に仕える司祭、何ごとにも忠実で、口で言うことを実行に移す…キリストの福音を態度で、体全体で示すような、行動派としての司祭になりたい』という力強い返事が返ってきた。

神学校生活の中で、時折、何げなくひとりになって、孤独を感じる時の自分が一番こわいという。しかし、これも、司祭職を目ざす者としての当然の宿命と思って、それに耐え、ガマンの精神を養うよう努力することが目下の課題だという。

明朗、快活、めでたき、にぎやかさの面では、今やスルピス丘を生耳っているような風格を感じさせる反面、気の小さな、おとなしい、小羊のような一面もある。とにかく、ヴァラエティーに富んだ神学生である。

『いずれにせよ、司祭職にすべてを賭けて、ただ、がむしゃらに、何が何でも…』という、体全体からにじみ出るようなファイトに〝こいつは大物…〟という印象を受けた。

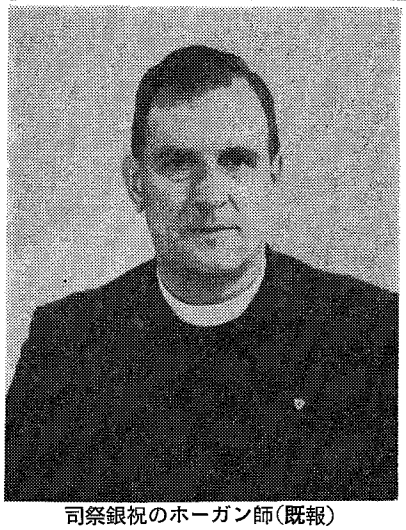
元気一杯、気迫みなぎる当神学生のために、多くの祈りと励まし―をお願いしたい。（文責・竹森）

二十歳の決意を胸に秘めて
福岡の教会合同成人式

福岡市内の教会に所属する満二十歳を迎える男女信者は、一月十四日(日)「成人の日」の前日、教会合同のお祝いを受けるために大名町カトリック教会に参集した。

市内の九教会から参加した信者とサン・スルピス大神学生の成人男女併せて三十八人の若者が、十時三〇分から始まった平田司教と青木師、竹森師の共同司式ミサに与かった。

ミサ後祝賀パーティーになったが、平田司教並びに大名町教会主任司祭青木師から激励の言が捧げられた。その後成人ひとり一人が自己紹介とともに、将来の抱負を披歴したが、やや緊張気味のようであった。長い人生のコースにおいて成人式は一ぎりを意味するであろうが、人生の花の時代、エネルギッシュにみちたこの時期をむだに過ごすことはできないであろう。責任ある社会人として世間の荒波を乗り越えて進まなければならないかれらは、他力本願の甘たれた気持を棄てさる必要がある。積極的に社会に参加し、協力してゆく強い決意が大切ではなかろうか。



司祭銀祝のホーガン師（既報）

〝愛の街頭募金結果報告〟
（昭和53年度）

収入 教会名	募金額	支出 配分先	金額
福岡地区			
名水町	30,306	しいのみ学園	40,000
大浄水通	65,719	心身障害児を守る会	40,000
光ケ丘	79,443		
西新	53,326	古処学園	80,000
美野島	37,500	今村聖母園	150,000
高宮	90,565	清心園	100,000
老司	93,000	聖ヨゼフ園	100,000
呉塚	21,415	留天使園	100,000
茶山	40,950	久米野園	100,000
箱崎	19,118	北野老人ホーム	33,500
大橋	54,259	吉野浜寮	33,254
東島	40,000	小明老人ホーム	50,000
吉田	28,118	有ヶ丘学園	50,000
日賀	82,277	福岡教会	70,000
牟田	75,860	カリタス、ジャパン	189,112
吉野	55,186		
今村	187,502	ビンセンシオ、パウロ会	124,000
福岡	88,859	西日本新聞事業団	100,000
女子学院	100,000	諸経費	29,211
信愛女学園	145,674		
明光学園			
計	1,389,077	計	1,389,077
北九州地区			
門司港	112,000	カリタス、ジャパン	552,773
門司	139,090		
小倉	100,530	聖心育児園	100,000
八幡	58,614	天使育児園	60,000
戸畑	166,490	光の園	60,000
若松	250,000	聖ヨゼフ園	60,000
水巻	89,000	あすなろ園	60,000
湯川	111,849	聖家族園	60,000
行橋	161,650	ひびき園	60,000
新田原	43,550	暁の園	60,000
		希望園	60,000
		石並園	20,000
		交通遺児を守る会	40,000
		わたぼうしの会	40,000
計	1,232,773	計	1,232,773
熊本地区			
手取	95,526	熊本市社会福祉協議会	678,075
ホーイスト	73,614	福祉カード協議会	
カトリック案内所	2,057	内訳作成料他	(135,970)
健軍	92,106	カード使用料	105,000
島崎	249,069	一般使用	25,000
帯山	97,780	道路使用料	
聖心修道院	203,893	許可手数料他	5,970
計	814,045	計	814,045
合計	3,435,895	合計	3,435,895

会合と催し

▽平田司教
2月3日　熊本地区信徒職
議会の理事会と歓迎会

▽福岡黙想の家
2月1日　浄水通婦人会黙想会
5～6日　プロテスタント九州教師の集い
11～13日　福岡S・V・P外人宣教師の集い
12～17日　東田島青年黙想会
18～25日　施設修道会研修会
カテキスタ役員会合

（人事異動）

一月十三日付
聖パウロ修道会福岡修道院長夫津木昇師（福岡修道院付）▽聖パウロ修道会本部永富久雄師（福岡修道院長）

＜祈禱の使徒＞
会の意向
（一般）東方教会との完全な一致
（布教）ウガンダの教会

▽4日　玉名の黙想の家祝別式
6日　司祭月例集会
12日　安田大阪大司教着座式

内科、放射線科、循環器科、消化科
正金診療所
院長　古賀明恭
福岡市中央区天神4丁目80　福岡ショッパーズプラザセンタービル7階
休診日日曜、祭日、ダイエー定休日　TEL（713-7912）
診療時間　午前10時～午後5時　昼休み　午後1時30分～2時15分
土曜日　午前10時～午後3時　昼休みなし

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1―4―23
TEL 771―3657

〈羊飼いの牧場〉

子は神からの預かりもの

山田成章

歪んだ愛の道行である心中事件が日常茶飯事となったのだろうか。新聞紙上に一つや二つの心中事件を見る日は稀れではない。とくに、親子心中、一家心中のニュースを聞くとき、同情を通り越して憤りを感ずる。無力な児童は好むと好まざるとに拘らず、親の身勝手な判断によって死地に追い立てられていく。何人と雖も、人間の生命を私物化することは許されない。如何に人間的に同情すべき理由があっても、原則的には、生命を左右する神以外に侵す権利はない筈である。

結婚の原点からみれば、夫婦は一つであることを自覚し、また強く望んだことを記憶しているであろう。男女両性の合意の下に成立した婚姻において二人一体となった夫婦は、近い将来親になること、子どもの出産と教育への奉仕によって聖化されたものになるのである。実に、全能の神の人間創造の大業に直線的に協力しているのは、親になったあなたたちをおいて他にあるであろうか。一人の人間の実存と運命が両親に託されたのである。正当に、家庭における神の代理者としての名誉と重荷を分け合うことになったといえる。神が人間に負えないほどの荷を与えることはありえない。親の神に対する信頼が強靱な心を育成する限り、聖書は明るい解決の道へ案内してくれるに違いない。神に、また神の似姿である隣人兄弟たちに絶望しないことが大切で、常に逆境にも強い親でなければならないと思う。

子どもは神の財産の一部分であって、人生の信仰、希望、愛のために神から預けられたものであるといえなくはない。人の姿を借りた天使、神の身内とは言い過ぎであろうか。ミサが捧げられている祭壇の近くにまかり出る幼児の姿を敵視する者は少なくないが、かれらは小さな悪魔ではない、可愛い天使である。「そのとき、接手して祈ってください」といって、人々が子どもをつれてきたが、弟子たちが押しとどめると、イエズスは『子どもたちをうちやっておけ。私のところに来るのをとめるな。天の国をうけるのは、このようなものたちである』とおおせられ、かれらに接手してから、ここをお去りになった」（マタイ19の13―15）。

子どもは神の愛の生きた印である。神は困難にして神聖な結婚生活を続ける両親を見届けることなく、必要に応じて喜びを与え激励してくださる。子どもに恵まれ、育てる親の満足感をどのようにに表現できようか。この喜びの中に、親は神がほんとに愛してくださっていることを確認できると同時にその信仰が堅固なものに発展するのを知るのである。

子どもは親の希望を増大させる。病気、困難、不幸などの逆境の中にあっても、子どもを見ることによって無言の声援を膚に感じ取る。その時、親はこの子のためにも明日もまた頑張ろうと決意を新たにするに違いない。子どもに対する期待は成長度に比例して大きく脹れる。子どもへの不安と期待の交錯を感じつつも、期待に優先権を置いて成長を見守るのが親の本心であろう。要するに、子どもは神からの預かりものであるという認識を深めることも親の要理教育の一端ではなかろうか。

本年は「国際児童の年」と決められている。児童の人権の尊重と確立が叫ばれてからかなりの年月を経過しているが、児童の人権無視からくる悲劇は後を絶たない状況である。無力な（無能と同一ではない）被害者は親や大人のなすがままである。児童が人間らしく生きることは正当な権利であって、贅沢な自己主張ではあるまい。自分の意志に反して、ある不正を強要されたり、死への道連れにされることは論外である。子どもは親の附属品であってはならない。親のために子どもがあるのではなく、子どものために親があると理解したい。

然し、健全な社会人・信徒の姿に成長した子を見る時、親のこれまでの苦労は吹き飛んで面目躍如となる。正に、子は親の勲章である。子どもが「神からの預かりもの」であるならば、私利私欲のために育てることは避けなければならない。子どもの全人間的教育を神の栄光の器作りとうけとめ協力することこそ親の生き甲斐でなくてなんであろうか。「彼は栄ゆべく、我は衰うべし」この言は親子の立場にも通用しそうである。栄えゆく子の姿に、親はわが身の楽しみを忘れて拍手を送る者であろう。親は受け継いだすべての善いものを、次代の子に惜しむことなくバトンタッチしなければならない。神から預かった子どもは未完の器である。堅固な大器にするか脆い素焼ものになるか、人作りのプロとなった親の両手にかかっている。その責任はまことに重大といわねばならない。

（浄水通教会主任）

カテキスタの研修会

記

一、日時　二月二十五日（日）午後一時～五時
一、場所　福岡黙想の家
一、テーマ　〝受難と復活〟（マテオ福音）
一、講師　イエール神父
一、持参すべきもの　聖書
一、主催　福岡教区カテキスタ会

頑張ろう、この一年

教区司祭の新年集会

一月九日（火）、真冬の時候にしてはいく分暖かい日であった。福岡教区では、恒例の教区司祭の新年集会を催した。

先ず、司教館隣りの浄水通カトリック教会で午前十一時から、七十人近くの司祭団が平田司教と深堀老司教を囲んで共同司式ミサを行った。司教はミサの説教において、年頭に当たっての四つの願いと福音宣教者の精神を訴えた。

「現代の世相は不安と不確実性の時代である。特に、経済的不況は人心に深刻な影響を与えており、人々は心の糧をも求めている。

㈠教区誕生五十周年の標語である『キリストを知り、キリストを知らせよう』はキリスト信者とその共同体である教会の大使命であり、終わることのない課題である。キリストをよく知った人、つまり深い信仰の人だけがよくキリストを知らせ、キリストに引きつけ、キリストを愛させることができる。宣教者は聖書や祈りと黙想、ゆるしの秘跡、中でも聖体の秘跡を通して信仰生活を充実してゆくことが大切。

㈡明日の司祭養成は教区の最大の関心事であり、大事業である。世界の宗教状勢が大きく変わり、司祭・修道者の召し出しが減少している今日、明日の教会を指導する司祭や修道者が自分のところからもっと出るよう努力し、将来に備えなければならないと思う。

㈢懸案の司教座聖堂と司牧、宣教センターの建設について、準備委員会の仕事があまり進捗していないが、早く実現するようご協力をお願いする。

㈣『国際児童年』に決定した今年、児童の権利の擁護と健全な育成は現代社会の緊急課題であるが、家庭や教会における児童の信仰教育に尚一層の努力をして頂きたい。さて、パウロ六世教皇の使徒的勧告〝福音宣教〟によれば、福音宣教を活気にみちた実りあるものにするためにいくつかの必要条件があげられている。福音宣教者は信仰と熱意をもって、絶えず聖霊に祈り、その導きに忠実に従うこと。現代人の心を動かすのは、真正に神を知り、神に親しんでいる人。最後に、福音宣教する人々が互いに一致していなければならない。キリスト教徒の一致は、みんながキリストに従う者であることの証しである。本年もこれらの精神を生かして、神のみ国の発展のためにご活躍を期待する」。

ミサ後、司教館で祝賀会に移った。多くの宣教の仲間が一堂に会合し、食事することは楽しいことである。飲むほどに、食べるほどに歓談はつきない賑やかさであった。楽しい雰囲気作りにかけては外人宣教師にはかなわないようである。余興のプロデュサーとしては常に外人に一目置かざるを得ない。ブドウ酒で鍛えた美声がお国自慢の愛唱歌を披露してくれたり、外人による「安来節」の踊りなど楽しい集会であった。

〝任意保険に加入してから車の運転を致しましょう〟
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険等々
福岡市中央区天神2丁目13番7号
（長銀ビル5階）ＡＩＵ福岡支店内
大石保険事務所　大石真澄
〒810　ＴＥＬ 771―4761

祭壇・洗礼盤他
石石他
理影の
大御そ
素材
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2―21
TEL 52―2417

バンザイ！聖堂建立50周年
パイプ・オルガンの手取教会

手取教会（熊本市上通町三―三四）は現在の聖堂建立五十周年を迎え、去る十二月十七日、福岡教区長平田三郎司教、熊本県内の修道会のブラザー、シスター、熊本地区の教会の信徒代表及び関係者多数を招き、記念ミサと記念行事を盛大に挙行した。

午前十時十五分、記念ミサ前にこの程新設した西ドイツ、ボッシュ社製のパイプ・オルガンの祝別があった。このパイプ・オルガンは広島音楽大学パイプ・オルガン科出身の森孝子さん（熊本市京町二丁目八―十五）の寄贈によるものである。聖堂は修道士、修道女、信徒、関係者約三〇〇人で埋めつくされ、神の大きな恵みを感謝し、手取教会の金祝の喜びをわかち合った。

聖堂建立五十周年記念ミサ

記念ミサは福岡教区長平田三郎司教、聖コロンバン会熊本地区長コーフィルド師、手取教会主任代理オカロル師の合同司式で行われた。平田司教はミサ中の説教で、熊本地区の宣教の概要を説明し、パリー外国宣教会の崇高な布教精神を称えた。「熊本地区に福音の光がさしたのは十七世紀の始めであったが、迫害のため教会の発展を見ることが出来なかった。今から約一〇〇年前にパリー外国宣教会のコール神父が来日し、肥後地区の宣教を始めた。三〇坪位の教会を建てたのはその後一〇年位たってからである。コール神父は教会の建設と同時に効きイエズス会を招き宣教に励むと共に、島崎にマリアの宣教者フランシスコ修道会を、八代にシャルトルの聖パウロ修道会を迎えて熊本地区の宣教の礎を築いた。今日は手取教会の金祝であると同時に又一〇〇年祭の喜ばしい日でもある。このめでたい日に森孝子さんから西ドイツ製の立派なパイプ・オルガンを寄贈して頂き、福岡教区としては始めての、パイプ・オルガンの美しい伴奏によってこの五十周年祭を祝うことはほんとうに慶ばしいことである。福岡教区は五十一年前に長崎教区より分離し独立して昨年五十周年を迎えたが、パリー外国宣教会のボア神父は福岡教区が誕生した頃にこの教会を建てチリ司教が祝別した。そして三十年前に聖コロンバン会の司祭が来て、この手取教会を母なる教会として熊本市内の健軍、島崎、帯山に新しく教会をふやし、パリー外国宣教会が築いた教会を一層充実したものにした。今日の福音（ヨハネ一の六―八、一九―二八）にあったように、私たち一人一人が先駆者ヨハネとなってキリストのご来臨を準備し、宣教の精神をもって、この世の物欲、肉欲や快楽に捕われている人々を罪の負債から解放して神の子としての自由を喜ぶことができるよう働いてほしい」と、結んだ。

新設のパイプ・オルガン

記念ミサのあと、引き続き信徒会館ホールで祝賀会が催された。祝賀会の席上、主任司祭グリフィン師がアイルランドへ帰省中のためオカロル師が代って挨拶した。

手取教会は八十九年前に始まり完成するまで三十九年の長い年月がかかった。これを支える柱は信徒である。信徒は来ては去り去っては来て、常に移動し人は変わって行くが、教会の共同体は永遠に変わることはない。この変わることのない共同体こそ教会の中心である。また長年の夢であるパイプ・オルガンが森さんによって実現したことを深く感謝した。次いで平田三郎司教の祝辞、聖コロンバン会熊本地区長の挨拶が続いた。その中で聖コロンバン会はパリー外国宣教会が長い年月をかけて作った教会を一時的に預っているに過ぎない。この教会を一日も早く邦人司祭の手に渡せる状態になるよう望む。然しながら、聖コロンバン会の司祭は毎年老令化し、働く司祭は少なくなり、新しくなる司祭は極めて少ないので、信徒の家族での日常の信仰生活の中で、司祭への召命を頂く子どもを育成し、聖コロンバン会の司祭の後継者となる司祭が誕生するよう協力を求めた。その後、熊本地区信徒使徒職協議会長高木慶治氏などの来賓の祝辞があり、和やかな会食のうちに二時三〇分に散会した。

なお、午後五時から約一時間パイプ・オルガンの演奏披露会が行われた。森孝子さんの演奏で、曲目はブックステフーデ作曲プレリュードとフーガ他七曲であった。

（二月年忌の司祭）

◎ヨハネ・オマラ師（聖コロンバン宣教会）一九七四年二月十四日帰天。
◎フランソワ・ベルトラン師（パリー外国宣教会）一九四〇年二月二十二日帰天。
◎ヨゼフ・ボア師（パリー外国宣教会）一九五七年二月十七日帰天

味に生きる〝まるわ〟の
かまぼこ、てんぷら
まるわ水産加工有限会社
代表取締役　マテオ　下田数信
福岡市西区神后町　TEL 881―1135

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話　52―3306
　　52―8622

建築設計監理
教会・修道院・学校・幼稚園・他
菅建築設計事務所
所長　菅　種雄
福岡市中央区警固3―11―14
TEL　092・741・8852

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL 521―0568

カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行兼編集人 山田成章
電話092—522—5139
振替口座 福岡42981
定価 一部 20円

共同訳聖書作成資金募集

一、募金額 五百万円
一、方法 一口五百円
一、送り先 本誌編集部
寄付者

（パパさまは語る）

一月二十四日の一般謁見における、ヨハネ・パウロ二世教皇のお話しの要約である。

一、ご公現の祝日にマタイ福音書を黙想しました。東方からの博士たちがエルサレムに登場することを記念する日です。

「家に入って母マリアと共に幼子を見出し、ひれ伏して礼拝し宝箱を開いて黄金、乳香、没薬をささげた」（マタイ2の11）とあります。

本日私たちはこの王様とも博士ともいわれている三人に思いを止めて見ましょう。マタイ福音書の簡素なテキストは神と人との出会いの実質的要素が明らかにされます。「彼等はひれ伏して礼拝した」

ひとが神と行き会うのは、尊敬と愛と礼拝の行為の中においてである。そしてラテン語の礼拝行為と言う言葉クルトスはクルトウラと言われる文化、教養と密接な関係があるようです。即ち、人間社会の文化と呼ばれる多様なものの中に神的なものに向う賞賛とか尊敬の念、人をより高いお方に結ぶ実質が含まれているものです。またこの福音のもの語りの中にうき彫りにされている人との出合いのもう一つの要素のことに気をつけて見ましょう。

「彼等は荷を開いてささげ物をささげた」とあります。

この言葉でマタイは礼拝の相手の確認とともにその出会いを彼等に得させた人間の宗教体験の実態を示しているのです。ただ抽象的な神の概念からはこの宗教心は生まれて来ないものです。ひとは神と行き会う時にだけ初めて神を知りおのれの人間としての〝我〟を内面的な捧げものとして差出し、その上で初めて、神の賜物と自分自身との交換が成り立つのを悟るでしょう。

母の懐に抱かれた幼子の前に跪く博士たちは、ご公現の輝きのもとに神のたまもの—託身の神秘の中で神ご自身を与えられるという妙なる贈りものにあづかるのです。

福音の同じ箇所に「彼等は宝箱を開いてささげものを奉呈した」とあります。マタイはその捧げものを具体的に三つあげて居ますが彼等がひらいて捧げるのは彼等自身であり、自分の内なるもののすべてのささげであって黄金、乳香没薬は単に外に見える表現であります。そしてこの献げ物の中においてこそ公現の果実があり、彼等は神を認め、神と出合ったのであります。

二、皆さんとここでマタイ福音書を一緒に考えていると〝異邦の人々の光〟と題された故パウロ六世の教勅のことが思い出されます。ご公現の祝日は教会の普遍性その普遍的使命の祝日であると言えましょう。公会議の公文書には次の様にしるされています。

「地上のすべての国民の中にただ一つの神の民が存在する。神の民はその市民として地上的ではなく天の王国をなす市民をすべての国民から集めるのである。世界中に散在する信者は聖霊において互いの交流を保ち、ローマに住むものはインドの人々と互いに肢体の関係にあることを知っている。教会こそ神の民であるが、何処の国民からも地上的富を決して取り去るのではなく、かえって諸国民の能力や資質や風習を受け入れこれを清めなお高揚しようとする。神の国は諸国民が遺産として王に与えられ、彼等が自分たちの都に贈りものを携えて来る詩篇七一のイメージを含んでいるのである。

神の民のこの麗しさをつくり出す普遍性こそは主ご自身の賜ものであり、頭であるキリストのもとで、その霊の一致の中で教会は諸国の民をその富とともに集めるのである。又この普遍性の力で各部分は他の部分に引いては教会全体に各部分がよきものをもたらし部分全体が他と共有しその努力が一致の極へと導く、こうして神の民は諸民族の一致をつくり出してゆくのである」（異邦人の光13）

ここで私たちはご公現の福音が物語る姿を現代に見ることが出来る。それは更に大きな拡がりを持ったものです。幼子としてベトレヘムで博士達の献げものを受ける同じキリストに今日では全人類が彼等の宝箱をひらく。託身された神へ開かれる人間精神の捧げ物は特殊な性格を帯びる。即ち現代の多様な文化それぞれの霊的な宝が人類共通の遺産をなすのであります。

そしてこの遺産は『異邦人の光』の中にのべられた賜物の交換によってつくり出され成長してゆく。この交換の中心をなしているのは博士たちの献げものを受けた方と同じかたです。彼自身もまた託身された神の賜ものであり魂たちの心を開かせて交流を催し、ただ一個人どうしの交流ではなく全人類全民族の交換となるのであります。

私が以上のべた事は当然明日からのメシキコの巡礼に私の心を向けさせます。私の教皇職最初の外国旅行です。メキシコ・プエブラでのラテンアメリカ司教会議の機会が与えられました。メキシコ共和国の政府の方々のご好意を心から感謝して私のこの様な司牧のつとめを果たさせていただく訳であります。

かの国で私は各地からのグアダルーペの聖母の巡礼団の一人となることを楽しみにし、聖母は私にも諸国民を、教会を、諸大陸をよりよく理解出来るようにさせて下さるものと思います。また私の心の交流の途をかの他の教会、国民の皆様に開いてくれることを願って行ってまいります。（伊東師訳）

中米旅行に期待する意味
—＜人類への神の贈りもの＞—

微光

外見上、女性上位では、と思うナザレの聖家族に違和感をいだくご仁があるのでは？黙々と仕事に精出すヨゼフの姿に弱々しい夫を想像して、いらだちを覚える殿方も少なくあるまい。現下の世相は家庭の重圧に喘ぐ（？）父親に必ずしも味方していない。まして、家庭における信頼度は母親に一歩も二歩も譲る状況である。家庭の孤児になりつつある父親・夫は、ここらで一奮起願いたいものである。▼ヨゼフは頼母しい、強い男性であった。また、相手を労わる誠実な人柄がうかがえる。「母マリアはヨゼフと婚約していたが、二人がいっしょになる前に、聖霊によって身ごもっていることがわかった。夫ヨゼフは正しい人であったので、マリアのことを表ざたにすることを望まず、ひそかに縁を切ろうと決心した」。（マタイオス1の18、19）マリアの懐妊が神の思召しに由来することを知らなかったヨゼフの心中は、察するに余りあるものがある。▼三月は聖ヨゼフの月であるが、その掛け声は全国的にうら淋しい。さて、ヨゼフの生き方から何を学びとることができようか。強い男性のイメージは自己本位、独裁、頑固を連想し勝ちであるが、常に排他的人物を意味するものとは限らない、誠実さを共有することも考えられるのではないか。家庭中心に生き抜く勤労者ヨゼフのお手本は、現代の父親に多くの教訓を遺していると思う。家庭を愛することが、部分的にではなく全面的に、誠実さによって裏付けされて欲しいものである。

事務用機器・コンピューター・学校用・幼稚園備品
㈲シオタ事務機・㈱日本幼育社
社長 カシミロ・塩田五郎
福岡市南区大楠2丁目23—15（西田ビル2F）
TEL 代表 092（521）—8266—7

Custom Tailor
糸永洋服店
福岡市中央区浄水通8—8
TEL 531—3831
夜間 521—0820

教区の慶事—司祭銀祝5人組

黒川、堤(要)、田川、山川、牧山(重)の諸師

来たる三月十九日、黒川博師(大牟田主任)、堤要吉師(大楠主任)、田川清美師(馬渡島主任)、山川辰幸師(新田原主任)の四師は司祭受階二十五周年を迎える。また、三月二十一日に牧山重光師(本郷主任)が司祭銀祝の喜びに入る。

ペトロ黒川博師は一九二一年朝鮮仁川の生まれ、一九三四年福岡小神学校(旧泰星中学)入学以来一貫して大神学校へ進んだが、一九四二年六月兵役のため休学の止むなきに至った。終戦後シベリア抑留の身となり、一九四八年九月復員とともに復学する。一九五四年三月司祭に叙階、久留米、今村、熊本各教会の助任、地行教会主任など歴任して現在に至る。

ミカエル堤要吉師は一九二三年長崎市飽の浦に生まれる。一九三八年福岡小神学校(旧泰星中学)入学、サン・スルピス大神学院へと続いたが、一九四三年十二月兵役のため休学。一九四七年九月復学一九五四年三月卒業、めでたく司祭職に選ばれた。一九五四年四月馬渡島教会助任兼海の星学園教諭一九五八年一月二日市教会主任。一九七〇年七月大楠教会主任となり現在に及んでいる。

ドミニコ田川清美師は一九二六年長崎県北松浦郡田平町の出身。福岡小神学校(旧泰星中学)サン・スルピス大神学院を卒業して、一九五四年三月司祭に叙階された。兵役の試煉を受けている。司牧経験として、今村・久留米・大楠・呼子(松島)教会の助任。その後馬渡島教会主任となり十六年目に入っている。

マテオ山川辰幸師は一九二八年長崎県南松浦郡岐宿町の生まれ。一九四一年福岡小神学校(旧泰星中学)入学。一九四六年福岡サン・スルピス大神学院入学、一九五四年三月卒業、司祭に叙階される。一九五四年四月大名町教会助任、一九五八年久留米教会助任。一九六一年吉野教会主任、一九七〇年から新田原教会主任となる。

フランシスコ・ザベリオ牧山重光師は一九三〇年佐賀県東松浦郡馬渡島に出生。一九四二年福岡小神学校(旧泰星中学)入学。一九四七年福岡サン・スルピス大神学院入学、一九五四年三月卒業、司祭に叙階。一九五四年四月福岡小神学校、一九五六年四月呼子教会で病気静養、一九五七年二月吉塚教会助任、一九五八年四月大名町教会助任、一九五八年八月福岡司教館、一九六四年八月大楠教会助任、一九六六年二月福岡司教館、一九六七年九月呼子教会主任、一九七〇年以来本郷教会主任。

(写真右から黒川師、堤師、田川師、山川師、牧山師)

三月年忌の司祭

▼マクシム・ボネ師(パリー外国宣教会)一九五九年三月十九日
▼エウゼーヌ・ジョリ師(パリー外国宣教会)一九六六年三月六日
▼フランソワ・マリー・ヴェイヨン師(パリー外国宣教会)一九七三年三月十二日
▼ルイ・マリー・ベリボー師(ドミニコ会)一九七七年三月十六日帰天。

出湯の町に黙想の家

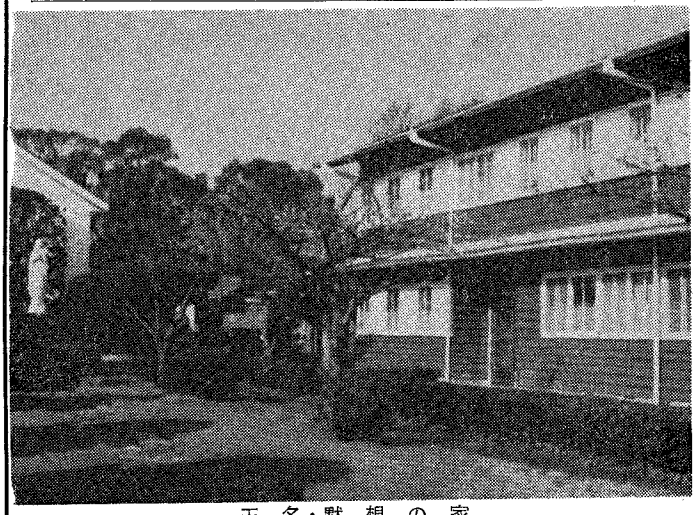
玉名カトリック教会

この度、玉名カトリック教会に完成した黙想の家"聖母の家"の祝別式が、去る二月四日(日)午前十一時三〇分から、平田司教の手によって行われた。また、平田司教と熊本信徒協指導司祭でコロンバン宣教会熊本地区長のコーフィルド師、玉名教会主任キルケニ師の合同司式でミサが捧げられた。

この建物は、女子高校生の寮として造られ、使用されていたが、熊本県信徒協の工事費負担で黙想の家に改造されたものである。

祝別式に先だち、早々と二月三日(土)午後六時から四日(日)午後三時三〇分まで、県信徒協理事たちの黙想会が平田司教の指導の下に開かれた。

この黙想の家は国鉄玉名駅から歩いて約一〇分、国道二〇八号線からも近い。バスなどの交通の便が良く、広い庭と静かな環境は黙想や研修などに最適の場所といえる。部屋数は個室二十六を有し、炊事場も完備している。ただし、専属の炊事人はいないので、食事を必要とする場合は自前で考慮する必要がある。繁華街からも遠くないので出前など利用できる。


玉名・黙想の家

(教区人事)

◎エキュメニズム教区担当　鈴木忠一師◎クルシリオ教区担当　深堀勝人師

修道誓願二十五周年

シスターアウローラ竹崎(師イエスズ修道女会)

福岡司教館の受付事務を担当しているシスターアウローラ竹崎は、二月二十五日(日)師イエスズ修道女会日本管区本部において、同僚四名とともに修道立誓願二十五周年を祝った。

シスター竹崎は長崎県北松浦郡生月町の出身で、この修道会の第一回の入会者グループの一人である、と聞いている。ローマで修練、初誓願を立て、二年後に帰国して本部で活躍。数カ年アメリカにも滞在している。東京のピエタ(典礼サービスセンター)を経て現在に至る。

スルピス大神叙階式

山元(助祭)
松井(教会奉仕者)

来たる三月十六日(金)午前十時から、福岡サン・スルピス大神学院で、松永長崎大司教区補佐司教の司式による叙階式が行われる。

今回は九人の受階者であるが、七人は長崎大司教区、二人は福岡司教区神学生となっている。小倉出身の松井神学生は教会奉仕者に、山元神学生(新田原出身)は助祭に叙階される。

内科、放射線科、循環器科、消化器科
正金診療所
院長　古賀明恭
福岡市中央区天神4丁目80　福岡ショッパーズプラザセンタービル7階
休診日日曜、祭日、ダイエー定休日　TEL (713-7912)
診療時間　午前10時～午後5時　昼休み　午後1時30分～2時15分
土曜日　午前10時～午後3時　昼休みなし

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1—4—23
TEL 771—3657

〈羊飼いの牧場〉

召命とは？

夫津木 昇

現在、日本のどの教区においても叫ばれているひとつの問題がある。それは、司祭・修道者の召命の減少ということである。人はよく「現代社会を考えると仕方がない」現象という。しかし「仕方がない」だけですまされることであろうか？すでに遅すぎる感はあるが、「召命とは何か」について考えてみる必要があろう。

「召命」、「召し出し」ということばを聞くと、私たちは、それは神さまからの何かすばらしい特別の恵みであり、いわゆるエリートに属する人々にだけ与えられるものであって、自分には関わりがないものとして無関心になってしまう。なるほど、召命は神さまからの特別な恵みに相違ない。しかし、召命についてよく考えてみると、キリスト者にとって、召命のない人生なんてありはしない。なぜなら、私たちひとりひとりの人生すべては、神さまがひとりひとりに与えてくださったものであるし、又、それに必要なお恵みをも与えてくださっているから。キリスト者の人生は、自分だけのものではなく、自分と他のすべての人々のためのものである。「私」のいのちは神からいただいたものであるし、結局は、神さまのものだからである。

旧約の人々は、自分の子どもは神さまのものであると考えていた。特に長子については「はじめて生まれるすべての子ども……を主にささげよ……主のものだからである」との考えから、聖母マリアさまも幼児イエススを主にささげられた（ルカ2の23）。そして聖母マリアさまはこの精神をもって「フィアト」（神のお望みのままに）と返事し、公生活中はイエススの後につき従い、そして、十字架上のイエススを仰ぎみたにちがいない。私たちも聖母に倣い、自分の好みによってではなく、神さまの望みのままに生きなければならない。神さまが、私たちひとりひとりに与えられている生き方そしてそれに応えるのが広義での召命ではないだろうか。

狭い意味での――そして私たちが通常口にしている「召命」もある。これはある意味では、特別な「召命」・「召し出し」と言ってよいかも知れない。つまり、ある人が司祭職や修道生活など人々の必要のために特別な招きを受け使命を与えられることである。私が「ある意味で」と言ったのは、神さまがある人に司祭として、あるいは修道者としての生活を与えられたとしたら、その人にとってもはや、司祭生活・修道生活は最も自然な生き方となり、特別な召命とはいえないからである。

キリストの教会にとって、司祭のいない教会なんて存在しないし司祭がいなくなると私たちは誰の手を通して諸秘跡にあずかり、どのようにしてキリスト者として成長することができるのだろうか。修道者についても同じことがいえる。各修道会は、それぞれ教会の聖務のある一部を特に受けもっているし、又、修道者の祈りがどれほど教会の活動に生命を与え、力となっていることだろう。それ故、「召命」について、私たちは無関心であってはならないし、むしろ、キリスト者は、生涯の間に一度は「召命」について考えるべきである。これはまず自分自身からはじまり、友人・知人へと拡がっていくべきものであろう。又、人の親であるならば、この「召命」は自分の子どもには関係ないものとしてではなく、自分の子どもにこそ神さまの招きがあるように祈り、方向づけるように努めなければならない。

「神学校や修道会に入れるには成績が良くないから――」、「もし途中で帰って来たらまわりの人に対して顔がたたない――」という。私たちの「召命」や霊魂の救いは学校の成績によって決められるのであろうか。私たちの最終目的は、神のもとでの永福である。極端に言うなら、私たちは神の前でメンツが立てば良いのである。神さまの知恵は人間の知恵よりもはるかに偉大である。神さまは、ある人に神学校や修道院での生活を経験させて後、その知識をもって一般社会人としての生活をさせることもあるのではないだろうか？「信者が司祭をつくる」と言われているように、信者がよりよい信者をつくるということも真実である。だから、かって人々が口にしていたかも知れない「神学校くづれ」や「もどり」ということばによって、それを口にする人の信者としての程度をはかり知りうるだろう。なぜなら、彼らは、神のみ旨を理解せず、自分自身のたかがはかり知りうる考え――あえて理性とは言わずにおこう――によって神の計画にイチャモンをつけていることになるからである。私たちは神に向かって矢を射ることなく、むしろ、神の声に耳を傾けこれにすなおに聞き従うよう心していなければならない。

（聖パウロ修道会司祭）

会合と催し

▽平田司教
3月4日 鳥栖カトリック教会献堂式、修女連
8日 聖書週間準備委員会
16日 大神助祭叙階式
17日 久留米信愛短大卒業式
18日 光ケ丘助祭叙階式
25日 本郷教会堅信式
30～4月1日 大江黙想会
▽福岡黙想の家
3月1～2日 高宮教会青年会の黙想会
3～4日 大名町教会のヨコの会
5～7日 聖アウグスチノ修道会の研修会
13日 外人司祭の集い
3月18～24日 ナミュール・ノートルダム会の黙想会
25～29日 カリスマテック黙想会
29～30日 バプテスト城南教会の集い
31～4月1日 地区青年会の黙想会

終生誓願に祝福一杯

シスター酒井（サンモール会）

ポカポカ日和の小春かえり休日、二月十二日(月)サンモール修道会のシスターマリア、マグダレナ酒井文世の終生誓願式が行われた。午前十一時から、浄水通カトリック教会で、山田成章師を主司式者に七人の司祭の共同司式ミサではじまった。教会内は近親者、サンモール修道会本部や支部修道院の代表、近隣の修道会代表、地元教会の信徒で一杯となり、「キリストの生涯の花嫁」の前途を祝福した。

シスター酒井は一九三一年静岡に生まれ、静岡聾唖学園中学校から高等学校に進み、高校一年の時受洗した。卒業後、静岡の教会経営の幼稚園に奉職したが、不幸にしてつぎつぎと両親に死別する破目になった。しかし、シスター以前の娘に受洗した両親は天国に旅立つことができたのである。一九六七年九月サンモール修道会に入り、一九七〇年初誓願を捧げた。その間、玉川大学教育学部教育学科を卒業、長崎、福岡で教育事業に従事し現在に至っている。

シスター酒井（花束の人）

〝任意保険に加入してから車の運転を致しましょう〟
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険等々
福岡市中央区天神2丁目13番7号
（長銀ビル5階）AIU福岡支店内
大石保険事務所 大石真澄
〒810 TEL 771―4761

祭壇・洗礼盤他
石 石 他
理 影 の
大 御 そ
素材
石のパイオニア
髙木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2―21
TEL 52―2417

（教区大神学生紹介）

ラテン科一年　桜井尚明

（教区大神学生紹介）の最後は佐賀教会出身の桜井尚明神学生。四十七年三月、小神学校へ入学、泰星高校を卒業後、五十三年四月に大神学校へ入学して、現在、ラテン科一年生である。

大神学校生活の一年間を振り返っての感想を聞いてみた。『小神学校と違って、自主性を重んじ、勉強、霊性の面では、やろうと思えばどれだけでもやれる時間と環境が十分あるにもかかわらず、自覚不足で、ただなんとなく過ごした一年でした。しかし、とにかくこの一年間は、大神学校の生活そのものに慣れることに精一杯で自分自身との戦いの連続でした』と語る姿に、司祭職への辛苦のスタートという感が伺えた。

『司祭像は?と問えば、『〝男は黙って〟……控え目で、日陰に咲く花でもいい…周りの人々に、そっと〝静〟としてのキリストのイメージをアピールする司祭になりたい…』という返事が返ってきた。

とにかく、勉学、霊的生活の面でも、人並みになることが目標で神学校生活を楽しく過ごすことのできる、〝余裕〟ある日々にしたいという。

いつしか、永遠の司祭として主の祭壇に登る日を指折り数えながら、故郷、佐賀の地に錦を飾る日を夢みて、司祭職一直線に、この青春のすべてを賭けてみたい…と語る姿が、若々しく美しい。

春―大地の草花が、一斉に眠りから覚めて、自然界が新たな生命の息吹きを奏でるように、司祭職への苗園、スルピス丘の神学校でも、厳しい修業と自己鍛練に耐え抜いた若者が、また一つ、新しい司祭職への芽を吹き出して、新たなステップ、明日への挑戦に目覚めて、ファイトを燃やす時でもある。

全教区民揃って、明日の司祭職を目ざす若者、神学生たちの心意気を無駄にしないよう、祈りと励まし、犠牲と援助とを心からお願いするとともに、各教会から、司祭志願者、神学生たちの後輩をひとりでも多く送り出して頂くよう、皆さんの協力をお願いする次第である。

（文責・竹森）

移動信徒に配慮を！

今年もまた、進学・就職等で、転出・転入の多い時期となりましたが、各小教区の主任神父様をはじめ、信徒の皆様の御協力と御配慮をお願い致します。

特に、青少年の移動、中でも、長崎教区から福岡教区への転入者はかなりの数にのぼる見込みです。長崎からの転入者につきましては各小教区あてには転出入証明書の外に別紙にて御通知致します。何卒、〝新しい顔〟に対する信者青年を、皆さんの接触と誘い合わせ等で暖かく迎え入れ、配慮して下さいますように。

（教区移動担当司祭・竹森男）

○祈禱の使徒会○

（一般）移住民問題の正義と愛による解決

（布教）布教前線から引退した宣教師

〝児童福祉献金〟

（2月17日現在）

名町	88,790	大江	13,156
水通	24,755	津崎	25,000
ケ丘	21,827	島	21,000
浄新	26,600	玉名	8,000
光島	10,000	八代	11,000
西宮	30,300	雙葉学園	179,515
美野	9,712	明光学園	31,500
高山	11,401	八代白百合学園	28,600
茶木	25,300	久留米信愛短大	12,655
大楠	10,000	フランシスケン	
東島	7,800	熊本修院	10,000
老田	12,000	大濠修院	2,000
八王寺	20,000	馬渡島聖母保育園	
天神町	84,306		10,000
黒崎	15,062	小百合保育園	32,000
小倉	35,689	湯川聖母園、幼稚園	
門司港	49,125		5,000
門司	26,838	若松天使園	157,304
戸畑	10,000	戸畑天使園	62,227
湯川	21,000	大橋カトリック幼	
若松	24,000		120,000
飯塚	5,950	高宮〃	109,695
水巻	50,346	西新〃	81,300
田川	11,893	八王寺〃	59,871
田原	19,486	福岡〃	92,615
橋本	11,000	日市〃	40,282
賀茂	27,500	田川〃	115,182
行橋	10,080	橋倉〃	60,822
市原	1,350	小倉〃	183,018
米田	64,000	宮ノ尾〃	37,776
日野	18,355	菊池聖母幼	20,702
留村	5,555	ロザリオ幼	42,500
牟郷	5,000	聖クララ幼	105,404
今郡	24,888	聖ヨゼフ幼	256,385
吉里	15,000	雙葉幼	91,504
本津	5,550	本渡みこころ幼	26,775
小賀	47,000	大濠幼	45,000
伊雄	4,600	大口明光幼	15,805
唐久	9,500	直方平和幼	3,500
佐賀栖	6,800	大牟田天使幼	53,540
武雄子	5,000	門司聖母幼	70,401
多久	20,925	久留米聖母幼	99,160
鳥栖	89,891	水巻聖母幼	83,000
呼子	35,000	熊本聖母愛児幼	67,775
馬渡	10,700	合計	3,559,843

あなたの力を小さな人々に
四旬節、愛の募金運動

二月二十八日の「灰の水曜日」から始まる四旬節の「愛の募金運動」は毎年、カリタス・ジャパンが展開しているが、ことしは昨年と同じく在宅心身障害者（児）・老人や無認可の施設援助である。

―お詫び―

一月号『カトリック』に発表した〝邦人司祭育成〟献金中、光ケ丘教会三〇、二三二円健軍教会二六、二三五円が記載洩れとなっていました。お詫びいたします。

昭和54年度新年信徒総会報告の中から
熊本・手取教会

提案―

(1)ロザリオ会がマンネリ化の傾向で低調になっているので、できるだけ積極的に皆が参加しなければ折角続けても無意味になる。神父様やシスターたちが努力下さっていることを考え合せ、考えなおして欲しい。

(2)聖堂掃除が地区制になってからも、地区によっては関心がうすく、地区長さんや少数の人たちの過重な負担になっている現状である。もっと一人一人が参加しようその気持こそ大切だ、との訴えがあった。

討議―

これに対して、ロザリオ会、聖堂掃除共に、いろいろと具体的な提案や実状、意見が出され会場は白熱した。その結果、地区を中心として続け、皆が協力体制をとり現状を改善してゆくことに全員賛同した。具体的対策については検討課題となった。

一月二十八日十一時三〇分～十五時まで、参加信徒約一〇〇名。

大名町教会バザー

大名町教会は、来たる四月二十二日（日曜日）午前九時のミサ後司教座聖堂（カテドラル）の建設資金を調達する一助としてバザーを催すことにしている。抽選会、友愛セール、模擬店、アトラクションなど盛り沢山の企画で、大方のご来場を待っている。

味に生きる〝まるわ〟の
かまぼこ、てんぷら
まるわ水産加工有限会社
代表取締役　マテオ　下田数信
福岡市西区神后町　TEL 881―1135

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話　52―3306
　　52―8622

建築設計監理
教会・修道院・学校・幼稚園・他
菅建築設計事務所
所長　菅　種雄
福岡市中央区警固3―11―14
TEL 092・741・8852

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL 521―0568

カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行兼編集人 山田成章
電話092—522—5139
振替口座 福岡42981

定価 一部 20円

共同訳聖書作成資金募集

一、募金額 五百万円
一、方法 一口五百円
一、送り先 本誌編集部
寄付者

一九七九年四旬節司教教書

世の光・地の塩となろう
—「国際児童年」に因んで—

神のあわれみと聖座の計らいによって、宣教、司牧の任を託された福岡司教は、四旬節にあたり、教区の司祭、修道者、信徒一同にこの教書とともに祝福を送ります。

一、国際児童年

国連は今年一年を「国際児童年」と決め、全世界の人びとにその正しい理解と協力を呼びかけています。

国連は一九五九年に、二つの世界大戦の深刻な体験と反省に基づいて、大戦による最大の犠牲者は子供たちであったという謙虚な自覚から「児童権利宣言」を公布しましたが、今年の「国際児童年」の決定は、この「児童権利宣言」公布二十周年を記念して設定されたもので、「子供たちに幸せを」合言葉に、とくに子供たちの権利擁護と健全な育成についてのわたしたちの責任の自覚を新たにすることをその目的としています。

すでに昨年六月、故パウロ六世教皇は、国連の「国際児童年」決定に心からの喜びと賛同を表明され、ユニセフ事務局長に全面的な協力を約束されましたが、それはただに問題が時宜を得ているからばかりではなく、おそらくそこに現代のキリスト者によって果たされるべき、まさに「時のしるし」的な使命を鋭く見ぬかれたからだと思います。ところで故パウロ六世のご意向は、そのまま現教皇ヨハネ、パウロ二世に引き継がれていますので、わたしたちカトリック信者は、「国際児童年」の主旨を信者として捉え、真に実りあるものにするために積極的な協力を惜しんではなりません。

二、「児童権利宣言」は実現されたか

国連の「児童権利宣言」公布以来二十年、はたして所期の目的は達成されたと言えるでしょうか。残念ながらわたしたちは、多くの人びとの善意ある犠牲と努力にもかかわらず、けっして満足すべきものと見ることができないように思います。

世界にはひどい貧困、飢餓に苦しみ、児童福祉の最低条件すら満たされていない、開発途上国の子供たちが大勢いります。また世界各地で絶えず起きている内乱や国際紛争の最大の犠牲者は、今も昔と変わらず、罪なき子供たちであることも、事実です。

また大人たちのみにくい権力争い、横行する物質主義や無神論的思想から生まれる道徳の頽廃や利己的生き方の肯定など、いずれも子供たちの純粋無垢な心を傷げ、虫ばみ毒しているのです。最近とくに話題になっている青少年による大人顔負けの非行や犯罪、そして悲しい自殺などの直接、間接の原因は、いずれも大人社会の思想的、宗教的、道徳的頽廃に係わっていることを深く反省しなければならないと思います。

さらに、先進国、文明国の代表のようにみなされているわが国は、「人工妊娠中絶」という独特の大きな問題をかかえています。

日本が「堕胎天国」の汚名を世界にとどろかしてすでに久しくなりますが、この汚名の返上はおろか、その実行が、一般社会の慣習にさえなってきている様子を見聞きするとき、現代社会の悲劇の源をそこに見出すような気がします。

一語の弁解も、何らの抵抗もできない数知れぬ幼な子の尊い生命が、有害な物体でもあるかのように切り捨てられ、闇に葬り去られているのです。この問題の解決なしには、「児童権利宣言」を云々することはできないでしょう。

三、生命の尊さ

第二バチカン公会議は堕胎を殺人、集団殺害、安楽死、自殺などとともに最も破廉恥なこと、「文明を毒し、そのような危害を受ける者よりも、そのようなことを行う者を汚すものであって、創造主に対するひどい侮辱である」(現代世界憲章27番)と宣言しています。

このような教会の伝統的かつ公的見解は、今日高い水準にある胎生学、胎児学、遺伝学などによっても肯定され有利な証言が与えられています。

つまり、胎児といえども、われわれと全く同じ人間としての素質を全面的に備えており、人間であるということです。したがって人工妊娠中絶はまさにこの人間の生命を抹殺する恐るべき、残虐行為なのです。

人工妊娠中絶は、たとえば、どんな理由があろうと、結果的には弱肉強食の生き方を肯定することであり、人間の尊厳や平等を主張する社会においては許さるべからざる悪なのです。人権の尊重や人間の平等も、胎児の生命が平気で、しかも法的正当性のもとに抹殺されている限り、有名無実に過ぎないでしょうし、子供たちのための平和で幸福な社会の建設もけっして実現されないでしょう。このような社会が自己の非を認め、あらためずして、児童の権利擁護と健全なる育成を強調することは明らかに自己矛盾であり、たとえ、どんな物質的福祉の努力や尊い人間的犠牲が払われても、根本的解決を見い出すには至らないでしょう。

人工妊娠中絶は、人間尊重とは名ばかりの、自己中心主義的社会の特徴です、このような社会では、自己の利益になることは、手段を選ばずこれを追求し、自分の安楽な生活の邪魔になるものは何であろうと容赦なく切り捨てるのです。人間の生きる意味、人生を高め清める犠牲、苦しみ、十字架を地べたに投げ棄てた空虚な人間社会の姿です。

「剣をもとにおさめよ、剣をとる者はみな剣によって滅びるであろう」(マタイ26章52節)

(二面につづく)

事務用機器・コンピューター・学校用・幼稚園備品
㈲シオタ事務機・㈱日本幼育社
社長 カシミロ・塩田五郎
福岡市南区大楠2丁目23—15(西田ビル2F)
TEL 代表 092(521)—8266—7

Custom Tailor
糸永洋服店
福岡市中央区浄水通8—8
TEL 531—3831
夜間 521—0820

（一面より）

る者は剣で滅びるのだ」（マタイ26の52）と言われたキリストのみことば通り、現代人が胎児を平気で殺す中絶の剣をおさめず、神と大自然の摂理に抗うならば、いつかその報復を受け、堕胎者ばかりでなく、社会全体が滅びの道を辿る結果となるでしょう。したがってこのような社会で、児童権利の擁護や健全な育成などと望むべくもないのです。

むすび

このように考えますと、二十年前に「児童権利宣言」の公布を余儀なくさせた深刻な世界の諸状況は、少しも改善されていないばかりか残念ながらますます悪化の一途を辿っているとさえ言えます。

だからこそわたしたちカトリック信者は、今年の「国際児童年」をけっしてただの掛け声だけに終わらせてはなりません。「世の光」「地の塩」たるべき教区の皆さん一人びとりが、以上のような具体的かつ現実的諸状況を考慮された上で、各々の職場において、あるいは家庭において「何をなすべきか」、「何ができるか」について真剣に考えていただき、問題解決に積極的に取り組み、努力していただきたいと願っています。

その意味で今年はわたしたちキリスト者の真価が問われる年であり、キリストの光をさん然と輝かす絶好の機会であると思います。

この問題に関しての皆様の使徒職の上に神の光りと力が豊かに与えられますよう祈ります。

福岡教区長
司教　ペトロ　平田三郎

（福岡教区教勢）

一九七八年十二月三十一日現在で発表された福岡教区教勢はつぎの通りである。

㈠信者総数（司祭・修道者・神学生、居所不明を含むこと）二八、〇三七人。信徒のみの実数は、二五、〇九二人。小教区数は五七。子供と大人の受洗者数（臨終洗礼を除く）は六一八人。転入者一、三六六人。死亡者数は一五七人。転出者は九二一人。居所不明者は二、二六三人。

㈡聖職者および神学生
司教二。邦人教区司祭三三、邦人修道司祭一二、外人司祭六二。教区小神学生一〇、教区大神学生九。

㈢修道者
男子修道者六、修道女は邦人四三三に対し外人二六、志願者五五人。

㈣伝道師
男子五、女子三七人。

㈤教育施設
短大一、高校九、中学校六、小学校三、各種学校三、幼稚園、保育園五七、日曜学校三五、日曜学校を除く教育施設への通学生は二一、三二九人。

㈥社会施設
病院二（ベッド数一七七）老人ホーム五（老人数三七〇）養護施設八（児童数四六七）

㈦活動団体
レジオ（十一プレシジウム、六六人）ボーイスカウト（二三分団二三五人）婦人会（二三支部一、〇五九人）青年会（一七支部一九六人）学生会（七支部二七八人）信徒使徒職会（七支部一七五人）聖書研究会（五支部七七人）ミサ奉仕会（六支部一〇四人）

《四月年忌の司祭》

▼フランソワ・ザビエル・ブレンゲ師（パリー外国宣教会）一九四六年四月五日。

▼ヘンリー・レウトル師（パリー外国宣教会）一九四四年四月二十五日帰天。

司祭の消息

◎深堀仙石衛門司教　福岡市中央区平尾四ツ角、吉川病院（電五二一一〇五六八）に入院中。

◎平田勇師　吉川病院に入院中。

◎シャール・プレボ師（元福岡サン・スルピス大神学院教授）は故国カナダで肝臓ガンのため療養。

大斎・小斎の義務

日本の教会において、現在行われている大斎・小斎の義務は、灰の水曜日と聖金曜日の二回だけとなっている。

大斎とは一日のうち十分な（必ずしも満腹する食事のことではない）食事をするのは一回だけ、小斎は鳥獣の肉を遠慮する、節欲の食事をささげることである。償いの精神をもって臭たす。

福岡教区教勢

（1978年1月1日—12月31日）

小教区名		洗礼 子供	洗礼 大人	洗礼 臨終	求道者	世帯数	婚姻 信徒間	婚姻 混宗	信徒数 1978年	実名簿上の信徒数
福岡地区	茶山	5	1	0	7	82	1	3	409	428
	大名町	21	26	3	30	253	5	33	1,261	1,391
	二日市	3	1	0	4	67	0	5	318	318
	箱崎	3	11	0	12	20	0	2	90	100
	東島	9	4	0	11	65	2	4	409	445
	光丘	15	3	0	6	264	2	4	639	669
	本郷	2	0	0	0	130	1	6	612	636
	今村	18	0	0	6	215	2	6	1,235	1,235
	浄水通	2	1	0	69	72	2	5	203	206
	古賀	5	5	1	0	136	0	0	379	381
	久留米	15	8	0	6	293	2	1	713	1,011
	馬渡島	6	1	0	0	96	2	1	481	485
	美野島	7	3	0	5	52	0	2	215	256
	西新	7	5	0	5	125	1	2	477	759
	小郡	4	0	0	1	72	0	3	237	244
	大楠	3	0	0	8	70	1	1	157	229
	大牟田	3	2	1	16	75	0	2	218	261
	大老司	10	3	1	8	110	1	1	289	295
	高宮	4	4	1	4	65	0	5	429	479
	吉野	1	3	0	2	14	0	0	37	47
	吉塚	8	3	1	7	124	1	2	339	439
	計	151	84	8	207	2,400	23	88	9,147	10,314
北九州地区	八王寺	1	2	0	0	60	1	1	236	236
	飯塚	0	2	0	1	42	0	0	192	192
	小倉	26	45	0	11	735	14	2	2,162	2,447
	黒崎	9	6	0	5	327	0	6	1,033	1,100
	水巻	9	3	0	0	153	0	3	557	557
	門司	3	5	1	3	183	0	2	459	464
	門司港	2	4	0	1	62	1	0	155	161
	直方	4	4	0	0	32	1	1	127	127
	新田原	36	3	15	20	380	11	6	1,621	1,656
	田川	1	1	0	3	43	0	2	151	184
	天神町	6	5	0	2	139	1	4	322	339
	戸畑	20	14	2	1	348	2	9	977	1,277
	若松	0	1	0	2	101	0	0	357	358
	湯川	11	1	0	2	247	1	8	970	970
	行橋	18	4	0	2	136	2	3	486	557
	計	146	100	18	53	2,988	34	70	9,805	10,625
佐賀地区	伊万里	1	1	0	1	54	1	1	141	141
	唐津	11	2	3	4	112	2	3	305	316
	島鹿	0	0	0	1	31	0	0	80	80
	佐賀	9	10	30	9	305	1	4	566	630
	武雄	1	1	0	0	50	0	0	103	136
	多久	3	0	0	2	33	0	1	100	104
	鳥栖	0	1	0	3	40	0	1	215	222
	呼子	10	1	0	1	96	1	4	457	457
	計	35	16	33	21	721	5	14	1,967	2,086
熊本地区	荒尾	0	1	0	2	35	0	1	79	79
	人吉	7	4	2	3	86	0	2	227	227
	本渡	3	0	0	3	113	0	1	199	204
	健軍	3	4	0	20	556	0	0	412	412
	菊池	3	1	1	2	65	0	0	290	344
	水俣	0	0	0	4	60	0	0	139	148
	帯山	10	1	0	5	132	0	5	345	347
	大江	6	3	0	10	122	1	4	435	490
	崎津	1	3	0	4	116	0	0	329	332
	島崎	7	6	8	12	130	1	2	405	405
	玉名	1	0	0	1	26	0	1	86	94
	手取	8	13	15	6	480	1	14	975	1,027
	八代	1	0	1	4	94	0	1	252	255
	計	50	36	27	76	1,615	3	31	4,173	4,364
合計		382	236	86	357	7,724	65	203	25,092	27,389

（註）司祭、修道士、修道女、神学生は含まれていない。

内科、放射線科、循環器科、消化器科
正金診療所
院長　古賀明恭
福岡市中央区天神4丁目80　福岡ショッパーズプラザセンタービル7階
休診日日曜、祭日、ダイエー定休日　TEL（713-7912）
診療時間　午前10時～午後5時　昼休み　午後1時30分～2時15分
土曜日　午前10時～午後3時　昼休みなし

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1—4—23
TEL 771—3657

〈羊飼いの牧場〉

大切なもの

高木善行

アベックが口喧嘩をしていた。お酒を飲んで一杯機嫌の男の子が「ブス、ブス」といって相手をからかった。これに対して女の子が「よっぱらい、よっぱらい」といい返した。すると男の子が曰く、「おれのよっぱらいは明朝にはなおるけど、おまえのブスは生涯だぞ」！

わたしたちには人間として、またキリスト者として生涯もっていなければならない大切なものがあるはずです。それは「神との交わり」ではないでしょうか。神とのかかわりあいは人間をみにくいものにするのではなく、人間を本当に生かすもの、とくに内的に美しくするものということができます。人間は神の似姿として造られ、神といつもかかわりをもって生きなければならないものですが、現代はこの神との交わりを与える宗教的なもの、神聖なものをないがしろにして、神不在の時代をつくり出し、いわば霊的なブスになっている人が多いのではないでしょうか。それも生涯そうであれば本当に大変です。

人間は誰しも美しいものにあこがれをもつものです。美しいものといえば、それはダイヤモンドにつきるでしょう。地球創造期の何千度にもおよぶ高熱と想像を絶する圧力で炭と同じ炭素が凝集されてできたダイヤは、その美しさを通して人間に一つのやすらぎを与えてくれるといわれています。美しい光を無限にはなつそのダイヤがもっとも似合うのは中年からとか。人生の起伏、荒波の重圧にも耐え、幾年月をひたすらに生きて、心身ともに安定した人の指に光るのが一番似つかわしいようです。ダイヤはその美しさのゆえに人好みをするものということではないでしょうか。ダイヤが自然現象のエネルギーの最高の凝集であるため、それを身につける人自身に人間要素がととのえられた安定した状態を要求するのかもしれません。真の人間としての生き方を会得した台座を求めるのでしょう。「金剛石もみがかずば」のことばが人間の生き方にたとえられている意味が示されているようです。

ところで、聖パウロはキリスト者の真の生き方はすべてを神のために行うことにあると教えています。「あなたたちは食べるにしろ、飲むにしろ、何をするにしても、すべて神の栄光を現わすためにしなさい」（コリント前10・31）。言い かえれば、キリスト者の真の生き方とは日常生活のあわただしさの中にあっても神とのかかわりを見失わず、神と正面向かった生き方を本当に大切にすることです。このような生き方には必ず困難、苦労がつきまとうものです。しかしこの困難や苦労は「神の国、み国の来らんことを、み旨の天に行わるる如く、地にも行われんことを」のためのものです。洗礼によってキリストにかたく結びつけられたわたしたちは、キリストの愛の呼びかけに対する応答として、この困難、この苦労を喜んで受け入れることを約束しているのです。したがって神とのかかわりをもつための困難、苦労を前向きに受け止めることは、キリスト者にとってとても大切なことであり、キリストが苦しみを通して救いという神との一致を完成されたように、わたしたちをキリストに交わらせ、内的に美しく変身させるものです。美しい光で宇宙の美の神秘を物語るダイヤが要求する台座にふさわしい人格、心身ともに安定した真の美しさは、このような生き方から生まれてくるものではないでしょうか。またこの神との交わりを通して美しく変身させる生き方を生涯持続させる努力はこの世における幸せをわたしたちに与えるだけでなく、来世の終わりのない幸せを確実に保証するすばらしいものではないでしょうか。現代という特殊な時代に、キリストを忠実に生きる使命をもっているわたしたちは神とのかかわりをもつ生活を本当に大切にしたいものです。（福岡サン・スルピス大神学院教授）

新入生（福岡小神学校）

中学一年　肥喜田　雄二
（行橋市豊津教会出身）

会合と催し

▽平田司教
4月1日　大江教会聖信式
5～6日　東京（会議）
12日　聖書油ミサ

▽福岡黙想の家
4月1日　地区青年黙想会
2－3日　市内高校生黙想会
10－12日　福大生聖書研究
22－23日　若い司祭の集まり
28－30日　祈りの体験黙想会

助祭叙階式（福岡・大神学院）

新助祭　山元師（新田原）

三月十六日（金）は彼岸を間近にした快晴の日であった。福岡サン・スルピス大神学院は、午前十時から、松永長崎補佐司教を主司式者に平田司教ほか二〇人近くの司祭による共同司祭ミサをもって叙階式を行った。

大神学院ならではの味わえない神々しい雰囲気の中で、四人の宣教奉仕者（全員長崎教区）四人の教会奉仕者（長崎三福岡一）と助祭（福岡）が誕生した。

わが親族の晴れ姿を一目見ようと、祈る親、親族の関係者が遠く長崎や福岡県新田原からマイカー、貸切バスで参加した。

助祭叙階式

教区神学講座案内

（昭和五十四年第一学期）

一、講義科目および担当講師
4月17日ヨハネ福音書入門　（テキスト持参）山内師
4月24日　〃
5月1日　〃　イエル師
5月8日　現代世界憲章解説　（テキスト持参）山内師
5月15日　〃
5月22日　秘跡論入門　高木師
5月29日　〃
6月5日　現代世界憲章解説
6月12日　〃
6月19日　秘跡論入門　高木師
6月26日　〃

二、講義期間　4月17日－6月26日まで毎週火曜日

三、講義会場および時間　福岡聾学園附属中学校　十八時－二〇時四〇分まで

四、受講料　三、八五〇円（当日会場において受付ける）

修女連（教区）人事

◎委員長　シスターアンネット・ベリュベ（久留米信愛修道院）
◎副委員長シスター大山ヨシエ（福岡信愛修道院）

○祈禱の使徒会○

（一般）マルキシズムとの対話
（布教）東南アシアの教会

祭壇・洗礼盤他

石石他
理影の
大御そ
素材

石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2－21
TEL 52－2417

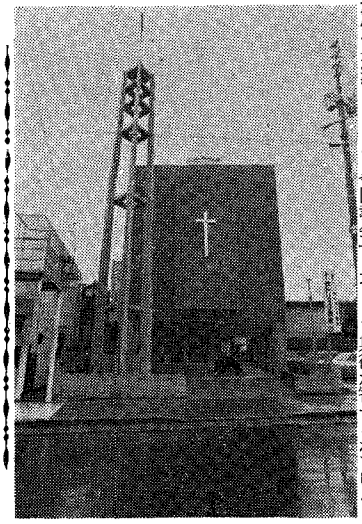
任意保険に加入してから車の運転を致しましょう。
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険等々
福岡市中央区天神2丁目13番7号
（長銀ビル5階）AIU福岡支店内
大石保険事務所　大石真澄
〒810　TEL 771－4761

うるわしい神の家輝いて建つ
鳥栖教会（佐賀）献堂式

佐賀県鳥栖市のカトリック教会は、三月四日午前十時から、平田司教を迎えて教会および幼稚園の落成、献堂式を行った。三〇〇名の参加で盛大な門出を祝った。

教会建築の話しは十年前に打ち出されたものであったが、諸般の事情で延滞していた。今回教会一丸となって努力した甲斐があって復活祭に先立って、喜びを分かち合うことができた。交通の要衝鳥栖市の新名所として、内外の注目を浴びることであろう。

総工費一億円をかけた新聖堂と幼稚園には、福音宣教の有力な足場として期待が寄せられている。



神学校後援会費（53年度）

みなさまのご協力に深く感謝申し上げます。

大名町	704,350	鳥栖	30,950	人吉	152,000
浄水通	150,500	武雄	15,150	本渡	36,000
箱崎	56,600	多久	10,000	帯山	100,000
西新	175,650	門司	155,900	水俣	42,000
大楠	47,000	門司港	27,500	大江	48,000
美野島	45,700	小倉	240,000	崎津	142,000
茶山	65,240	戸畑	531,600	島崎	213,000
高宮	213,400	若松	120,000	玉名	51,000
老司	100,000	天神町	48,000	菊池	36,700
二日市	170,000	八王寺	31,000	八代	84,133
久留米	180,000	黒崎	100,000		
大牟田	58,350	水巻	58,400		
吉野	48,050	飯塚	75,350		
今村	395,000	田川	28,400		
本郷	137,450	新田原	180,000		
馬渡島	29,750	行橋	50,000		
佐賀	75,550	手取	200,000		
唐津	30,500	荒尾	26,400		

現金合計　5,121,573
一粒会　395,000
合計　5,516,573

若い司祭の集い
（コイノニア会）発足

このたび、福岡市内の若い司祭が中心になって、月に一会、福岡默想の家で、集いをもつことになった。称して「コイノニア会」。その名の示す通り、お互いの交わりと親睦を主旨とするもので、毎月、第三日曜日夜八時より、翌月曜日の昼食まで共に祈り、共に語り、共に休息して、身心両面から鋭気を養おうとするもの。第一回目は、十一名が参加した。まず、最初の晩は一時間の聖時間を設け、御聖体の前で默想し、聖務日課を唱えて後、親睦雑談、そして就寝。翌日は、各々の司牧的立場からの情報交換や、司牧上の問題点、困難点を出し合って討論会、そして共同ミサと続いて正午に昼食…と文字通り、お互いに深い交わりと休養の一ときだった。教区、宣教会、修道会、大神学校の各分野から多彩な顔ぶれの、〝司祭仲間〟が集まるこの集いは、決して若い層だけに限らない。司教様をはじめ、先輩の神父様方もできるだけ顔出しして下さるようにとの意図も含めて発足したものである。なお、第二回の集いは、三月十八日夜八時より、十九日の昼食まで催された。

パパさまは語る
召命＝キリストにおける神の賜もの（上）
（伊東師訳）

本日典礼が私たちに示す聖パウロの考えに注目しよう。

ミサの第二朗読はローマ人への手紙から引用されていて、特に、自分の召命について当てはめられ深められた場で默想され、そのことにふさわしい決断を取らねばならぬ者たちのために書かれたようにさえ思われる。

聖パウロの手紙のこのくだりは特別に私たちの永遠の召命について語っている。「神はご自分のものであると前もって知っておられた人々が、おん子の生き写しになるようにと、あらかじめお定めになった」（ローマ書、8の29）一度ならず度々この深い意味を含む奥義を默想しつづけているに違いない。私たちの召命はすべて、神の内部で、おんひとり子〝み言葉〟の中で確認され、その認められた私たちをご自分の子等とするようにあらかじめ定められる。おん父の実体、創られずして生れられた永遠のおんひとり子は地上に兄弟を持ち「多くの兄弟たちの長子」（ローマ、8の29）となられることになった。

この召命について考えることは、神の愛の奥義、恩恵の奥義、永遠からの神の奥義になじむことであり、また司祭職への準備のためには基本的であり総括的な次元を成していることは疑いをはさまない。恩恵はわたしたちひとりひとりの中で召命の本質的基礎をなすものである。神学校にいる間に皆さんの司祭召命を恩恵の奥義の中から考え始めることをおすすめする。召命こそ恩恵であり、神の賜物である。司祭職によって私たちは「多くの兄弟の長子」キリストに特殊な仕方で似たものとされる。神のたまものであるとの良心のもとでは私たちの全生涯にわたる視野のもとに私たちの召命の深い意味を観ることがゆるされる。そして人間的な生活も、永遠の真理と唯一の愛の反映であり完成であるという本来の価値を持ったものとして考えられるようになるだろう。

（つづく）

福岡教区第十八回クルシリヨ

記

一、日時　五月二日（水）～五日（土）
一、場所　福岡默想の家
一、資格　満二〇才～五五才までの男女信者三十五名程度
一、費用　六千円
一、申込み先　〒八一八筑紫野市大字二日市二五六の三　米湊清電（〇九二一四一七一三九）
福岡教区信徒使徒職協議会
クルシリヨ事務局

福岡地区カテキスタの集い

一、日時　五月十三日（日）十三時～二十一時
一、場所　福岡默想の家
一、テーマ　〝教会〟
一、参加費　一人二、〇〇〇円宿泊の場合別に二、〇〇〇円
一、指導　イエール師他
一、持参品　聖書、筆記用具。宿泊希望者はその必需品
一、対象　教会学校の先生、シスター、一般信徒（親）

味に生きる〝まるわ〟の
かまぼこ、てんぷら
まるわ水産加工有限会社
代表取締役　マテオ　下田数信
福岡市西区神后町　TEL 881—1135

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話　52—3306
52—8622

建築設計監理
教会・修道院・学校・幼稚園・他
菅建築設計事務所
所長　菅　種雄
福岡市中央区警固3—11—14
TEL 092・741・8852

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL 521—0568

カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行兼編集人 山田成章
電話092—522—5139
振替口座 福岡42981

定価 一部 20円

共同訳聖書作成資金募集
一、募金額 五百万円
一、方法 一口五百円
一、送り先 本誌編集部
寄付者

祈ろう、呼びかけよう、そして応えよう、愛があれば可能…（上）

第16回世界召命祈禱日に際し、ヨハネ・パウロ二世教皇のメッセージ

司教職において兄弟である全世界の司教様、また、愛する信者の皆さん。

世界召命祈禱日に際し、わたくしは新教皇として初めて皆さんにお話しする機会を得ました。

初めにわたしたちは、故パロウ六世教皇様に対して、心からの感謝の念を表わすことにいたしましょう。教皇様は、公会議の会期中神様と教会に対し、特別な奉献として、この召命祈禱日を設定なさり、十五年にもわたり、全教会の教師として、この祈りの日を強調し、また牧者として心をこめて、これを大切にするよう励ましてくださいました。

わたくしも前教皇様の手本にしたがい、第十六回世界召命祈禱日に際し、日ごろ考えている多くの事柄を、皆さんにお伝えしようと思います。これは次の三つの言葉で表わすことが出来るでしょう。すなわち、祈ろう、呼びかけようそして、応（こた）えよう、であります。

「祈ろう」

一、まず初めに、「祈ろう」であります。召命について、祈らなければならない大切な理由は、キリスト様ご自身が、「収穫の主に、刈り入れに働く人を送ってくださるように願え」と、お命じになったからです。（マタイ9・38）みなさん、この日を主のご命令に対する、わたしたちの信仰と従順の公の証しの日といたしましょう。司教様がたは、司祭、修道者、修道女、宣教師、また司祭職を求めて全生涯を捧げたいと願っている人々、信徒、特に多くの若い人々と共に、皆さんの司教座聖堂で、この日を奉献してください。また、小教区、修道院、巡礼地や学校、また病院その他、苦しむ人のいるところでも、この日を祝ってください。このようにして、世界各地から、あつい祈りが天にまで、捧げられるのでありますが、これはキリスト様が、わたしたちをして祈り求めるように望まれたことであり、これはそのまま御父に求めることになるのです。

また、この日を、どうか希望に満ちた日にしてください。むかし「エルサレムの高間に十二使徒が集まり、イエスの母もそこにおられた」ように、（使1・14）わたしたちも世界に広がる高間に集まり、聖霊である神様の賜物を確信して待ち望みたいものです。実際に、わたしたちが集まる、あのご聖体のいけにえの祭壇上に、今も同じキリスト様は、わたしたちと共に、わたしたちのために、お祈りくださり、わたしたちが求めるものを確実に与えてくださいます。「はっきり言っておくが、どんな願い事であれ、お前たちのうち二人が地上で心を一つにして求めるなら、わたしの天の父は、それをかなえてくださる。二人または三人が、わたしの名によって、集まっているところには、わたしもその中にいる」と、主は仰せになりました。（マタイ18・19）わたしたちは、主のみ名において集まり、主の望まれることだけを願い求めているのです。主の尊い約束であるならば、どうして、希望をもって祈り求めないでいられましょうか。

また、この祈りの日を霊的輝きの中心にいたしましょう。わたしたちの祈りがますます広まり、教会、修道院、家庭、信者の心の中でさえも絶えず捧げられ、それはちょうど、一つの観想修道院で、主への不断の祈りが捧げられているようになるためです。

「呼びかけよう」

二、次にわたくしは、司教様がたと、その協力者である司祭がたに申しあげたいのです。皆さんが、立派に遂行なさっている奉仕職について、力づけ、励ましたいと願っています。わたしたち司教は、「司祭や修道者の召命、特に宣教師の召命を、出来る限り、育成するよう努めるべきである」と、司教たちに勧告した公会議の教えに忠実に従いましょう。（司教任務に関する教令15）

刈り入れの働き手を、祈り求めるように命じられたキリスト様はかつてこの働き人を個々に呼び集められました。主の召し出しのお言葉は、福音の中に次のように記されています。「さあ、わたしについて来なさい。人間を捕（と）る漁師にしよう」とか、（マタイ4・19）「わたしに仕えたい人はわたしについて来なさい」などであります。（ヨハネ12・26）主の召し出しのお言葉は、いまも、わたしたちの使徒的奉仕職遂行の源であり、「地の果てにいたるまで」という、（使1・8）福音の他のお言葉と共に、全世界に告げ知らせなければなりません。わたしたちが、このお言葉を告げ知らせることは、キリスト様のお望みであり、神の民は、これを聞く権利をもっているのです。

召命についての、あらゆる司牧活動促進の仕事を行え、という公会議の教えのとおり、（司祭養成教令2）個々の教会や組織体の素晴らしい計画は、主の恵みを頂く道を開き、優れた基礎を準備するものです。神様は常に、ご自分の望まれる人々を、望まれる時に、「キリスト、イエスにおいて、お示しになった慈しみにより、その限りなく豊かな恵みをもって」召し出されます。（エフェソ2・7）この召し出しは通常には、わたしたちを通し、わたしたちの言葉によって実現されます。ですから、呼びかけることを、決して恐れてはなりません。若い人々の中に入って行ってください。彼らひとりひとりに会い、彼らを呼び出してください。多くの若者は、また少し年上の者も同じですが、いつも皆さんの呼びかけを聞こうとしています。実際、多くの若者は何か生きがいのあるものを、求めてやみません。若者たちは、果たしがいのある使命を捜し求め、それに生命をかけようとしているのです。キリスト様は、ご自分と、皆さんの呼びかけに対して、青年たちを促し、これに気づくようにしてくださいます。ですから、わたしたちは常に彼らに呼びかけなければなりません。青年男子であれ、女子であれ、各人に与えられた恵みにしたがって、（1コリント7・7、ロマ12・6）個々の才能を捧げる者に対し、主はその他すべてのことを完成してくださいます。

皆さん、この司牧的使命を、心をこめて遂行しましょう。公会議

（二面につづく）

事務用機器・コンピューター・学校用・幼稚園備品
㈲シオタ事務機・㈱日本幼育社
社長 カシミロ・塩田五郎
福岡市南区大楠2丁目23—15（西田ビル2F）
TEL 代表 092（521）—8266—7

Custom Tailor
糸永洋服店
福岡市中央区浄水通8—8
TEL 531—3831
夜間 521—0820

（一面より）

が教えるように、わたしたちの心を開きましょう。「召命促進運動は広い心をもって、教区、国、修道会、典礼様式の枠を越えるべきであり、全教会の必要を考慮し、主のぶどう畑のための働き手が、切実に求められている地方を、特に助けようとしなければならない」のです。（司祭養成教令2）

また、わたくしが、司祭職にある司教様がたと、その司祭職の協力者である司祭がたに、申しあげたことと全く同じことを、修道会長上、在俗会長、宣教会長上にも申したいのです。こうして、だれもが教会全般の利益のために、各自の責務に応じる役割りを果たすことが出来るのです。

（次号につづく）

「第16回世界召命の日」にあたって

司教　平田三郎

一、召命の促進・育成はキリスト教共同体の義務

現代教会は、司祭・修道者の召命減少という事実に直面し、緊急かつ最重要なこの問題解決のため神の民全員にその協力を強く呼びかけています。

ヨハネ・パウロ二世現教皇も、全世界の司教に特別メッセージを送り、五月六日の「第六回世界召命の日」には、各司教座聖堂で、ミサを中心にした祈りの集会をもち、また各教会・修道院でも、この日を特別の祈りの日とし、全教区民にその責任と義務を換起するよう指示なさいました。このご要望に応えたいものです。

第二バチカン公会議の教父たちが指摘していますように、司祭・修道者の召命の促進・育成は、「キリスト教共同体」に課せられた義務であり、教会全体が力を合せて遂行しなければならない大事業であります。つまり、司祭・修道者召命の促進・育成はただ司教や司祭の任務であるばかりでなく、神の民全員が一丸となって、やりとげねばならない教会の大事業であり、家庭、学校、司祭、小教区などの緊密な協力が必要であります。

二、家庭は召命の苗床

司祭は天から降ってくるもの、あるいは地から湧き出るものではなく、自分たちの家庭が召命の苗床であり、最初の神学校、修道院であるとの信徒の自覚は、まだ十分だとはいえないと思います。召命はまず家庭という苗床に発芽するのでありますから、家庭生活を営むすべてのキリスト信者は、りっぱなキリスト教的家庭を築くとき、神からの最大のお恵みである召命の種がそこに蒔かれるのだとの確信を持っていただきたいのです。これこそ召命促進の第一条件であり、信者にしかできない信者固有の役割なのです。

召命の促進・育成に関する信者の責任範囲は、ただ自分たちの家庭にとどまらず、さらに自分たちが属する小教区、教育施設やカトリック・アクション諸団体にも及びますから、一般信者は、召命促進のためにもっと広範囲にわたって、もっと積極的に働いてもらいたいと思います。

三、司祭・修道者は召命の喜びに生きよ

司祭召命の促進と育成にとって必要なもう一つの条件は、種々の困難の中にありながらも、信仰に支えられ、霊的喜びに満ちて宣教・司牧に従事する司祭・修道者の生きた姿です。相互愛と兄弟的一致協力のうちに、すべてを捨てて謙虚に魂の奉仕に励む生きた司祭の姿だと思います。多くの司祭・修道者は、このような姿のなかに主の招きを感じとったのではないでしょうか。

矛盾に満ち、極端なまでに世俗化された功利的で利己的な現代社会に、キリストの福音を告げ知らせ、司牧活動を続ける現代司祭・修道者の前途は多難であります。しかしすべての司祭・修道者が、使徒聖パウロとともにいろいろの困難の中にあっても「語らざるを得ない」、「福音を告げ知らせないならわたしは不幸である」と言って、一生を神とその教会にささげるとき、善意ある多くの若者たちは、司祭職・修道生活に引かれ、そこに真の生きがいを見つけるにいたるでありましょう。

四、心を一つにして祈ろう

司祭・修道者の召命の促進と育成のための最大で最善の方法は熱心な祈りだといわなければなりません。なぜならキリストご自身、「刈り入れは多いが、働く人は少ない。だから刈り入れのために働き人を送ってくださるように、刈り入れの主に祈り求めなさい」（マタイ9・28）とはっきりお命じになっておられるからです。召命は自分で かちとるものではなく、神から与えられるお恵みだからです。

「世界召命の日」にあたり、全世界の信徒に特別の祈りを求められた教皇様は、あの高間に集った子たちが「婦人たち、イエスの兄弟たちとともに、心を合わせて熱心に祈り続けていた」（使徒1・14）あの美しい光景の再現を望んでおられるにちがいありません。

さらには、「あなたたちのうち、二人がどんなことでも地上で心を一つにして願うならば、天にいますわたしたちの父はそれをかなえてくださるであろう。二、三人がわたしの名によって集まっている所には、その中にわたしがいる」（マタイ18・19/20）とおおせられたキリストのあのみことばに深い信頼を寄せておられるにちがいありません。私たちも同じ希望、同じ信頼をもって祈りましょう。

主の昇天祭

（五月二十七日）

『聖霊があなたたちの上にくだり、力をお与えくださる。あなたたちは、エルザレム、全ユダヤ、全サマリア、地の果てまで私の証人となるであろう』とおおせられた。話し終えられたイエズスは、かれらが見ている前で、天にあげられ、一むらの雲が、それをおおいかくした。弟子たちが、天に昇っていかれる主を見送っていると…。（使1・8—10）

ヤング接近

大名町教会　久志昇

今月号から、各小教区で活躍する青年のプロフィルや抱負等、「現代の教会に生きる青年」の姿を紹介することにする。

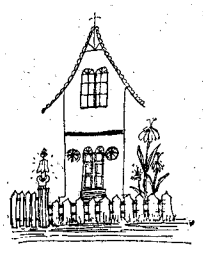
まず、その第一号には、大名町教会の久志昇君。小学校を卒業してすぐ、故郷の長崎県上五島を出て、長崎公教神学校に入学、司祭職を志した。高校卒業後、福岡の大神学校へ入学、途中、神の召し出しは別の道にあることを感じて、社会人としての道を歩む決意で一旦帰郷、再び福岡に房って現在、福岡市南区に住みながら国家公務員としての仕事に打ち込んでいる。二十四歳。

所属している大名町教会では、主に青年会とレジオ・マリエ会の一員として、かつて神学校時代に学び培った内的、外的信仰のたまものを、フルに生かしながら活躍している。青年会では、ヤングたちのヨコのつながりを重視しながら、特に新しい顔、田舎から都会に進学、就職等で出てくる若者たちとの接触に力を入れて、彼等の社会的、キリスト者的先輩、兄貴分として力になりながら、もち前の人あたりのいいユーモアぶりを発揮している。また、レジオ・マリエ会では、求道者、受洗者との触れ合いを大切にしたり、教会奉仕活動の面でも貴重な存在のひとりとなっている。

一青年として、現代の教会のあり方を問えば、「信者一人ひとりが、もっと、〝自分たちの教会〟という意識を強く示して欲しい共同体的、家族的意識が高まればそれだけ、教会活動に対する積極性も生まれるのではないかと思う。現代人は、余りに自分のことで忙しすぎるという、都会独得の生活様式に、ちょっと、もの足りなさを感じます。」という返事が返ってきた。更に、今後の教会のあり方については、「ミサ以外の、個人的、あるいは小グループ的な信心業の大切さを見直して、教会共同体全体の信心業による一致とつながりを目ざして、我々若人が中心になって将来の教会の発展のためにフル回転できれば……」と何とも頼もしい見解を語ってくれた。

長崎県の五島—信仰のふるさと—と言われている地で生まれ、親譲りの信仰の遺産の大切さを肌で感じ、育てられた一青年の口から発せられる現代教会の展望についての、ヴァイタリティーに富んだ、〝青年・信者の声〟を紹介しておこう。

（文責・竹森）



内科、放射線科、循環器科、消化器科
正金診療所
院長　古賀明恭
福岡市中央区天神4丁目80　福岡ショッパーズプラザセンタービル7階
休診日日曜、祭日、ダイエー定休日　TEL（713-7912）
診療時間　午前10時～午後5時　昼休み　午後1時30分～2時15分
土曜日　午前10時～午後3時　昼休みなし

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1—4—23
TEL 771—3657

〈羊飼いの牧場〉

人生の落とし穴

中浜一男

北辰一刀流の剣術の流祖千葉周作は、剣の極意を、「勝負に勝ちたいと思うなら、勝つことよりもまず武士らしく天晴れに死ぬ道を考えることだ」と説いています。よく「無欲の勝利」と言いますが、欲望をすて、邪念を払いのけて自我を制することこそ勝利をものにし、生き残る秘訣だと言うことでしょう。また、「負けるが勝ち」とはよく耳にし、日常経験もします。無益な抵抗をしたり、道理に合わない強情を張ったり、無用な口実を並べたてたりするよりも、素直に自分の非を認め、相手を受け入れることこそしばしば勝利の道、成功の道となり得ます。

自制するとは、自分中心の生き方をさけ、神様と隣人に奉仕する精神に生きることです。すなわち自制することは、利己心や弱さや欠点に打ち勝ち、傲る心をうち砕くだけではなく、神様と隣人に仕えよう、そのために自分の使命に徹しようとする努力であり、姿勢です。それはまた自分の殻から出て、相手の立場に立つことです。とにかく人間はわがままにできています。自分中心に物事を見、考え、判断し、行動したがります。自分の非を認めず、他人の言葉に耳をかそうとはしません。わたしたちはややもすれば、神様の前に自分自身を素直にみつめることを忘れがちです。黒住宗忠のうたに「立ち向かう人の心は鏡なり、おのが心をうつしてやみん」とあるように、他人の心に反映する自分の姿を眺めることも大切ではないでしょうか。

ところで、わたしたちは、スピード時代、マスコミの時代、せせこましい時代に、多種多様化された人間関係の中で生活しています。ややもすれば心の落ちつきを失なって、自制心を忘れ、自分の姿を眺めるゆとりもなく、「あせり」と言う落とし穴に陥る危険にさらされています。移り気で、二次的なことや余計なことに心を奪われ、使命に対する誠実さを欠き、集中力を失なって、何一つ満足にやり遂げ得なくなります。そうなれば心は空虚感に襲われ、気ばかりあせって、精神的に暗くなっています。信仰生活も、知的生活も、活動生活も、しだいに苦痛や嫌悪を感じるようになり、低下していきます。本質的なことより二次的なことに多くの時間をさくようになり、しだいに責任感がうすらぎ、いいかげんな生き方に終始するようになります。あせりは人に思慮を失わせ、人を血気にはやらせ、失敗を重ねて意気消沈させ、骨抜きにしてしまいます。他人の寸法に合わせて、あるいは全く違った事情に合わせて物事をおしはかり、善意に満ちた精力のほとんどがいたずらに浪費される結果となります。だから、あせりは有能者も聖人をも滅ぼしてしまう人生の落とし穴です。

他方、自制心のない人は、自我、利己心、強情、情欲、弱さ、不足、なまけ、不注意などの障害物に信仰の目をさえぎられ、神様や霊的世界、また自分のありのままの姿を見ることができなくなって、自己満足に陥る危険にさらされています。自己満足もまた人生の大きな落とし穴です。「自慢高慢馬鹿のうち」とか、「自慢は知恵の行きどまり」とか言われるように、自己満足に陥り、自慢する心が起こってくると、もっと知恵をみがこう、もっと奉仕の精神に徹しよう、生活に新しい面を切り開こう、もっと進歩しようとする努力と熱意とがそがれるから、何時までたっても同じことのくり返しに終始し、一向に向上することがありません。「苦しみや試練の中にある時は安全だが、平安に満たされた時こそ危険な時である」と言う聖アウグスチヌスの言葉を、よく吟味する必要があるのではないでしょうか。

キリストは、「もし一粒の麦が地に落ちて死なければ、それは一粒のまま残る。しかし、死ねば、豊かに実を結ぶ。自分のいのちを愛する者はそれを失ない、この世でいのちを憎む者は、それを保って永遠に生きるであろう」（ヨハネ12・24－25）と申されました。「キリストのために自分のいのちを憎む者」とは、キリストへの愛のために、自分の考え、好み、望みに沿わないもの、反対のもの、精神と肉体とに苦痛を覚えることでも、自制心をもって受け入れることです。それは聖パウロが言っているように、「イエスの命がわたしたちの体にあらわれるようにと、イエスの死のさまを自分の体に帯びる」（コリント後4・11）ことです。キリスト信者は、日常生活の中で、キリストの御受難・御死去を体験し、復活のよろこびを共に味わうまでに奉仕の生活を送るものです。自制心に支えられたこのような生き方こそ、人生の落とし穴から自分を救う道ではないでしょうか。

（福岡サン・スルピス大神学院教授）

会合と催し

▽平田　司教
5月3～5日　教区クルシリヨ
6日　召命のミサ（大名町）
8日　司祭月例集会
13日　東田島教会堅信式
20日　広報の日講演会
27日　多久教会堅信式

▽福岡默想の家
5月2～5日　クルシリヨ
6～12日　聖コロンバン宣教会熊本地区司祭默想会
13日　カテキスター默想会
20日　大神学院司祭默想会
26～27日　善きサマリア人修道会の默想会

○祈禱の使徒会○
（一般）青少年への教理教授
（布教）AA諸国におけるマス・メディアによる布教

老司教会バザー

一、日時　五月十三日（日）午前十一時～十五時
一、場所　老司カトリック教会
一、内容
(1) 不用品及び物品販売
(2) 飲食物の販売
(3) ゲームコーナー
(4) 抽せん券の発売

五月二十日（日）はカトリック広報の日

福岡教区では、五月二十日の広報の日の行事として、国内カトリック広報活動の実際や広報の重要性についての講演会を左記のとおり催すことになっている。

記

一、日時　五月二十日（日）午前十時から
一、場所　大名町カトリック教会
一、講師　全国カトリック広報委員会秘書水浦征男師
一、聴講無料

なお、本年の世界広報の日のテーマは「家庭と社会で子供を守り、子供に利益をもたらすマスコミ」と発表されている。これは一九七九年の「国際児童年」にあわせて定められたものである。

カテドラル建設資金調達バザー抽せん券当選番号

五月二十日（日）はカトリック広報の日

一等　二九〇二
二等　九一七（下三ケタ）
三等　一五一五、一八八八三、二八五八、〇八五八、〇九三七、一四七七、〇七五一
四等　二六七六、一九三六、二六六一、二二三八、〇五八七二七六四、〇二八五、一五六三、〇四五〇、一〇七六
五等　三三、六八、四一、〇五四六、一八〇一、二七二三、〇五七六、一五四六、〇〇七三、〇三一七、〇〇〇一〇六九九、〇三八〇

カテドラル建設資金調達バザーへのご協力ありがとうございました。

なお、賞品の引取は五十四年五月二十八日まで、日曜日第二ミサ後午前十一時まで、聖堂入口において受付けています。受取期日を過ぎると無効にいたします。

大名町教会バザー実行委員会

五月年忌の司祭

▼フランソワ・ルマリエ神父（パリー外国宣教会）一九四五年五月五日
▼フェルナンド・チリー司教（パリー外国宣教会）一九三〇年五月一〇日
▼ヨハネ棚町正刀神父一九六八年五月十五日帰天

音楽会

去る四月二十日と二十一日の二日間、午後七時から、福岡市浄水通教会において福岡シンクフェライン第三回定期演奏会があった。男子十三人・女子二十七人の洗練された音声は、優れた旋律的・和声的なパッハのモテットを見事に表現していた。

祭壇・洗礼盤他

石材素材
石の理想的な
石の他
石の御影
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2－21
TEL 52－2417

〝任意保険に加入してから車の運転を致しましょう〟
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険等々
福岡市中央区天神2丁目13番7号（長銀ビル5階）AIU福岡支店内
大石保険事務所　大石真澄
〒810　TEL 771－4761

北九州カトリック婦人会 新役員改選にあたって

指導司祭　鵜野泰年

めざすもの

（エルサレムの婦人たち）……「婦人たちよ、私のために泣くな。むしろ自分自身と自分の子どもたちのために泣きなさい」（ルカ23・28）いたましい姿にすがりつきながらも、何一つできなかった婦人たち、ただむせび泣くことしかできなかった彼女たちを、だれが〝無能者〟とさげすむことができましょうか。弱々しそうで、それでいて何者をも恐れないあの強さ。弟子たちでさえことごとく逃げ去ってしまったのに。大司祭の権威も、ローマ兵士の剣も、彼女たちの目には入らなかった。そこには、ただ、血まみれのイエススと、うちくだかれた御母の姿しかなかった。でも、その終わりのとき、イエススにとって最も力になり支えになった者はだれだったのでしょう。

主の御傷の血をふきとってくれた彼女たちは、やがて、宣教につかれ、傷ついて帰ってくる使徒たちの血をふきとってくれるのです。だれにも評価されず、福音書の中にもそれほど大きくはとりあげられなかった彼女たち。みなさん、エルザレムの婦人になって下さい。何もしないでいい、ただ人のために泣くことのできる人になりなさい。

婦人の美しさ

女の中で最も祝福された方…、人類の中で最高に美しいお方…、聖母マリア…「男が一人でいるのはよくない。ふさわしい助け手を作ろう」（創2・20）女性が美しく輝くとき…それは「助け手」としての使命を果たすとき、男は「男」であるときが最も美しく、女が最も美しくなるのは「女」であるときではなく「母」であるとき、「妻」であるとき、そして男を「男」にしてあげるときです。

マグダレナ・マリアは「女」であったときに罪女とよばれ、キリストのみ足に涙をそそいだときに聖女とされました。聖母マリアは御子のかげにたたずみながら、人類最高の位にあげられたのです。

だから、みなさん、家庭においてよい「母」、よい「妻」であるように。そういう人が教会においても、神父様を「司祭」として立ててあげることができましょう。まさに、教会婦人会のめざす所は、そこになければなりません。婦人たちの愛だけが子供を成長させ、夫を男にし、神父様を司祭にすることができるのです。その愛の前には、いかなる世の男性も口を閉ざすか、あるいはひざまずくしかないからです。

なすべきこと

一、役員を選ぶにあたって…婦人会の活動が最もできる人ではなく、最もよい妻、最もよい母であろうと懸命になっている方を選びなさい。

一、企画を立てるにあたって…最も短い言葉で、最も多くを語り、最も少ない仕事で、最も豊かに与え得るもの、そういうものを探しなさい。

一、活動するにあたって…何をしようかと考えない方がよい。だれとするかを考えなさい。祈りのうちに…「私の内に神は働いておられる」

一、集会をするにあたって…活動の成果に気をとられてはならない。成功や失敗のうらで、そっと置いていって下さった神の土産に気づかなければなりません。

一、費用について…お金があればあるだけ私たちの活動は易しくなる。乏しくなればなるほど神の活動は易しくなる。「神の力は弱さのうちに働く」から。無一文を理想とし、神のはからいに託したい。

一、小教区婦人会に対する任務…司祭を尊敬し、その活動の裏方により添うよう。冗舌を切り捨ててもも、司祭の敬称は切り捨てぬよう。家庭でも、教会でも、社会でもそびえ立つ人になりなさい。みなさんのこの活躍を祈り、期待しています。

パパさまは語る

召命＝キリストにおける神の賜もの（下）

（伊東誠二訳）

（二月二十四日）

二、再び聖パウロの考えに沿ってゆくならば私達の召命はただ賜物であるばかりでなく一つの使命であり、更にこの使命に生涯かけて打ちこみ、深めてゆく上に霊的な努力や戦いなしにはその本当の姿をなすことはできない。もしそうでないとしたら、「神が私たちと共におられるなら誰が私たちに抗えようか」との聖人の言葉をどのように解すべきか。このような言葉は真面目に一事を求め、戦う姿勢の人の唇にしかのぼらないであろう。何のための戦いか？とりもなおさず、この戦いは自分の中にある神の永遠の考えの実現において勝者となる戦いである。彼は自分の魂の中でその召命の真理の最も深い意味を目指して努力する。この完遂に当ってはことが自分の内部のたたかいであるために神がキリストの中において人々にあかされた愛に必ず何等かの意味で直面させられることになろう。「誰がキリストの愛から私たちを切り離せようか」（ロマ8・35）真正な召命とはこのようなものである。この愛する心こそ、私たちの召命についての中心となる考察である。「彼はわたしを愛し、私のために自分をわたされた」（ガラテア2・20）「彼は私を見つめ、私を愛された」（マルコ10・21）そしてもし、私にこのまなざし、この愛がなかったら私はここにはいなかったであろう。この道は私の生涯の終わりまでの道である。それが何であるかを知っていて終わりまで堪えてゆけるのだろうか？　聖パウロはこれに答える。「わたしたちは、愛してくださったかたによって、これらすべてのことにおいて、輝かしい勝利を収めています。」これが司祭養成の道でも、司祭生活、その修業その職務遂行においても鍵となるものである。

更に大使徒はつづけて、「死も生も、天使も、支配するものも、今あるものも後に来るものも、力あるものも、高きにあるもの、深きにあるもの、どんな被造物も、われらの主キリスト・イエススにおいて現われた神の愛からわたしたちを引き離すことはできない」（ロマ8・38―39）

わたしたちの召命にとって、高きにあるもの、深きにあるもの、その他如何なる被造物も、とあげられているものは、何を意味し得ようか？　それらは、私自身を現在、かくあらせているすべてのものを至極具体的に、正確にとらえなければならないすべてのものである。

三、パウロのこの言葉は、私たちを、〝信頼の母〟であるマリアの方に向けさせる。ローマのこの神学校はこのタイトルの聖母に奉献され、今日私たちはその記念を祝っているのである。神学校に保存されているこの聖画の前で、百年以上神学生のいろいろなグループが、困難の時をのり越え突進の精力を得て、自分の召命に答えていったのである。

「私の母、私の信頼」これがこの壁にきざみこまれた射祷である。各人はマリアが、「私をみつめ、私を愛されている」と言えるように御母は信頼のつきざる泉である。この聖母のまなざしは、「汝の母これにあり」との十字架上のイエススのまなざしと重なり合っている。

だから、召命を受諾すること、司祭職を選びとること、司祭職にふみとどまることは、この「愛を信じていること」（ヨハネ1、4・26）に外ならない。そして、神学生も、あとで司祭となっても、この十字架の上からの母の指示をする最後のことばを生活の中に受けとめねばならない。「これがあなたの母なのだ」（同上）この信仰、この信頼の助けに私たちの司祭職はなり立ってゆくのである。それこそ、マリアの子として同時に、多くの兄弟の長子となられたお方の心状に肉迫する道である（ロマ8・29）

そのときにはじめて、司祭職はその内面に於て、各自が辿る小径――時としては困難な――にあっても、〝永遠の愛〟に答えられる力を保ちもっていることが出来るであろう。

▽マリアの御とりなし△

「とりなす」とは、誰かのために嘆願し、しかも、その乞い願うところのものが必ず得られるという希望をもって、仲介することである。私たちがマリアにおとりなしを願うとき、マリアは天の元后人類の母という御名をもって、私たちのために仲介してくださる。ロザリオをくったり、メダイを身につけることは有益にして聖なる習慣である。

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話　52―3306
52―8622

建築設計監理
教会・修道院・学校・幼稚園・他
菅建築設計事務所
所長　菅　種雄
福岡市中央区警固3―11―14
TEL　092・741・8852

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL　521―0568

カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行兼編集人 山田成章
電話092—522—5139
振替口座 福岡42981

定価 一部 20円

共同訳聖書作成資金募集
一、募金額 五百万円
一、方法 一口五百円
一、送り先 本誌編集部
寄付者

祈ろう、呼びかけよう、そして応えよう、愛があれば可能…（下）

第16回世界召命祈禱日に際し、ヨハネ・パウロ二世教皇のメッセージ

「応（こた）えよう。」

三、青年の皆さん、わたくしは特別に皆さんと話したいのです。出来れば皆さん一人一人とお話ししたいと思っています。それは、特に皆さんに親しみを感じ、皆さんを信頼しているからです。わたくしは、皆さんを教会の、また、わたくしの希望と呼んできました。

ここで、いくつかのことを共に思い起こしましょう。福音の中に、主の召し出しに対してなされた、美しい応えが記録されています。ペテロと兄弟アンドレアの応えがそれです。「彼らはすぐ自分たちの網を捨てて、主について行った。」（マタイ4・20）徴税人マタイのときも、「彼はなにもかも捨てて立ちあがり、主について行った」といわれ、（ルカ5・28）他の個所での使徒たちの答えは、「主よわたしたちは誰のところへ行きましょうか。あなたは生命の言葉をもっておられます」と記され、（ヨハネ6・68）また、サウロは、「主よ、わたしは何をしたらよいでしょうか」と答えました。（使22・10）この福音が、初めてのべ伝えられてから今日まで、大勢の男女が、キリスト様の召し出しに対し、自発的に、しかもよく考えたうえで応えたので。彼らは司祭職、修道生活、あるいは宣教の生活を、自分の存在理由とし、また理想とし、これを選び取ってきました、彼らは今も神の民と人間全体のために、信仰と知、勇気と愛をもって仕えています。さあ、今度は皆さんの番です。応答は自由です。おそらく皆さんはためらっているのでしょう。

さて皆さん、ここで信仰の光に照らされ、一緒に考えてみましょう。わたしたちの生命は神様から頂いたものです。わたしたちは、この生涯を通じて、何らかの良いことを、実現しなければなりません。人間的、またキリスト教的理想を実現させるために、よりよく生きる方法はいろいろあります、司祭職、修道生活、宣教生活など神様への完全な自己奉献について特に今日お話しするわけは、キリスト様が皆さんの中から多くの者を、この大胆な行動へと召し出しておられるからです。主は、皆さんの人格、知性、力、信仰、愛聖性をあえて必要としておられます。キリスト様が、皆さんを司祭職へと招いておられるなら、それはキリスト様が、皆さんの自己奉献と司祭的使命の遂行を通して、ご自分の司祭職を、皆さんによって果たしたいと、望んでおられるからです。皆さんの声を通して現代の人々に語りかけ、皆さんによって、聖体を聖別し、罪の赦しを与え、皆さんの心の中に生き、皆さんの手によって人々を助け、皆さんの働きによって救おうと欲しておられるのです。このことをよく考えてみてください。皆さんの多くのものが応えることえは、こういう偉大な仕事のために呼びかけておられるキリスト様に対して皆さんの一人一人が応えることなのです。

皆さんは、おそらく、いくつかの困難に出会うことでしょう。そういう困難について、わたくしが何も知らないと、思っているのでしょうか。しかし、愛があれば、どんな困難をも克服することができると、言いたいのです。すべての召命に対する真の応答は愛による業です。司祭、修道者、宣教師への召命に対する応えは、ただ、キリスト様への深い愛から湧きいでるものです。主ご自身が、呼びかけてくださる賜物に加えて、愛の力というものを皆さんに与えてくださり、これによって、皆さんの応答が可能になるのです。「わたしたちの内に働く力によって、わたしたちが求めたり、思ったりすることを、はるかに超えてかなえてくださるかた」に信頼しましょう。（エフェソ3・20）また、ご自分の命を与えてくださった主に、皆さんの生涯を喜んで、おそれず、お捧げするならば、これはなんと素晴らしことではないでしょうか。

それでどうか次のように祈ってください。「主イエズスよ、あなたは、かってご自分の望まれる人々を呼び出されました。どうか、あなたのために、あなたと共に働く多くの者を、わたしたちの中から呼び出してください。」「主よ、あなたは、ご自分で召し出した人々を、み言葉によって照らし教えてくださいました。どうか、あなたへの信仰に生きるわたしを照らしてください。」「主よ、あなたは、召し出された者が困難に遭うときに助けてください。」「主よ、あなたは、わたしたちの誰かが、完全に自分を奉献するように召し出してくださいます。この召命に対して、あなたの愛の温かさを初めから与え、増させ、終わりまでお護りください。アーメン。」

（むすび）

わたくしは、召し出される人々が神である主の御声をききわけ、広い心をもって従うことを希望し、この祈りを使徒の元后、聖マリアの力ある取り次ぎに委ねます。また、司教職にある兄弟の皆さんと全教会の親愛なる息子、娘である信徒の皆さんとの上に、聖い主の平和と平安の賜物を祈り求め、心からの使徒的祝福をおくります

一九七九年一月六日
主の公現の祭日 バチカン市より
教皇ヨハネ・パウロ二世

司祭候補者認可式

下町豊重君（崎津）

来たる六月六日（水）午后四時三〇分から、福岡サン・スルピス大神学院で三人の司祭候補者認可式（着衣式）が行われる。

このうちの一人下町豊重君は福岡教区神学科一年で、天草郡河浦町崎津の出身で、地元の中学校を卒業後三年間の社会人としての経験を積みながら、召命を感じて小神学校、大神学院へと進んでいる。大江教会の良きライバル崎津教会の召命のためにも健闘が期待される。他の二人は鹿児島の寝占敦士君と長崎の山田聡君である。

事務用機器・コンピューター・学校用・幼稚園備品
㈲シオタ事務機・㈱日本幼育社
社長 カシミロ・塩田五郎
福岡市南区大楠2丁目23—15（西田ビル2F）
TEL 代表 092（521）—8266—7

Custom Tailor
糸永洋服店
福岡市中央区浄水通8—8
TEL 531—3831
夜間 521—0820

聖家族の御像の家庭訪問

家庭の聖化と召命推進を祈る運動はじまる（北九州）

北九州カトリック婦人会（指導司祭鵜野泰年師）は、去る四月から、家庭の刷新と召命推進を祈るための新しい運動を展開している。

毎月北九州地域の小教区に順ぐりに割当て、小教区内の信者各家庭に一晩だけに限って、今年の聖木曜日に平田司教が祝別した聖家族の木彫像を迎えて、上述の目的実現のために祈るものである。

四月直方、五月新田原、六月湯川七月行橋、八月田川、九月戸畑、十月八王寺、十一月小倉、十二月水巻、一月門司港、二月門司、三月天神町、四月黒崎、五月若松、六月飯塚、七月直方とバトンタッチされてゆくことになる。

御像を迎えたら、

一、聖家族に向って己が家族のためにする祈り（ひざまづいて）

一、ロザリオの祈り（すわる）

一、こどものためにする祈り（ひざまづく）

一、お召しを求める祈り（ひざまづいたまま）

一、みじかい祈り

祈りが終わったら、

一、意向ノートに日付、氏名、祈りの意向を記入する。

一、献金袋に何かしかを献げる、

以上のことが奨励されている。

また、この聖家族の御像の訪問を待ちきれない多くの信者家庭では、御像の写真を代用して祈っているとのことである。この新しい運動の良い結果について、続々婦人会本部に報告が寄せられている。

なお、聖家族の御像を迎えるあたって、「この御像は、はからずも聖木曜日、主の聖なるばんさんの祝日に、司教様の祝別をいただいて、北九州地域のすべての家庭をおとずれることになりました。この御像を迎える方々は、ほんとうに主の聖家族をお迎えすると思って、最高の歓迎をして下さい、たまたま今年は国際児童年でもありますので、特に子供たちのために、たくさんの恵みを願って下さい」と、鵜野師は語っている。

聖家族の御像

里脇大司教が新枢機卿に

日本人で三人目

ローマ教皇ヨハネ・パウロ二世は二十六日、十四人の新枢機卿を発表したが、そのなかにヨゼフ里脇浅次郎長崎大司教（七五）が選ばれた。日本人が枢機卿に指名されたのは故土井辰雄東京大司教、故田口芳五郎大阪大司教に次いで三人目である。

枢機卿はカトリック教会で教皇の行政上の最高顧問となり、教皇の死去の際は新教皇の選出に参加する。

ヨゼフ里脇大司教は長崎大司教区長、日本司教協議会会長。一九〇四年二月一日長崎県外海町出津生まれ。ローマのウルバノ大学を三三年十二月卒業して司祭叙階。四一年―四五年まで台湾で教区長。五五年から鹿児島教区司教に就任。六九年現職に入る。

合同運動会（熊本）

五月十三日（日）雨天にも拘らず、旧少年の町で熊本市内四教会と菊池教会を中心にした合同運動会が決行された。例年に比していく分少な目の参加者であったが、予定のプログラムを消化して、各教会相互の友情を温めた。

小中学生のサマーキャンプ

要綱決まる（福岡地区）

福岡市内の教会で青少年司牧に携わっている司祭のグループは、地区信徒協との協力のもとに、今年の夏、福岡地区の小中学生のサマーキャンプ（練成会）を、次の要綱で開催することを決定した。

今回は、信徒協が主催、指導司祭を指名した上で、司祭、神学生、シスター等でスタッフを構成して準備をすすめることになった。なお、今回は、精神的な面でも、特別に養成を必要とする年令にある中学生を別個にし、独自の練成会とすべく意見が一致した。詳細な点については、後日連絡することになっている。

要綱

◎小学生　七月二十四日～二十六日まで、小倉の聖パウロ会小神学校。大名町教会祈森神父の指導。

◎中学生　八月二十五日～二十七日まで、福岡默想の家指導司祭は司教館の深堀神父。

ヤング・接近

高宮教会　柿山美浩

今回は高宮教会のヤングマン、浩君に接してみた。

公務員として働きながら、教会活動の面でも、二十一才の若さを、大いに売り物にしている。

高宮教会では、青年会長として、日曜日毎の集会で青年同士の親睦のために努力し、一方ではボーイ・スカウトの副長補としての任務を果たしながら、子供たちに、宗教心と社会人としての心がまえを植えつけるべく、私的にも公的にも忙しい男である。

現代の教会について思っていることは？と問いかけてみると、「信者同士の霊的分かち合いの場がもっと欲しい。特に若い人たちが奮起して、教会の〝若さ〟をどんど前面に出して欲しいと思う。若い力が欠けている教会ほど淋しいものはありませんからね…」という答えが返ってきた。また、「これからは、青年一人ひとりがもっと、宗教的、カトリック的勉強や研究を重ねて、社会の中にあっても、恥ずかしくない〝キリスト信者らしさ〟を打ち出してゆくことが必要であり、若い力を結集して、各々の使命感に燃えるような前向きの姿勢が見られれば言うことはありません」こういう力強い言葉もとび出した。

現在、福岡地区青年の代表者、世話役を引き受けている彼が、今一番気にかかるのは、来年の夏、長崎で開かれる「80年全国青年大会」のことだという。地区でも準備にかかり、又全国青年大会のための、長崎を中心とした青年代表者会議にも何回か出席したが、福岡教区の青年の間では意識がうすい状態だという。今後、残された一年余の間、特に教区青年たちが80年大会へと目ざめて欲しいと要望している。

80年全国大会（青年大会）への準備段階として、今年の秋、九月には、福岡教区青年大会を開いて80年の全国大会へと盛り上げてゆく計画をすすめているが、教区全体の青年諸君が、教区独自のカラーを出して教区大会、そして全国大会へと向かって、意気投合して欲しい旨を切に訴えつづけている。

（文責・竹森）

（人事）

▽御受難修道会福岡修道院長鈴木忠一師（福岡修道院付）▽北九州地域の教区連絡担当平田敬師（兼任戸畑教会主任）

○祈禱の使徒会○

（一般）教皇と司教・司祭・信者との一致の強化

（布教）布教国における宣教者の召命

六月年忌の司祭

トマス平田好神父一九三八年六月二十一日帰天

内科、放射線科、循環器科、消化器科

正　金　診　療　所

院長　古賀明恭

福岡市中央区天神4丁目4-11　福岡ショッパーズプラザセンタービル7階

休診日日曜、祭日、ダイエー定休日　TEL（713-7912）

診療時間　午前10時～午後6時　昼休みなし

土曜日　午前10時～午後4時

各種高圧ガス・溶接材料・その他

松尾産商株式会社

社長　松尾光敏

北九州市若松区藤ノ木1―4―23

TEL 771―3657

〈羊飼いの牧場〉

「あなたに一つだけ足りない」

徳山　登

昔、印度にひとりの行者がいました。彼の苦業は印度中に知れわたるほど有名でした。

ある日、その行者がシーグの神の像の前に立って、祈っていました。「神よ、私はあなたのために、どんな苦しみでも甘んじて受けます。あなたのために出来ない犠牲はありません。どうぞ何でもお命じ下さい。」

その時、銅の唇が動き神が語られました。「あなたの鉢に油をいっぱい満たしなさい。そして、それを頭に載せ、町中、歩きなさい。通りという通りをめぐって、ここに戻ってきなさい。その間に一滴の油もこぼすことのないように。さあ、出発しなさい。」

行者はさっそく言われたとおりにしました。油で、いっぱいの鉢を頭に載せ、両腕で平均を取りながら、町から町へと歩いて行きました。市場を通り、群衆を縫って「一滴もこぼさないように」とつぶやきながら進みました。そしてとうとう、完全に命令を果たし、誇らしげに像の前に立ちました。行者は自分の勝利に満足していました。神の祝福の言葉を期待し、自分はそれに、ふさわしいことを確信していました。しかし銅の唇は動ずか、神からは何の答えもありませんでした。行者は悲しくなって祈りました。言葉の限りを尽くして祈り、あらゆる苦業をもって神を動かそうとしました。ついに行者は泣きそうになって「油を一滴もこぼさなかったのに」と神を恨む様につぶやきました。その時です。銅像が大声でどなりました。「神である私に鉢の油がいると思っているのか。馬鹿な！一体お前は、私の命令を行っている間、一度でも私のことを考えたか。」その行者は答えることが出来ませんでした。何故なら、頭は鉢の油のことでいっぱいで、私について一度も考えなかったことを認めなければならなかったからです。

「私に油なんかいるものか。あなたが私のことを考えた為、すっかり油をこぼしてしまった方が、私にとっても、あなたにとっても良かったかもしれない。あなたを有名にした数々の苦業を捨て、人々に隠れて、あなたが私を愛することを望む。その方がどんなに私の心を喜ばすかが、あなたには、わからなかったのか。愚か者よ。」

この話に出てくる行者のように、私たちも掟を守ることだけ力を入れて、心から、神を眺め、感謝し、愛することを忘れていはしないでしょうか。天国への入場券を手にいれることに囚われ過ぎているのではないでしょうか。

さて、神を愛するとはどういうことでしょうか。掟を、きれいに守っていた金持の青年にイエスはこうおっしゃいました。「あなたに一つだけ足りないことがある。自分の持ち物を貧しい人々に全部与えよ。それから私についてくるが良い」と。

キリスト者の信仰の中心はキリストに、ついて行くと言うことで、それこそ神を愛することではないでしょうか。毎日キリストに、ついて行こうとする人は様々な現実にぶつかります。

こんな話があります。あるカトリック病院の患者たちは、病院のシスターらのことを次の様に話していました。「この病院のシスター達は天国に昇るハシゴとして私たち患者をつかっている」と。私たちも善行のつもりで弱い人々を利用する傾向がありはしないでしょうか。こうして自分の目にも、他人の目にも、愛徳のある熱心な信者として映ります。ところが聖アウグスチノは、こう言っておられます。「あなたが飢えている人々にパンをあげるのは結構なことですが、飢えている人がひとりもいない方がよいのです。あなたが裸の人に服を分けた事は結構ですが裸の人がひとりもいない社会になることが望ましい。なぜなら、貧しい人に何かをあげることは相手を恥ずかしめることであり、相手の前で自分を高めることになるからです。愛するとは相手と同等な立場を取り、相手と分かちあうことです」。

キリスト者としての証しを立てることは、だれかに施しをすることでも、精神的な力を見せようとすることでもなく、むしろ、自分と人々との間の階段を降りていくことだと思います。貧しく弱い相手と同じになって、共に生きることです。キリストの受肉の神秘はここに輝きます。聖パウロは言っています。「キリストは全てにおいて私たちと同じものになった。」

印度の行者のまねをしないように、お互いに心しましょう。

（天神町教会主任）

会合と催し

▽平田　司教
6月6日　司祭候補者認可式
12～16日　日本カトリック司教協議会定例総会
22日　聖書共同訳実行委員会
24日　教区修女連総会、戸畑教会堅信式
29日　司教霊名の祝賀会

▽福岡黙想の家
6月2～3日　高宮教会ボーイスカウトの集会
4日　茶山教会婦人会
5～8日　聖公会の集い
9～10日　福岡レジオ・マリエの集会
12日　外人司祭の集まり
14日　婦人有志の会
16～17日　西南大学生の集い
17～18日　若い司祭の会

第18回 教区クルシリヨ
キリストの証人を誓い合う

第18回福岡教区クルシリヨは、五月二日から五日にかけて、福岡黙想の家で行われた。指導司祭深堀勝人師を中心に、講師七人のほか、教区内の男女信徒二十六人が祈りや黙想、講義に真剣な四日間を過ごした。

教区クルシリヨは18回目を迎えることになったが、初回からの参加者は六〇〇人の多数に上り、小教区の使徒職活動に有力な先兵となっている。それぞれの職場において「キリストの証人」の厳しく働くエネルギーを満タンし、お互いの活躍を誓い合って帰途についた。

クルシリヨは三十年前にスペインのマヨルカのヘルバス司教が「布教するために司教司祭ばかりでなく、教会当初のように信者も使徒として仕事をし、生活の中でキリストの証人となる」という自覚を高めるために、当時の信者を集めて使徒職練成会（クルシリヨ）を考え出した。クルシリヨとはスペイン語で「小さな勉強」という意味があるが、日本でもそのまま「クルシリヨ」と呼んでいる。教区では、修道者や信者も一度はこのクルシリヨに参加するよう希望している。

クルシリヨ参加のみなさん

〝任意保険に加入してから車の運転を致しましょう〟
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険等々
福岡市中央区天神2丁目13番7号
（長銀ビル5階）ＡＩＵ福岡支店内
大石保険事務所　大石真澄
〒810　ＴＥＬ 771―4761

祭壇・洗礼盤他
石材
石の理想
石の影響
他の御
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2―21
TEL 52―2417

不動山にみるキリシタン殉教

―藤津郡嬉野町大字不動山―

牧山　満安

「ホンド山」という名は日本切支丹宗門史や、ケンペルの江戸参府紀行の中にも出てくる地名で、正しくは藤津郡嬉野町大字〝不動山〟のことである。

丹生川（たんじょうがわ）の山峡に展開するこの地は、慶長十九年キリシタン大討伐が行われたところで、すさまじい迫害のもようは今に語り伝えられている。

嬉野町をつき抜けた国道35号をさらに西へ行くと、長崎県境・俵坂関所が見える。その手前で右に折れるとただらかな登り坂となり、北の方に深く入りこんだ谷間が見えてくる。ほどなく両側の山が次第に道におおいかぶさるようにせばまる。

ここ不動山の入口に立つと眼前に立岩山がそびえ、その最も高い岩場の台地にレンデンチア（伝道所）があったといわれる。一見何のへんてつもない山村にみえるが、ここが隠れキリシタンの哀史を秘める不動山地区だ。

佐賀藩でのキリシタン狩りで記録として残っている資料のうち、不動山に関するものは勝茂公年譜である。――寛永十一年藤津郡嬉野町不動山にいた切支丹侍大村四郎兵衛が俵坂の伴天連四郎右衛門をかくまっているのが見つかり、四郎兵衛とその妻子五人は火あぶり。逃走した四郎右衛門は浜崎で逮捕され、護送中に死んだが、死体は塩づけにして江戸に送った――と記録されている。

ビリヨン神父の「鮮血遺書」には、カミロ・コンスタンソ神父が元和七年、長崎から兵卒の服を着てひそかに肥前のホンド山に入り、数カ月滞在後唐津を経て平戸へ行ったという記録があり、当時不動山は要衝の地でかなりの信者がいたことがうかがわれる。一六〇七年のイエズス会報には諫早・深堀・不動山で四二〇人の大人の洗礼があったとも伝えている。

嬉野邑は戦国時代には有馬領に属し、次に大村領となり、龍造寺の代から佐賀領となった。

さて不動山の大討伐が行われたのは一六一四（慶長十九年）のこと。二十六聖人殉教から十七年後、佐賀の布教に専心したドミニコ会宣教師三人が佐賀藩を追放されたすぐ翌年にあたる。当時大村藩のキリシタン取り締まりが日を追って苛酷をきわめ、大村・彼杵方面から多数の信徒が安住の地を求めて隣接する不動山地区に潜入していた。

その日――役人と山伏、僧侶たちは、一団となって突如不動山に踏み入り、目指すキリシタン探索と討伐にかかった。不意をつかれた潜伏キリシタンたちは家から家にこれを伝え聞き、取るものもとりあえず山奥に逃げ込む。これを逃がすまいと気の荒い山伏や役人は、すかさず信徒を追って、逃げまどう彼等の後ろからメッタ切りに切りつけた。女子どもまで容赦しなかった。逃げおくれた子どもたちは一カ所に集められ焼き殺された。下手からの追手を避けるには、道を不動の山奥にとるより方法はない。右往左往、親は子供を、若者は老人を助けながら狭い山道をわれ先にと息せき切って逃げたに違いない。しかも血に飢え、血に勇んだ討伐隊の剣は背後より追ってくる。ようやく盆地ふところに当たる川瀬まで逃れた彼等も、もはや抵抗するすべもなくここでほとんどが全滅した。

静かだった山間はたちまちにして一大修羅の巷と変わり果てた。これもその一人で、子どもを背負った女が斬られた。血の滴る刀を提げて「汝不屈者め」とにらみつけた時、女はナンマイダと言って息を引きとった。どうして逃げたかはともかく、討手はびっくりして「ヤアしまった、この女は仏教信者だったのだ」と叫んだが後のまつり。それで後部落の人々があまりの不憫さに石碑を建て、手厚く葬ってやったと、その碑面には「水月妙泉尼秋次與兵衛'先祖」と刻み、現在も大舟部落に苔むして遺っている。一〇〇人ちかい信徒がここで無惨な最期を遂げた。

役人達は血まみれの刀を近くの小川で洗い、川は真赤な血で染まった。大刀洗川の地名はここから起こったものと思う。

キリシタン信徒がこの地に住みつき、また全滅されたことを語物る地名や口碑や伝説に注目すべき点が多い。なかでも意外な事実の発見はぜひ記録しておきたい。それは明治初年ごろまで、アーメンまたはアーメンタアという語がこの地方の土俗語として永い間語り継がれてきたということである。古老の話では「有難う」という意味だそうで、人から貰い物をした時などに使っていたという。

いまこの不動山地区には郷土史家と嬉野町役場の手で、当時のキリシタンたちの霊を慰める供養塔やいくつもの記念碑が立派に建立されている。（佐賀教会所属）

あけぼのの光のように現われ…

レジオ・マリエ一五〇〇回集会を迎えた大名町教会

五月三日に一五〇〇回集会を記録した大名町教会のレジオ・マリエ（ロザリオの元后プレジデウム）は、五月二十日、平田司教を迎えて一五〇〇回記念集会の祝賀会を盛大に行った。

大名町教会のレジオ・マリエは昭和二十四年二月七日の雪の夜、第一回の集会を持ったことになっている。シドニ教区（オーストラリア）派遣宣教師の一員であったウォルシュ神父の紹介と指導によって陽の目を見た。当時、集まった会員は十余人で、ウォルシュ神父の英語による説明で集会が進められた（初代会長伊東隆芝氏の談）

難産の末産声をあげた大名町教会のレジオ・マリエは、主任司祭伊東誠二師の指導で会員の数は次第に増し、翌年の六月には、早くも二つのプレジデウムに発展した。その後、二つのシニアプレジデウムと一つのジュニアプレジデウムをもつた時代を見たこともあった。

三十年の間に会員の顔ぶれは変っていったが、二十年のキャリアを持つ会長のもとに常時十余人の会員を擁して、病人の訪問、子供の要理、接触、教会行事のための諸用など、いつでも、どんな仕事にでも信頼できるアクショングループとして続いている。

活動方針は、外向きの姿勢を強く打ち出して、求道者は勿論、未信者、教会に近づこうとしない人たちへの接触をもつとも主な仕事としている。会員の過半数は三・四人の接触対象者を持ち、要理研究中の求道者に対しては、助け手または相談相手ともなって受洗へと導き、連携を保ちながら教会共同体の中に位置づけるように働きかけ、一方神をまだ知らない職場の同僚知人たちにも成果はともかくとして、可能な限りの働きかけと奉仕によって接している。最近一年間の会員の接触対象者は三十数人で、うち受洗に至ったものは十人である。因みに現在までに会員が接触した受洗者は三〇〇余人に達する。また、当プレジデウムから司祭をはじめ多数の修道女を送り出したことは何よりのお恵みであり、会員の励まし。慰めとなっている。

大名町教会のレジオ・マリエ

聖霊降臨の主日（六月三日）

「五旬祭の日が来て、かれらがみないっしょに集まっていると、突然、天から、烈しい風が吹いてくるような音が聞えて、かれらが坐っていた家にみち、火のような舌があらわれ、分れて、おのおのの上にとどまった」（使2・1～3）

建築設計監理
教会・修道院・学校・幼稚園・他
菅建築設計事務所
所長　菅　種雄
福岡市中央区警固3―11―14
TEL　092・741・8852

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL　521―0568

カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行兼編集人 山田成章
電話092—522—5139
振替口座 福岡42981
定価 一部 20円

共同訳聖書作成資金募集
一、募金額 五百万円
一、方法 一口五百円
一、送り先 本誌編集部
寄付者

福岡教区カトリック青年大会
九月十五・十六日の二日間
80年全国青年大会の露払い

青年キリスト者の使命の自覚と生き方を学びとる

来年夏、一九八〇年八月、長崎において、全国カトリック青年大会が開催されるに当たり、長崎教区の松永司教と浜尾司教を中心に、特別委員会が設けられ、長崎教区青年担当司祭や現地の青年たち、それに九州各ブロックの青年代表者らによって、その準備がすすめられている。

大会趣旨として、「21世紀の神の民の力強い働き手となるべき、われらカトリック青年が、日本の信仰のふるさと、キリシタン殉教の地、長崎に集い、共に祈り、語り合い、兄弟としての連帯のきずなを深めつつ、自らの信仰を引きうけるべき役割を確かめあう。そして、アジアの、また世界のキリスト者としての視野を広め、今日と明日の社会におけるキリスト者の使命について、自覚を新たにする。」を掲げて、全国の青年たちに、大会への目ざめを呼びかけている。

21世紀へとはばたく若人が、信仰のあかしをし、キリストの証人になるとはどのような「生き方」をすることなのかを、実感をもって学び取るために、信仰のふるさと、殉教の地・長崎への旅の中でお互いに分かち合い、確認し合うというのが、本大会の特色でもある。

目下、現地・長崎をはじめ、各教区で、80年青年大会に向けての前準備として、各教区独自の催しもの、教区青年の集いなどを開いて、青年たちの意識を高めるべく努力している。

福岡教区では、来る九月十五・十六日の両日、「福岡教区青年大会」を開催して、教区全体の青年たちの意識が、80年大会に向けて盛り上がるようにと、その準備がすすめられている。

一九八〇年という、一区切りの時代の中に生き、21世紀の教会へと大きくはばたこうとしている教区青年たちが、明日の教会、社会、そして明日の教区で、果たすべきキリスト者としての使命を見出し、自覚し合うためにも、今秋の福岡教区青年大会に多数参加し更には来年夏の全国青年大会へと意識を高めるよう、各小教区の司祭をはじめ、信者一同の協力をお願いするものである。

○祈禱の使徒会○

(一般) 生命の尊重
(布教) インドにおけるキリスト者の青年

司教特別委員会より全国カトリック青年へのメッセージ

聖ペトロ・聖パウロの殉教の地ローマにおいて、第二バチカン公会議が開かれ、世界における教会の姿と使命がより明確にされ、教会刷新の力強い歩みが始まってからすでに15年、21世紀は20年後に迫っております。この時にあたり、自らの信仰を確め、自己刷新のきっかけともすべく、80年全国カトリック青年大会を、キリシタン殉教の地長崎において開催したいとの強い要望が提出されました。日本の司教団は、この青年たちの要望を大変よろこばしく思い、早速特別委員会をつくって、これに対応することにしました。

大会の場として、キリシタン殉教の地長崎が選ばれました。省みてここに、キリストの十字架の秘義、ローマ初代教会から、日本キリシタンにいたる殉教の歴史を思うとき、神の人類に対する愛と、それに対するキリスト者の応答は、まことに「いのちがけ」のもの、血を流すあかしのうちに全うされたことが分かります。元来、「証人」という意味のマルティロスが殉教者を示す教会用語となったことにも、そのことが示されています。キリストの証人であることは、キリストに殉じること、キリストのために死ぬことに他ならなかったからであります。いま、私たちは、長崎にかつてのキリシタンの殉教の地という史跡的な意味を考え、観光旅行に行くのではありません。信仰のあかしをする、キリストの証人になるとは、どのような「生きざま」をすることかを、実感をもって学びとるために、殉教の地長崎に旅するのであります。

長崎に住むキリスト者にとっても、この意味での「長崎」への旅は、必要だといえると思います。

巡礼を大会の一つの特色としたいと考えられていますが、これもキリスト者の生き方に対して、本質的意味を持つものであります。

第二バチカン公会議は、教会を「旅する神の民」と表現しました。

このイメージは、一か所に安住して農耕を営む民族の姿よりも、放牧をしながら、テント生活で移動していく民族（旧約のイスラエルの民）の生活形態を原型としたものですが、「神から出て神に帰る」人間の救いの基本的な姿を表現しています。停滞することなくたえず前進する姿、どんなに居心地がよくても、そこをひきはらい、新天地を求めて歩きはじめるいさぎよさや、身軽さ、旅の途中で出合う困難や不便を克服する忍耐と強じんさ、しかも、ひとりでいくのではなく、隣人、友人、身内のものなど、群となり民となって歩む姿、それはキリスト者の人生に他なりません。

長崎への巡礼は、私たちにこの世での歩みがいかなるものであるかを考えさせてくれるでしょう。

巡礼は質素で、祈りと助け合いのうちに行いたいと思います。ここでも観光旅行でないことを強調したいのですが、それは、私たちの生活それ自体が、観光旅行的色彩をもっていないことの証明であってほしい（ふだんの生活は、観光的で、大会のときだけが巡礼的というのではなく）と思います。

私たちが信仰とは何かをあらためて確認し、それを実生活の中でどのように具体化しているかを反省し、世界に向って証言する時、それはまさに宣教の場ともなるでしょう。祈りも、巡礼の催しも、友との語りあいも、みんなこの証言的色彩をもつものでありたい思います。

そして、この私たちの中に脈々と流れている信仰のエネルギーを確認しあうことは、ひとりひとりの内部変革を刺戟し、ひいては教会の刷新におよんでいくにちがいありません。

大会がこのようなものとなるためには、そこに参加する青年たちが、いまひとりひとりの、そして仲間の生活の場、活動の場で、この信仰証言ができるような生き方をしているかを自らに問い、実践していく必要があります。大会の準備として、全国の青年に課せられていることの根本はここにあります。

現地での受入れ準備は、現地の司教様をはじめ、九州全土のカトリック青年諸君の熱意で着々と進められています。それに応える意味でも、全国のカトリック青年諸君の準備を期待する次第であります。

事務用機器・コンピューター・学校用・幼稚園備品
㈲シオタ事務機・㈱日本幼育社
社長 カシミロ・塩田五郎
福岡市南区大楠2丁目23—15（西田ビル2F）
TEL 代表 092 (521)—8266—7

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話 52—3306
52—8622

ヤング・接近

行橋教会 追立泰治

「激動する現代社会の中にあっては、特に教会の中でも、若者の占める位置は大きい。従って、我々青年がよほど、しっかりして、自覚と責任をもたなければ…」と張りきっているのは、行橋教会の追立泰治君。二十二歳。現在、九大の学生として、将来学校の先生を目さしながら、日曜日は自分の所属する教会（北九州）に帰り、青年会の有力なメンバーとして活躍している。青年会の仕事としては、まず小教区での広報、渉外を担当し、青年たちでスタッフを組みながら、小教区内のニュース、行事、お知らせ等の教会報、新聞づくりに力を入れ、信者同士の大切な連絡機関としている。そして他教会との連帯感を大切にするという意味からも、青年達で受けもっている広報員は、欠くことのできない活動源であって、中でもその編集長を務める追立君は、小教区の〝外務大臣〟的な存在となっている。

現代社会に生きるカトリック青年に希望することは？と問えば、「いろいろと言いたいこともありますが、今はただ、今秋の教区青年大会と、CLC大会、それに、来年の夏に開かれる、80年・全国青年大会のことで頭が一杯です…とにかく、この三つの大会に、特に教区の青年達が注意を傾けてくれることを願うだけです」という返事だった。来年の夏に迫った、80年・全国青年大会に備えて、今年の秋、九月十五・十六日に教区青年大会を開催すべく、目下準備が進められているが、北九州地区レベルでの責任者として、彼自身東奔西走してがんばっている。それと並行して、今秋九月二十二～二十四日、北九州で行われるCLC九州大会でも準備委員の中心メンバーとしてフル回転中である。CLCについては、「クリスチャンの、真のあるべき姿を求めて、理想へと向かおうとするキリスト者の多数の参加を呼びかけていますのでよろしく。」とのことである。

また、教区大会と80年・カトリック青年全国大会については、「二十一世紀へはばたく、今の若者が結集して、各々の、若者・キリスト者としての立場と使命を確認し合い、信仰の真髄を探りながら、今後の教区、日本の教会を担う使命感に目覚めるためにも、多くの若者の参加を願ってやまない…」と訴えている。

自分の小教区、そして教区全体、更に、日本の教会のために…とその夢も大きく、青春の全てを賭けて、エネルギッシュに、未来にチャレンジしようとする若者の心意気を紹介しておこう。

（文責・竹森）

新しいメンバー選任される
福岡教区司祭評議会

福岡教区司祭評議員の二年間の任期満了に伴う改選の結果、次の諸師が選出された。

(一)エキス・オフィチオ
伊東師（教区総代理）
山内師（大神学院院長）

(二)邦人地区選出会員
山田師（浄水通教会主任）
鵜野師（直方教会主任）

(三)パリー外国宣教会選出会員
デシャンプ師（八王寺主任）
ベルトラン師（永巻主任）

(四)コロンバン会地区選出会員
コーフィルド師（地区長）
デーキン師（若司教会主任）

(五)ミラノ宣教会地区選出会員
ガザルディ（佐賀主任）
ピアッチニ師（鳥栖主任）

(六)福岡市内宣教修道会選出会員
鈴木忠一（御受難会）
リシャル師（箱崎教会主任）

(七)司教直任会員
堤（畏）師（大楠教会主任）
溝師（湯川教会主任）

黙想会リポート

北九州A・C・O

北九州A・C・O（カトリック労働者運動）は、四月二十九日から二日間、黙想会（宇部教会林神父指導）を行った。〝A・C・O〟として、またA・C・Oに何が求められているか〟にスポットを当て、日頃の多忙さから離れて福音の挑戦をうけ、自分の心の深みを知り反省することによって人間の尊厳に迫るということから出発した。（イエズスとマルタ、マリアの出会いルカ10・83－42）

◎神の考え方とわたしたちの考え方の違い－わたしたちが正しいと思っていることや当然だと思っている考え方に対して、神はそれで良いのか、もう一度考えてみなさいと教えている。最後に働いた人にも皆と同じ様に生活があり、また、仕事がもらえないために一日中立っている者がいる。（マテオ20・1－16ぶどう畑の雇人）

◎復活されたキリストに出会い、そのキリストから評価されることを強く願うこと、そのためにも真のキリストを知ることは大切－弟子たちはまだキリストをよく知らない。会堂の司の娘をなおしに行かれるキリストに関心が薄い。みんなから見捨てられ、悲惨な状態にある出血症の婦人に対して、弟子たちは知ろうともしない。また見ようともしない。キリストが見逃さない人、かかわりをもとうとされる人を、キリストの恵みが流れ出しても知ろうとしない。わたしたちの日常生活では如何？（マルコ5・21－43ヤイロの娘・出血症の女）

◎人間解放は、人間が人間を抑圧している。わたしたち働く者の解放は、内的解放をめざすことが使命ではなかろうか。しかし、この内的解放の危険性として人間の手段化がみられる－ファリザイ派の人々は、キリストをおとしいれるために姦淫の女を目的・手段として使っている、この彼女の状態など考えられていない。粛清の論理がわたしたちの中にも見られないだろうか、人をありのままに認めることから出発することの困難さがここにある（ヨハネ8・1－11姦淫の女）。私たちの社会は99：1の論理でやってくる。1を殺してしまう、この1はキリストにあたる。わたしたちの組織（機構）や運動は99の状態になった時こそ注意しないといけない。（マテオ18・11－14善き牧者）

◎人間一人ひとりを尊いと感じる時と感じない時とがある。身心共に健康であることは大切だが、こわいのは人間の重さ、心を感じなくなった時である。わたしたちの中にある福音の神、虚構の神について少し考えてみよう－歴史の中で出エジプト時代から神は変わらない。ある状態からある状態へ連れ出すのが福音の神であり、反対に閉じこめてしまうのが虚構の神（このためにこれまで殺りくが行われている）、福音の神のチェックポイントは十字架である、解放のためどうしてもこれを通らなければならない。エンマウスの弟子たちは悲しみの中にエルサレムを離れている。この弟子たちのありのままの状態からキリストは共に出発されている。私たちも長い道のりの中で、キリストを見出すことが出来なくなる時があるかも知れない。しかしいつも福音に接していると、苦しい時、悲しい時がきても光を見出す力となるであろう。この弟子たちがキリストの話を聞いて心がもえたように、すべての日常生活の中でキリストは今も生きつづけている。復活されたキリストのパンが今もさかれていることは共同体としての出発である。永遠の生きざまは永遠に続く、子供たちにも、孫たちにも…。（ルカ24・13－35エンマウスの弟子）

－◇◇◇◇－参加者談－私たちが労働者として、労働者階級を福音化する使命について、自分たちの生活の分かち合いを通して指導して下さった林神父様のお話は明日からの生きていく力となったようです。この二日間、下は4カ月の赤ちゃんから上は小学校3年生までの子どもを連れて参加した意義は大きいものでした。子どもたちにとっても、親たちのこの黙想会は大変なことだったでしょう。でも親として、人間として生きていく上で大切なことを学んだ私たちは、子どもたちにもまわりの人たちにも、これから歩いていく中で伝えていきたいと思います。最後に、この黙想会に心よく会場を準備して下さった援助会の皆様、私たちが十分に黙想できるようにと大事な休日を子どもたちをみるために時間を取って下さった方がたに感謝いたします。

七月年忌の司祭

▼ヨゼフ・プルトン神父一九五七年七月二十五日元呼子教会主任
▼ルネ・ルリエ神父一九七〇年七月二十八日元本城教会主任

内科、放射線科、循環器科、消化器科
正金診療所
院長　古賀明恭
福岡市中央区天神4丁目4-11　福岡ショッパーズプラザセンタービル7階
休診日日曜、祭日、ダイエー定休日　TEL（713-7912）
診療時間　午前10時～午後6時　昼休みなし
土曜日　午前10時～午後4時

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－23
TEL 771－3657

〈羊飼いの牧場〉

迷える羊飼い

中村道生

聖書によると、良い羊飼いは、羊を知り、羊に、先立ち、羊がそれについて行き（ヨハネ10・3～4）、羊が迷ってしまうと、見つけだすまで探しに行き（ルカ15・4）、自分の羊に生命を与える（ヨハネ10・11）とある。しかし、新米の羊飼いが、良い羊飼いのようになるのはなかなか難しい。せっかく平和に草を食べている羊をつっ突き回して、いらいらさせて、自分ではそれからどうしてよいかわからなくなって途方に暮れ、羊を迷わせるだけでなく、自分も迷える羊飼いになってしまう。そんな新米の司祭に、ある老練の司祭が一つのことを教えてくれた。

「俺たちの大親分（彼はキリストのことをよくこう呼んでいた）は数字にはめっぽう弱かったから、お前さんも、あんまり数字のことは心配せんほうがいい」というのである。彼独得の聖書解釈によると、「キリストは、かつて、多ぜいの人に食べさせるために奇跡を行ったが（ヨハネ六章）、なぜ、十二のかごに一杯になるほど余計にふやしたか。すべてのことをご存知で、自由にふやすことができたのに、また十二のかごに集めなければならないような二度でまのいることをしたのか。やっぱり奇跡を行う時も、どんぶり勘定でやったに違いない」というのである。「ぶどう畑の雇人の話（マタイ25章）もそうである。この雇人は朝九時に、ある人を、当時の一日の労賃である一デナリオで雇った。しかし、十二時と三時と五時に雇った者にも、一デナリオを払ったのである。気前がいいというえば、これほど気前のいい雇主はそうざらにはいないはずである。ルカ十五章に出てくる羊飼いはもっとひどい（？）。この羊飼いは、大人しい九十九匹の羊を野原において、箸にも棒にもかからないような迷った羊を、見つけ出すまで探しに出かける。彼の頭の中には九十九匹の羊のことなんか頭には入っていない。ただ迷った一匹の羊のことが心配でならないのである。毛並のいい九十九匹の羊と、ドジな迷える羊とはどっちが得か考えないのである」と。だから、長い司祭生活を続けてきた老司祭は、自信をもっていい切った「司祭にとって大切なことは、羊がどれだけ増えたか、どれだけ減ったかを気にする管理者になるのでなく、羊と嬉起をを共にする羊飼いになることだ」と。

キリストは確かに、私たちの主であり、師であり、大祭司である。しかし、同時に、弟子たちの足を洗われた主であり、仕えられるために来たのではなく使えるために来られた方である（マテオ20・28）。かずかずの苦しみによって従順を学ばれ、人々の救いのための贖いの小羊となられた（ヘブライ5章）。キリストは学者や金持の招待を受けられたが（ルカ7章・14章）、より多く、貧しい人や罪人といっしょに食事をされた（マタイ9章、ルカ5章）。キリストはまた、しばしばひとりで山に登って祈られたけれども、世の終わりまで、常に私たちとともにいる方なのである（マテオ28・20）。

とはいえ、新米の司祭には、洗礼を授けたのは何人だったかとか、日曜日のミサの出席率はどれくらいだとか、いろんな研究会や教会の行事への参加者はどれくらいだということが気になるのである。公教要理を受ける人が誰もいなければ、すぐにやる気を失してしまい、ミサの出席率が悪ければ、文句をいい、遅い者が多ければ、皮肉のひとつもいってしまう。そして、自分の言葉が足りなかったこと、言い過ぎたことを悔み、ついには自己嫌悪に落ちる。しかし、喜んで、教会に走ってくる子供の姿や、熱心に祈っている人の姿は沈み込みそうな気持を軽くしてくれる。これに勇気づけられて、一軒一軒を訪れ、互いに心を開いて話し合う時、いままで説教では見えなかったことがみえてくる。祭壇を下りれば同じ釜の飯・ご聖体を頂き、キリストの血を分けた兄弟である（こういう云い方をすると、ヤクザのヤーさんみたいになるが、かの老司祭も、キリストを大親分と呼んでいたのだから許されるだろう）。腹を割って話し合えた時、そこには、迷える羊と迷える羊飼いという関係でなく、キリストによって結ばれているものの兄弟的なつながりを感じ、またともに弟子として遣わされていることを感じる。

〝私の名によって二、三人が集るところには、私もまたそこにいる〟（マテオ18・20）これはキリストの約束である。多くの人数が集るかどうかは問題でない。キリストの名によって集る時、そこに真の教会＝エクレジアーキリストによって集められたものの集いがある。キリストはいつも私たちに先立っておられる。私たちが、あまりに人間的なことに引きずられている時、キリストを見失い、迷えるものとなってしまう、そして、実際しばしば、私たちは迷ってしまう。しかし、丁度その時、迷える羊を探される牧者と出会うところに信仰の不思議さがある。

（高宮教会主任）

邦人司祭黙想会

恒例の邦人司祭黙想会は、十月十五日夕方より二十日朝まで行われる。福岡黙想の家で、東京教区の沢田和夫師が指導師である。

なお、黙想会中の十八日（木）に予定している黙想会参加記念撮影には、全員出席をお願いする。

会合と催し

▽平田 司教
7月1日 教区修女連総会
15日 聖パウロ会訪問
24～26日 福岡市内教会の小学生の練成会

▽福岡黙想の家
7月1日 グラチア会
3日 聖公会婦人の祈りの会
6～9日 英会話ゼミ
12～26日 ネメシェギ師の神学研修会
15～16日 コイノニア
18日 ミカエル会
27～31日 YMCAゼミ

司教協財政の教区分担金増額

信徒の教区費への関心を

日本カトリック司教協議会の本年度定例総会は、提案された原則を議決したが、その中に、経常支出は経常収入をもってまかなうこと、また、経常収入の主要財源は、教区、修道会からの分担金と規定されている。事務局によれば、本年度予算の経常支出は六千万円余りに対し、従来の経常収入（分担金）は約二千万円となり、修道会、教区の分担金増額が必然的要求となった。

各教区とも本年度から信徒実数一人あたり五千円の分担金を負担することに決定した。福岡教区ではこれを基準にして算定した分担金を百二十万円とみている。教区は、分担金支出増にともなって、各小教区、信徒の教区費への関心と協力を強く訴えている。

"広報の日"献金

（5月20日）

大名町	52,130	呼子	4,000	行橋	10,824
浄水ケ丘	41,901	佐賀津	20,000	手取	24,744
光唐	15,180	伊万里	12,570	荒尾	10,000
箱崎	8,000	鳥栖	5,000	人吉	11,400
東田	19,660	武雄	4,330	本渡	4,265
西新	16,369	多久	8,550	健軍	12,000
大楠	8,850	門司港	3,600	帯山	12,000
美野島	10,000	小倉	22,044	水俣	6,000
茶山	7,445	川崎	12,320	大江	13,302
高宮	14,420	湯川	52,713	崎津	21,100
老司	18,000	戸畑	28,896	玉名	5,270
吉塚	15,000	若松	39,809	菊池	40,000
古賀	12,759	天神	10,505	八代	12,970
二日市	13,000	八幡	11,000		
久留米	25,000	王寺	7,395		
大牟田	9,500	黒崎	20,000		
吉野	1,013	水巻	11,351		
今村	90,200	直方	6,425		
本郷	11,318	飯塚	7,030		
小郡	4,725	田川	3,900		
馬渡島	12,700	新田原	43,775	合計	936,258

〝任意保険に加入してから車の運転を致しましょう〟
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険等々
福岡市中央区天神2丁目13番7号
（長銀ビル5階）AIU福岡支店内
大石保険事務所 大石真澄
〒810 TEL 771—4761

祭壇・洗礼盤他
石石他
理影の
大御そ
素材
石のパイオニア
髙木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2—21
TEL 52—2417

心の糧

うの泰年

聖家族のご訪問

聖木曜日に司教様の祝福をいただいた聖家族のご像は、直方教会をふり出しに、新田原、湯川と、今ゆっくりと北九州地区を巡っておられます。大きな感動とよろこびを巻き起こしながら。

ご像は一教会に一ケ月と制限されていますので、残念ながら全家庭を訪問していただくことはできません。しかし聖家族の祝福は無限ですから、ご像を迎えることのできた家庭も、できなかった家庭も、すべて豊かな祝福をうけていると信じます。

聖家族の足跡聖家族のご訪問はいたる所に多くの恵みをふりまいておられます。

久しぶりに家族そろって祈りをしたという人々、憎しみとわだかまりが一晩でとけてしまった人、夫婦、親子の危機をきわどい所でのりきった家庭もあり、教会にもおちつきと平和がみなぎりはじめ、人々は真剣に子どもたちの召命を考えるようになりました。

聖家族の巡回によって明暗がはっきりして来ました。あいまいなもの、不確かなものが明らかになり、善いものとみせかけのものを見分けることができるようになりました。忘れていた大切なものを思いだし、失なおうとしていたものをとりもどしはじめました。働くのはだれか、

「仰せのごとく、われになれかし」（ルカ、38）自分の思う通りではなく、神のおのぞみ通りに事がはこびますように…この信仰を貫ぬくように。〝家庭訪問をあなたがするのではなく、聖家族がなさるのである〟。これが成功の秘けつです。

子どもを育てるのは神であり、病人を慰めるのも神であり、悲しむ人、悩む人を救うのも神であって、決して私ではない。たとい、ミサにあずかり、聖書をたずさえ、祈りをしたにしても、神の前に身をのりだして自分がやろうとする限り、必ず失敗します。

神を応援者と頼みながら、あくまで自分でやるべきだと構えるか、それとも早々に身をひいて神のお働きにすべてをまかせ、自分はそのおん腕にしがみついてはなれない。そのいずれの態度をとるか、私たちは今決断を迫られています。しかも急を要することなのです。「その方が聖霊と火できよめて下さるでしょう。私はその方の道を準備し、その小道を平にするだけです。」（洗者ヨハネ）

みなさん、聖家族がきっとみなさんの婦人会を守って下さると信じます。そして家庭はもちろん、教会も地域社会も、すべて神がなさるかぎり万事うまくいくはずです。私たちとしては、一歩ひきさがる姿こそ最も美しく、最も真実であると思うのです。

（北九州婦人会指導司祭）

（映画評）マザー・テレサとその世界

近代映画協会と女子パウロ修道会の共同企画と製作で、千葉茂樹監督による〝マザー・テレサとその世界〟を観賞した印象は、率直に云ってフィクションではあるまいかと考える位強烈であった。現実の世界で存在し得るのか、また存在を許されるのか、と目を疑わざるを得ないほどに問題の大きさを感じた。

貧しさは人間社会の永遠の課題であるが、この映画にみる貧しさの実態はわれわれの想像を遥かに越えるものである。日本人的感覚では捕捉し難い、それでいて傍観できない恐ろしさを含んでいる。六億の民の貧しいインドでは、この国辱的にも見える映画は心良く思われてはいまい。事実、この映画の撮影許可をとるのに、二年有余の歳月を要したと聞いている。

貧しさのために、今日か明日かと死に駆り立てられる人々を黙視することができようか。キリストは貧しい人を愛し、貧しさの分かち合いを実行した。マザー・テレサとその姉妹たちは、キリストのみあとに続く。「最も本質的なことは不幸な人々の面倒をみることではなくて、その人々を愛すること」また、「キリストは見えませんから、キリストご自身に愛を表すことはできません。でも、他の人はいつでも見えます。もし、キリストが目の前にいらしたらしてさしあげたいと思うことを、その人たちにするのです」と、マザー・テレサは語るのである。「イエススを、あなたが出会う人たちに与え続けなさい。ことばでではなく、あなたのあり方そのもので。あなたはイエススそのものなのです」。この信念が、マザー・テレサとその姉妹たちを死の家の瀕死の病人や癩病者のお世話に向かわせるのであろう。貧しく生きる彼女たちは、心からのほほえみをもって生きている。聖にして、美しい世界がそこにある。「苦しみは苦しみそれ自体ではむなしいものですけれど、キリストの受難を分かち合う苦しみは、すばらしい神さまへの贈りものです。人のささげる最も美しい贈りものは、キリストと苦しみを分かつこと」を体験しているのである。

この極貧の修道会には、インドの中流以上の子女がかなり入会しているそうで、厳しいカースト制に生きるインドでは、正に現代の奇跡と云わざるを得ない。人びとはこんなに苦しんでいる。希望にみちた愛の世界はあなたの心にかかっている、と呼びかける映画である。この映画を観て、あなたは平和に癩病者に触れ、貧者の味方になる自信を持ったであろうか。世話するだけでなく、心を与える〝マザー・テレサとその世界〟は日本カトリック司教協議会の推せんとなっている。（Y・S）

微光

昨年の渇水生活が信じられないほどに、豪雨に恵まれた昨今の福岡県であったと思う。恵まれたと喜んでばかりはおられない。行橋市をはじめ水害被災者のみなさんには、心からお見舞を申し上げたい。いよいよ夏本番に入る。大衆にちがいなきわれビールのむ、杞陽汗かきの裸の王様には、どうも夏は面倒である。洗濯ものの山はお手伝いさん泣かせにもなる。ビール腹に触れて、泡の空しさをしみじみと反省している。▼夏休みこれは学生だけの特権ではなくなったようである。とはいえ、この長さにおいてその有に出るものはないであろう。今日、短期間ながら、夏休みを認めている職場が増えつつあることは喜ばしい。湿度の高い日本の暑い夏は、まだ、格別である。神のすばらしい贈りものを有難く頂戴しなければ…と社会に呼びかけたい。寺の子は寺のつとめや夏休、雨園子、人生にはそれぞれの生きざまがみられる。休みを知らない生きざまもある、と人はいう。▼人生は神の愛の刻印であるが、その二重写しが隣人愛であろうか。休みなく愛するために休みを愛さなければならないのでは？我生の今日の昼寝も一大事、虚子、読者のみなさん、あなたの人生はあなただけのものではない。多くの者が、あなたの愛を、あなたの手を必要としている。他人の中に、愛される権利を認めなければならない。かれらはみな、神のいとし子である。厳しい夏がやってくる。ご自愛を祈る。夏風邪はなかなか老に重かりき　虚子

建築設計監理
教会・修道院・学校・幼稚園・他
菅建築設計事務所
所長 菅　種雄
福岡市中央区警固3—11—14
TEL 092・741・8852

吉川病院
院長 吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL 521—0568

カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行兼編集人 山田成章
電話092—522—5139
振替口座 福岡42981
定価 一部 20円

共同訳聖書作成資金募集
一、募金額 五百万円
一、方法 一口五百円
一、送り先 本誌編集部
寄付者

パパさまは語る

「聖ペトロ、聖パウロ両使徒の墓の前で」

（七月四日、合同謁見に際して）

ペトロの教会はローマ教会と普遍教会の2つの次元

一、先週、ローマの教会では、懐しい聖なる想い出の日を過ごしました。この記念は、神のみ前でも、人間の中でも、特殊な関心を呼びさまさせる種類の日でありました。

神に対しては、私たちの感謝と新たな信頼を申し上げる機会でした。また人々の間で、この様な機会にのぞんで、非常に重大な精神の分かち合いが出来て、心の要求を少しでもみたしてくれるものであります。

私は、この都、この土地の者ではありませんが、両使徒が神に召され、殉教の栄冠を得られた記念日をはじめて当地で迎えるよろこびを得ました。長年私はカトリック教会の胎内で、故郷でもこの両使徒とのつながりを記念しておりましたが、本年はこの教会の中心地にあって、昔、ペトロをケネザレットの湖畔からこのローマにまたタルソのパウロを最終的にこの地に導いた不思議な召命の神秘が、歴史の現実をもって私にも語りかけているのです。

両使徒の祝日の第一晩課を誦えて、六月二十三日の夕べの感動は深いものでした。世界の諸教会のローマ聖座との一致の表徴であるパリウムの祝別のあと、私たちは大使徒の聖なるなきがらが納められた地下の場所に降り立ちました。この場所は、近頃専門家の発掘と検証によってたしかめられたところです。大聖堂の中心、ペトロの後継者たちが、常にいけにえをささげるこの祭壇が語りかけるものは非常に大きな証言です。ペトロ自身、この祭壇の脇で十字架につけられ、カルワリオのキリストのいけにえに一つとなって自らの生命を奉献したところです。

言い伝えによると、主はこの同じ日に聖パウロのいけにえも受け容れられたと言うことです。

また、いけにえはペトロとパウロだけではありませんでした。六月三十日の典礼は、ネロ皇帝の迫害で血を流したすべての教会の殉教者の記念の日でもあります。昔の歴史家、タチトウスもローマ教父クレメンスも彼等の殉教史をつたえています。しかしこの殉教はローマでの最後のものというより、むしろ最初のものでした。四世紀のはじめ、ジオクレチアヌス大帝の時次に棄教者ジュリアヌスの時につづいて、ローマ教会は数知れないこれ等殉教者のあかしの上に深く根をおろしたのであります。この古代の土地は、水の洗礼のみでなく、「アベルの雄弁な叫び」（ヘブレオ、十二、24）である殉教者の血による洗礼によって立っているのです。

現今の文化の変遷の中で現代生活の苦悩の中で生きる私たちは皆目をあげて、主の御目がこの地を教会の誕生の地とされ、その大使命を与えられた事を重く考えねばなりません。全世界の教会がその一致の基礎を見出そうとしてこの教会への歩みを重大に考えるものであります。

二、ローマの教会の初代の変遷の想い出は前週行われた重要な意味をもった出来事につながるものであります。常に止ることのない聖省の歩みこそ、普遍的で使徒的な教会の中でのキリスト教信者たちの一致に貢献するものであります。

私たちはローマカトリック教会の枢機卿にあらたに十五名の公式任命を行いました。一名だけ後日公表される事になりましょうが他の方々のお名前は既に御存知の通りです。

この親任式の中に、ローマ教会の千年の伝統が新たにされ、それは今後の教会の安定性と、地域的であると同時に世界的な重要性を帯びるものであります。

地域教会としてのローマ教会がローマの都市に結ばれていたのは既に十九世紀もの長い間であって、使徒ペトロもこの教座に結ばれていたものです。ペトロのあと、このローマ教会はその司牧的奉仕のために自分達の司教を選び、それぞれの時代の可能性と要求に応えたものであります。

枢機卿団の設立のおこりは、ローマ市の聖職者の代表によってこの市のためにローマの司教を選んだことがその起原とされています。当時、既に教会の生活に重要な団体となっていて、千年来、ペトロの座の継承を確保する機構となって行ったのでした。この組織は世界的教会——即ち全世界に散在する地方教会も普遍的教会の部分を構成すると言う意味を持つものとなりました。キリストはその「鍵に関する権能」をペトロの上にこそ憶かれたので、この事が正統の意味を含んでいるものとなったのであります。

近代において、特に、パウロ六世の教皇職を通じてこの枢機卿団はいちじるしく国際的に輪をひろげられるようになりました。

現在、この枢機卿団は、七〇名の欧州人、中南北アメリカから四〇名、アフリカ大陸の十二名、アジア十名、オーストラリアとオセアニア三名を含んでいます。すべての枢機卿は、各地の主な地方教会の牧者として、或はローマクリアの長官としての重責を荷なっていると同時に、ローマの司教を選んだ初代の聖職者のあとを受けて教皇の選挙にあづかるものであります。そのために、枢機卿任命にあたってローマ市周辺の教区か教会が名義上与えられるのであります。この様にして枢機卿にはローマ教会と普遍教会の二つの次元がゆだねられるのであります。その理由は、ペトロの上にたてられた教会はこの二つの次元を常にもっているからであります。

三、以上の様ですので、過ぎた記念日の週間は、特別な仕方で私たちを教会の歴史とその奥義に親しませて、或る意味ではその実体を新しい姿におしすすめるよい機会となりました。今日でも昔日の重大な意味を含むこれ等の出来事をこれ程切実に生きさせるものを持っています。キリストの御母聖マリアに倣って、私たちもこれ程重要な出来事は「深く心に納めて」考え（ルカ二—51）必要に応じて、このことが内に含む大切なものを外面に固めることをつとめねばなりません。

私はもう一度、此の度枢機卿団に加えられた方々に心を向けて、ここに集まっておられる皆様と全教会のお祈りにゆだね度いと存じます。

「世紀の王」（チモテオ一—17）であられるイエズスキリストに「使徒と予言者の基礎に立てられた教会」（エフェゾ二—20）、初めからペトロの上に基礎を置き、万民の使徒の想い出に結ばれたローマの教会を心よりゆだねて止みません。

（伊東誠二訳）

事務用機器・コンピューター・学校用・幼稚園備品
㈲シオタ事務機・㈱日本幼育社
社長 カシミロ・塩田五郎
福岡市南区大楠2丁目23—15（西田ビル2F）
TEL 代表 092（521）--8266—7

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話 52—3306
52—8622

ヤング・接近

手取教会　吉沢穣司

「現代社会は、あらゆる面で危機的状況にある」と嘆くのは、熊本手取教会の吉沢穣司君。現在、肥料関係の家事手伝いをしながら、時には詩と芝居に興じている。二十三歳。所属する手取教会では、青年会長として活躍していたが、今は青年会の一メンバーとして独自のタレントを生かしながら、小教区発展の為に尽力している。

現代の教会に対して思うことは？と問えば、「キリスト者は、まず現代社会の危機的状況を見つめることが必要。そして、その中で現代社会の中にある教会、あるいは、信者のあり方、その位置をよく認識して、もっと強く教会のカラー、信者の生き方を世に打ち出し働きかける必要があるように思う」と切々と語ってくれた。激しく浮き沈みしながら、現代人は、外面的にも、内面的にも、いわゆる〝人間らしさ〟を失いつつある状態の中で、それを本来の姿に戻すために、今こそ教会が、キリスト信者が立ち上がらなければ…という情熱を感じさせられた。

一カ月後に迫った、今秋の教区青年大会に向けて、教会単位、地区レベルで準備が急がれているが、手取教会は、来年夏の全国青年大会を準備する各教区代表青年の会議、打ち合わせ等で、再三、そのメッカ、中心地にもなっている。そのための場所提供、議事進行、あるいは合宿準備など、いろいろの面で青年達が協力してくれているが、当人は「全国大会にしても、教区大会にしても、要は青年達が、現代の生き方をお互いに確認し合うためのものにして貰いたい。現代社会の中に生きるカトリック青年らしく、たとえ失敗しても恐れず、思い切って、はつらつとした態度で社会の中に入ってゆける人となれるように…キリスト信者の青年同士が集まって、その認識を新たにする絶好のチャンス…大いにがんばって青年大会を成功させよう！」という、ファイトの固まりのような力強い、若々しい答えが返って来た。

教区青年諸君、同じキリスト信者としての、一若者の声をここに紹介させていただく。

（文責・竹森）

（回覧板）

◎福岡市中央区小笹四丁目十一―二聖パウロ女子修道会福岡修道院では、七月二十二日シスターパロスキ・エンリカ院長の東京転出に伴い、シスターマリア・ピエラ野浜京子（37歳）が院長に就任した

◎一昨年十一月に増改築工事を完成して祝別式を挙げた茶山カトリック教会は、この度、付設幼稚園園舎の老朽化と手狭のために、園舎の新築を進めることになった。すでに七月二十四日、平田司教による定礎式が行われ、工事が始められた。夏休みにも拘らず、大型トラックの往来でにぎわっている。昭和五十五年一月完工予定である。

◎佐賀県東松浦郡呼子町の呼子カトリック教会は一〇〇年近くの長寿を保つ木造建築物であるが、破損力所がひどく、その上信徒を十分に収容出来ないために、増改築工事にかかることになっている。教会の説明によれば、現在の教会内部が二九・五坪、玄関が二坪となっているが、増築部分は教会内十六坪、玄関一・九坪増になる予定である。また、教会の屋根の一部分には教会の守護者であるイエズスの聖心像が取り付けられる。現在整地などの基礎工事に入っているが、十一月下旬、王たるキリストの祝日に完成目標をおいているとのことである。

◎八月十五日（水）は聖母被昇天祭（守るべき大祝日ではない）であるが、社会行事としては〝お盆の日〟である。教会では土着化の一端として、日本の伝統的習俗のキリスト教化に強い関心を寄せている。お盆の日の墓参りを奨励する意味もふくめて、納骨堂に眠る人々の〝永遠の安息〟のために、午後一時三〇分から、現地で平田司教と司祭たちの共同ミサが行われる。福岡地区の納骨堂は、福岡市南区大字和田字大谷にある。

◎八月二十五日（土）～二十七日（月）まで、二泊三日の予定で、福岡カトリック黙想の家を会場に、福岡市内の信徒中学生の練成会を開く。参加費四、〇〇〇円、持参品は寝まき、洗面用具、筆記用具、運動着、着替えとなっている。申し込みしめ切りは八月十五日

◎八月二日（木）～四日（土）まで、熊本地区信徒協議会主催による少年少女の練成会が行われる。熊本市立金峰山少年自然の家を会場に、深堀勝人師外シスター、大神学生などが協力を約束している。

暑中お見舞申し上げます

昭和五十四年盛夏

福岡司教　平田　三郎

福岡教区聖職者一同

福岡教区神学講座要項

九月十一日～十二月十一日

一、講義科目および担当講師

9月11日（火曜日）教会史（近世の教会）高木師
9月18日（火曜日）教会史（近世の教会）高木師
9月25日（火曜日）教会史（近世の教会）高木師
10月2日（火曜日）教会史（近世の教会）高木師
10月9日（火曜日）聖書における終末論　高見師
洗礼・堅信　ラブラント師
10月16日（火曜日）洗礼・堅信　ラブラント師
10月23日（火曜日）洗礼・堅信　ラブラント師
10月30日（火曜日）聖書における終末論　高見師
11月6日（火曜日）教会史（近世の教会）高木師
11月13日（火曜日）教会史（近世の教会）高木師
11月20日（火曜日）教会史（近世の教会）高木師
12月4日（火曜日）洗礼・堅信　ラブラント師
12月11日（火曜日）洗礼・堅信　ラブラント師

二、講義期間

9月11日～12月11日まで毎週火曜日

三、講義会場および時間

午後六時～八時四〇分　雙葉学園中学教室

四、受講料

350円×13＝4,550円　当日会場において受けつける。

「心のともしび」の特別献金

本年も手をつないで協力を

昨年、日本司教協議会の賛同を得て呼びかけられた「心のともしび」運動の特別献金は、一〇、九一五、九六一円が集まり、日本の教会の宣教活動に多大の貢献をしたと感謝されている。カトリックラジオ・テレビによる宣教活動は、莫大な費用を要するが、明日の日本社会の福音化の重要性を認識するとき、継続すべき重大な仕事である。われらの協力によって同胞の「心のともしび」にしよう。

微光

向日葵が花頭捧ぐる原爆忌　冬一郎　34年前の地上最大の地獄絵図、原爆の惨劇が昨日の如く浮んでくる。長崎の原爆落下後一カ月目復員した筆者は、廃墟と化した浦上天主堂を目印しに、長崎駅から荒涼としたがれきの野を歩いて肉親を探した。生死の消息さえままならぬ不安に駆られながら、手当たり次第に、焼けただれた破れトタンのバラックを訪ねて廻る。やっと、数軒目のバラックにやつれ果てた父親の姿を見出した時、余りの変わりかたに我が目を疑った。▼戦争の恐ろしさについて多くの説明は不要であるが、一つの体験は貴重であったと思う。平和は絶対事であってはならない。真に平和を追求する心が、一つの戦争体験によって高められたことは事実である。焦土の上をさまよいながら、平和の人身御供について考えさせられた。この大きな犠牲にも拘らず、憎むべき戦争は絶えず繰り返されている。人間の潜在的悪暴性が抑制を失くしたとき、大惨事を招来することは歴史の教訓ではないだろうか。▼平和は多くの者に語られているが、戦争の恐ろしさを実感として知らない世代の中には、平和が大気の如く平然と見過ごされていないか、と気になる。平和が神の偉大な恩恵とはいえ、空を仰ぐだけでは与えられない。「平和に生きる」真実の喜しが望ましい。愛あるところに神・平和が成立する。暇にまかせて、人の心に不和を植えつける悪趣味は排除されなければなるまい。ひま人や蚊が出た出たとふれあるく　一茶

内科、放射線科、循環器科、消化器科

正　金　診　療　所

院長　古賀明恭

福岡市中央区天神4丁目4-11　福岡ショッパーズプラザセンタービル7階

休診日日曜、祭日、ダイエー定休日　TEL（713-7912）

診療時間　午前10時～午後6時　昼休みなし

土曜日　午前10時～午後4時

各種高圧ガス・溶接材料・その他

松尾産商株式会社

社長　松尾光敏

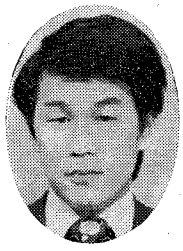
北九州市若松区藤ノ木1―4―23

TEL 771―3657

〈羊飼いの牧場〉

ある夏の日の出来事

鈴木信一



暑い夏です。クマゼミがワシワシと鳴いています。学校は夏休み。先生がたはホッとしていらっしゃるでしょうか、ここ小笹の聖パウロ会小神学校はホッと一息ついているところです。

先日、といっても夏休みが始まる少し前、ちょっとした用で教区の小神学校へ行きました。司教館の前に車をとめて、四国からわざわざ来られたドミニコ会の神父様と、佐賀のおばちゃんと私の三人が小神学校の建物に向かって歩き出すと、元気な叫び声が聞こえてきました。小神学生たちが元気に遊んでいます。ゴムボールを使って野球をやっている彼らのシャツは汗でびっしょり、グリップの先が折れてなくなったバットを力いっぱい振り回し、そう広くもない庭を所せましとかけ回る彼らの顔は、汗とほこりでよごれながらも実にいきいきとしていました。それもそのはずです。今守備についているチームのピッチャーは畠山神父様、子どもたちの校長先生その人なのでした。半そでのちぢみが、汗でべったりと背中にはりついている校長先生、子どもたちが投げ返す球を、いとも容易に片手でパシッと受けとめる校長先生、蚊にくわれるのも忘れて、私たちはこのすばらしい光景に見入っていました。

思えばこの一年間、私も小笹の丘でパウロの小神学生たちと共に祈り、食事をし、スポーツをし、汗を流してきました。でもです。私はまだ二十代、体力的にいって、そうするのは当然でしたでしょう。それにひきかえ、畠山神父様はそうお若くもありません。でも何と身軽に走り、バットを振り、子どもたちに励ましの声をかけておられることか。まるでご自身が小神学生であるかのように。

試合では攻撃チームが打ちまくっています。三人の観客が来てがぜん元気づいたのでしょうか、四点、五点と点がはいっていきます。私たちもその攻撃にじっと耐えて見入っています。やっと攻撃終了。しばらく見ていて気付いたんですが、ルールがちょっと変わっているんです。たとえば、あまり大きく打って、ボールが一定線をこえるとアウト、宿舎の壁にあたったり、樹木にボールがあたっても試合は続行。

さあ、十五分も見ていたでしょうか、十八対十九で迎えるバッターは校長神父様。ランナーは一塁、二塁で一打同点のチャンス。ピッチャーがふりかぶって第一球を投げた。バシッ！ボールはライナで、吸いこまれるようにして宿舎の窓にスポッととびこみました。なんとホームランです。逆点さならホームラン。スリーランホームランです。勝ったチームは大よろこび、打った神父様もニコニコ顔。見ていた私たちも大よろこび、思わずかけ寄って「ホームランおめでとうございます。」負けた子どもたちはちょっぴりくやしそう、でも、ほこりをかぶったすがすがしく、さわやかな顔、顔、顔が印象的でした。

私が福岡に来たのが丁度一年前、そのころから校長神父様のご健康はあまりすぐれないご様子でした。今でもまだ本調子ではないでしょう。野球を終わって、子供たちと話をしておられる時、「私は甘いものがだめですから」と、おっしゃっていました。

それにしても、先日のように子供たちといっしょになって汗を流し、遊んでいる校長先生の姿を見るにつけ思うのです。きっとうまくいく。すばらしい神学生が育まれ、巣立つにちがいないと。清い汗は、いつかかならず豊かに報われます。「涙のうちに種まく者は、よろこびのうちにかりとる」とあります。

苦しい時は、愚痴をこぼさず、ただひたすら耐えて、黙々と汗を流すのがいいのかもしれません。きっと、光がさし込んで来るでしょうから。まばゆい光が。

（聖パウロ会司祭）

会合と催し

▽平田　司教
8月15日　納骨堂ミサ
19～24日　"よりよき運動"の研修会（玉名）
19日　トラピスチン誓願式
25～27日　福岡市内の中学生練成会（黙想の家）

▽福岡黙想の家
8月1～3日　小神姉妹会黙想
4～5日　バプテスト周船寺教会の祈祷会
17～19日　岩国海兵隊黙想
19～25日　サレジオ会黙想
25～27日　福岡市内の中学生練成会
28～31日　中村学園高校生の練成会

知ったかぶり

洗髪のシーズン、「洗髪しすぎるとかえって毛が抜ける」とはよく聞く言葉である。『病気の迷信』の本によれば、大部分錯覚であるらしい。抜け毛の原因は洗髪ではなく不潔による。つまり、フケのたまる状態、フケとは頭のアカのことを言う。洗髪で抜けるような毛は、抜ける運命にあったのだ、と断じている所は面白い。すすぎや洗髪後の手入れも大切に。

○祈禱の使徒会○

（一般）諸民族間の兄弟的愛
（布教）アフリカにおける家庭問題

成功させよう、若人の出会い
近づく福岡教区青年大会

既報のとおり、福岡教区カトリック青年大会は80年全国カトリック青年大会の趣旨を踏まえて、九月十五日（土）から二日間、泰星学園高校（福岡市中央区照国一―一〇―一〇）で開かれる。いま、ここに具体的プランが示されたので案内をかねて紹介してみる。

教区主催のこの青年大会は、その主旨として「現代に生きる我々青年は躍動する社会の中で、キリスト者としての証しを求め、兄弟として出会い、ふれあいながら教区全青年の仲間意識を強め、80年大会に向けて責任と自覚を確認し合う」となっている。メーンテーマには「出会い」を掲げている。

＊＊＊

〝聖ペトロ〟献金

（6月24日）

大名町	52,130	佐賀	10,000	手取	23,067
浄水通	47,025	唐津	5,540	荒尾	5,000
光ケ丘	26,418	伊万里	5,000	人本吉	10,500
箱崎	7,000	鳥栖	13,196	健渡	10,210
東田島	21,895	武雄	4,500	軍	13,000
西新	14,236	多久	3,500	水俣	8,750
大楠	4,530	門司	25,000	大江	12,693
美野島	10,000	門司港	12,592	崎津	8,500
茶山	8,672	小倉	68,731	島崎	28,000
高宮	12,000	湯川	23,084	玉名	7,000
老司	14,000	戸畑	38,160	菊池	30,000
吉塚	15,000	若松	5,500	八代	21,100
古賀	20,000	天神町	12,000		
二日市	34,000	八王寺	8,000		
久留米	35,680	黒崎	13,500		
大牟田	12,500	水巻	9,441		
吉野	1,335	直方	2,300		
今村	139,510	飯塚	8,000		
小郡	4,980	田川	4,540	合計	1,019,813
本郷	10,283	新田原	56,722		
馬渡島	9,900	行橋	11,593		

小さな人々とのふれあい

稲川　守

私達は小さな人々の立場で考えているだろうか。キリストが最も愛した小さな人々、それ等の人々の立場に立ってそれ等の人々が何を望んでいるのかを考え、その人々と共に苦しみ、喜びを分かち合う活動をしているのがSVPである。言葉よりは行いをもって、これ等の小さな人々の心と心のふれ合いのある接触を続けている会、それこそSVPであり、そこにSVPの存在する特色がある。

会則に明らかにされているSVPの特長、人格的ふれ合いのある活動、この活動をしていない協議会はSVPとしてのあるべき姿から程遠いと反省すべきである。現に何か活動をしている協議会も自らの活動をふり返ってSVP的であるかどうかを考えてみて欲しい。

私は活動の種類や方法、手段を言っているのではない。SVPらしくあるために会員自身が現在どう生きているかについて、ふり返って欲しいと願っているのである。特に、この多忙極まりない日本の現状社会の中で私達は〝いそがしい〟という言葉のマジックに自らをしばられ、いそがしさに自分を甘えさせてはいないだろうか。会社の仕事、家庭のこと、教会のこと、余暇を楽しむことにすら何かせきたてられている。多忙だからと自分に言い聞かせて、これしか出来ない、これ以上は無理だと段々自分本位になって来てはいないか。訪問も活動も、協議会例会も全員自身のためにあり、会員自身の都合で色々な事がどんどん進められていく。私達の訪問や活動を心から待ち望んでいる小さな人々の苦しみや喜びとは関係ない方へと進んでいる危険はないだろうか。若しもこのような姿に日本のSVPがなっているとすれば、それはキリストの福音の精神とは程遠い、全く異質のものであると言わねばならない。そのような姿の会には、最早、人は何んの魅力も感じないであろう。会は老化し衰退の一途を辿っていくであろう。何故なら私達の中にキリストがいなくなるからである。否、いるのだが私達自身がキリストと一緒に訪問し、キリストと共に活動し、キリストと共に協議会の集まりの中で喜びを分かち合う事を拒否しているからである。

SVPは信徒の会であるという特色がある。信徒は現実の社会の中で生活しながら、私達の出来る限りの範囲の中でSVPとしての活動を行う。社会福祉事業を一手に引き受ける様な大がかりな事は私達の会には出来ない。貧しさに苦しみ、愛にうえている、唯一人の小さな人と苦しみを共にする事で精一杯かも知れないし、それで良いのかも知れない。問題は、私達の出来る範囲を、いそがしさということに自らを甘えさせて、自分のために出来る範囲ということにしてはいないだろうかという事である。

いそがしさという事の中に自分を甘えさせている事の中でSVPの発展に大きな障害が出ているかも知れない。特に、日本の会の現状を見ると、会員の年令層はどんどん高くなっている。言葉を換えていえば、いそがしい人が多い。SVPに入りたいと希望している人々や、会の中にいる若い人々との話し合いの機会も、先輩会員のいそがしさのためにどんどん失なわれていく、活動もマンネリ化したまま、いそがしさに追われてふり返る暇もなくなり、新鮮さが失われ、若い人々の失望を買う事になる。いそがしいと言っている人々のペースで協議会が運営されていくと、協議会例会の開催もなくなり、例会での活動計画や報告、討議等も極力短時間ですますようになり、兄弟愛のあふれた例会のふん囲気はどこかに飛んでしまう。

このような事になっていないだろうか、会員自身、協議会、理事会も振り返って欲しい。私達の会は誰のためにあるのだろうか、小さな人々のためにあるのではないだろうか。若し、どうしても無理があるなら、そうでない人々のペースで会の運営を考えなおしてみるとか、若い人々だけの別の協議会をつくらせてみるとか、考えてみて欲しい。私達の周りには私達の訪れを待ち望んでいる人々がまだまだ多くいる。訪問する先がなくなったとか、資金の使い道がない等という事は絶対にあり得ない。母子家庭、交通遺児、子供会、数えたら切りがない。私達の手をまっている人々は身近にいくらでもいる。それ等の人々と心の交わりを持てるような触れ合いを持つためには、一回の訪問で持てる事もないとは言えないが、それは例外に近い事をわれわれ自身知っている。より多く、より良いふれ合いが必要な事もわれわれは知っている筈である。私達自身が福音化され福音的に生きなければ、人々を福音化していく事は理論的にも実際上も不可能である。日本のSVPを、より良くするのも、より悪くするのも私達自身であることを良く考え、自らを振り返って、小さな人々のために一層の努力をしたいものである。（SVP日本全国理事会会長）〈SVP—聖ピンセンシオ・ア・パウロ会—についての一般信徒・教会の関心を深める一助として、SVPの機関紙〝愛と正義〟から転載したものである。〉

山田会長ほか新役員改選

SVP福岡中央理事会

去る五月二十日（日）午後一時三〇分から、光ケ丘教会で開かれたSVP福岡中央理事会は、新役員改選をはじめつぎのことを決定した。

(一)役員改選

会長　山田耕三郎（光ケ丘）
副会長　平田房刀（箱崎）
書記兼会計　伊東一洋（直属）
常任理事　山田耕司（光ケ丘）
理事　中村初利（湯川）
〃　吉川信雄（光ケ丘）
〃　棚町シズエ（久留米）
〃　守口三郎（佐賀）
〃　中野尚夫（手取）
〃　船越睦子（朝光学園）

(二)本年度の行事

▽六月九日（土）～十一日（月）まで、東京で行われるSVP全国理事会総会への出席者予定三名。
▽七月十五日（日）福岡司教館で平田司教臨席の下に中央理事会。
▽十月光ケ丘教会で中央理事会。

(三)本年度の努力点

▽聖職者に対するSVPの広報活動について、SVPの存在の認識
▽祈りの重視、理論研究から実働へ努力すること。常に試行する会であることを会員に体得させる。
▽ラジオベリタスのアジア版日本語放送が行われているので、多くの人に紹介して心の糧とする。

八月年忌の司祭

▼エミール・ベノア神父（パリー外国宣教会）一九六二年八月六日元門司港教会主任
▼アルベルト・ブルトン司教（パリー外国宣教会）一九五四年八月十二日元福岡教区長
▼ミカエル木村義己神父一九六七年八月十四日ブラジル・マリンガ教区宣教師、元馬渡島教会主任

お詫びと訂正

七月号の広報献金の報告に、島崎教会献金分二二、一〇〇円が記載洩れとなっていました。また、崎津教会の二二、一〇〇円は一〇、〇〇〇円の誤まりでした。以上お詫びして訂正いたします。

建築設計監理
教会・修道院・学校・幼稚園・他
菅建築設計事務所
所長　菅　種雄
福岡市中央区警固3—11—14
TEL　092・741・8852

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL　521—0568

カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行兼編集人 山田成章
電話092—522—5139
振替口座 福岡42981
定価 一部 20円

共同訳聖書作成資金募集
一、募金額 五百万円
一、方法 一口五百円
一、送り先 本誌編集部
寄付者

パパさまは語る

公会議の精神にのっとり教会の刷新をつとめよう

（八月一日の公式謁見において）

（伊東誠一訳）

時のしるしに目覚めた注意を向け、開かれた若々しい心で

一、教皇パウロ六世陛下のご死去一周年が近づいています。八月六日丁度、主のご変容の祝日に、神はご自分のもとにお召しになりました。しかし、死者のミサの叙唱で歌われることを、『生命は取り去られることなく、変えられる』と言われている通り、このご変容の日が、くすしくも大教皇の帰天の日であったことは、この叙唱の言葉の真理の雄弁なしるしとなったのであります。

パウロ六世の在位は、前任者によって召集された第二バチカン公会議の活力を通して、聖霊による深い変革の時期でありました。パウロ六世は一九六二年の第一会議のあと、ヨハネ二十三世の志を継いで、バチカン公会議の第二の教皇として、公会議の変革の中心に立たれ、引きつづき、その実現のために、続く時代の最もむつかしい時期を過ごされたものと考えます。

神がこの教皇の終わりの日としておえらびになった日の（主の変容の日）意味に想いを集めれば、色々な考えがおし迫って来ます。

主の御変容の祝日が、教皇の地上における信仰の行きつくところ（テモテ四・7）であったとしたらこれこそ、この教皇のご生活の特殊なカリスマ、特有なお仕事を明示した日と言えましょう。更にこの意味を神のご計画の中に探ぐれば、ご変容の記念日に教皇をお召しになった主は、彼、教皇のためにも、私たちのためにも、バチカン公会議の精神による教会の刷新の中に主百らおられるのだと考え得よう。タボール山の妙なる出来事の中に彼はおられるのである。十字架を通って復活にたどりつかれる地上のキリストは使徒達の前で変容しておられるのである。

二、バチカン公会議の教皇、この深い刷新の教皇は、世界から期待された教会のおもかげを示したのでありました。ここに主のご変容の神秘と類似したものを感じます。

タボール山で使徒達が目にしたその同じキリストは、毎日、当たり前の様にして語られ、動かれた同一のキリストでありますが、この山では妙なるご変容の中でこそ自分を表明され、それまでは彼等に隠されて、いわば知られなかった本当のお姿でした。

ヨハネ二十三世の後を受けて、パウロ六世は、聖霊から変容のカリスマを受けられ、その恩寵の故に、すべての人が知っている教会の姿は、常に同じでありながら、同時に以前とはちがったものになって来ました。勿論、この差異は本来の性質からの逸脱ではなく、その本質により深く入りこんだ処で出て来るものであります。過去において、むしろ隠されてあった教会の姿の新しい顕示となったのであります。公会議によって確認された「時のしるし」を通して、私たちが生き、来たるべき世代もそれによって生きる生命と行動の原理となったのであります。

ご変容の祝日に亡くなられた教皇は、彼の時代のカリスマを聖霊から受けられました。何故なら、もしも教会の変革がその刷新に役立たねばならぬとしたら、それを推進しようとするものは、教会そのものについて強靱な実体の理解を持っていなければならない。この良心を教皇は、彼の最初の教勅、（エクレシアム・スアム）の中でもそれにつづく神の民の信仰箇条を宣言することによっても、また、公会議に端を発する教会のあり方の具体策を宣言することによってつづけられた。司教会議を発足させ、キリスト信者の一致への構想に先駆者の様につき進み、ローマ聖省を改革し枢機卿団を国際的視野に拡げるなどのお働きであった。

これ等すべての中で、常に変わらない教会の良心が示され、刷新の可能性の中でも、教会固有の同一性を深く証明されたのである。教会の姿の多様性と伝統の正統性から沸き出るこの様な変容を進めてゆかれたのであります。

三、一年前に亡くなられた教皇の無数に近い記録の文脈の中に、二三のものを取りあげることをゆるして戴きたい。

パウロ六世の最初の教勅、エクレシアム・スアムの中で、一九六四年八月六日付で教皇は次の様にのべられる。

「一方で、教会がキリスト教生活をまもり、発展させるにあたり、絶えず勇敢に、すべての逸脱や濫用、窒息症状から保護しなければならないし、他方において、キリスト教生活は、単に時代的な大衆による発想に強いられるものであってはならない更に教会の宗教的、道徳的な本質が命じるところに矛盾しないかぎり、キリスト教生活はそれらさえも結び、清め、高め、生命を与え、聖化しなければならない。

尊敬する先の教皇二十三世によって「アジョルナメント」（今日化）と言われ大衆語ともなった事は、私たちの態度の主要理念を表すために適当な言葉である。公会議が目指すところはこの様なものであることを再認識して、教会の中に常に新しく沸て来る生命力に心を向けさせ、「時のしるし」に絶えず目覚めた注意を向け、開かれた若々しい心で「すべてのものをよく確かめ、よきものを保つように（テサロニケ・五・21）してすべての時、すべての環境に処してゆかねばならない。

数年あと教皇はその教話の中で言われる。「キリスト教生活について何かを理解した人は、自分の絶え間ない更新を渇望するようでなければならない」

「キリスト教生活は確かに事実とその約束に根拠を置いていて、変質するものではない。洗礼による再生、信仰、教会への帰属、愛徳の活気などすべてそうであるが、その本性からしてそれはいわゆる生命であり、したがって原理であり、発展しなければならない種子であって、成長と完成を要求し更に、自然的な人間の弱さ、また原罪故の仕様のない結果を考えるならば、この生活は、償い、矯正刷新を必要とするものである。

教皇パウロ六世は常に「神のみ言葉を待ち人」であられました。彼はその教皇職の公式文書を通じて教えられましたし、また色々な機会にお話しになった説教の中で教えられた。彼の教皇就任以来年中行事となっていた水曜毎のカテケシスを通して教えられた。これらを通じて教皇は絶えず福音を宣言することが出来た。福音書教は聖パウロに倣って、彼の第一のつとめ最大のよろこびと考えられた。

教皇のこのカテケシスは、当時特別な必要があった教会の実質的な糧となった。そして公会議後の一種の不安の前に、教皇のこの不思議な「変容のカリスマ」は教会にとって祝福であり賜物であることを示しました。

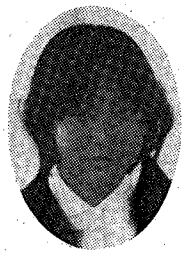
このように、パウロ教皇は、その最高権威の決定が要望される問題の中で、人類の精神と良心の師であり牧者として見事な堅実さと謙虚さの中でキリストと教会に奉仕し、信仰の眼で、出来あがりつつある将来を見ることが出来たのであります。

事務用機器・コンピューター・学校用・幼稚園備品
㈲シオタ事務機・㈱日本幼育社
社長 カシミロ・塩田五郎
福岡市南区大楠2丁目23—15（西田ビル2F）
TEL 代表 092（521）—8266—7

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話 52—3306
52—8622

ヤング・接近

浄水通教会吉田和枝



「神の家族としての教会、特に各小教区で、家族的雰囲気のあるまとまった教会であって欲しい」と訴えるのは、浄水通教会の吉田和枝さん。現在、福岡大学三年生で、中央区草ケ江に住んでいる。

「小学二年の時受洗、以来毎日曜日、教会のミサに行くたびに、小さい小教区ながらも、教会の家族的な暖かい雰囲気が好きだった。しかし、最近は、若い人たちが、余り教会に近づかないし、青年の少ない教会は、若々しさに欠けて、今一つ、盛りあがりがない…」となげいている。また、「日曜のミサにしても、人数が少ないし、たまには、若者の多い教会へ足を運んでみたくもなります」と、その心情を切々と語ってくれた。

「最近の若いキリスト者は、ちょっと引っ込み思案のようで、もっと積極的な、ヴァイタリティーに富んだ教会活動や、典礼行事を盛りあげれば、もっともっと活気づくし、若い人たちも集まるはずだし、更に、小教区自体も、たとえば、小さくても生き生きしてくるだろうに……」と語るその目の輝きに、二〇才の新鮮さを感じた

間近に迫った教区青年大会については、「他の小教区の若者たちとの出会いや、他教会の雰囲気、考え方を学び取ることもできるし、その良い点を、自分の教会に取り入れるためにも、多くの若者キリスト者が集まるということ自体に意義があると思います」と力強く答えてくれた。教区の青年たちと接することによって、自分の小教区に参考になることがあれば…そのためにも、できるだけ多くの青年の参加のもとに、大成功させて貰いたいということである。教区の青年諸君！今ここに、これからの教会、明日の教区の発展と、それに、神の家族らしい雰囲気をつくるために、立ち上がろうとしている一青年の生の声に耳を傾けていただきたい。

（文責竹森）

九月年忌の司祭

▼ピエール・コトレル神父（パリー外国宣教会）一九二八年九月三日熊本地区で宣教活動。

▼アナトール・ヒュゼ神父（パリー外国宣教会）一九四四年九月十五日福岡司教館

▼ユスチン・ヴィオン神父（パリー外国宣教会）一九六九年九月二十九日福岡司教館

○祈禱の使徒会○

（一般）迫害下の人々

（布教）パプア・ニューギニアにおける教会

少年少女練成会は花ざかり
主テーマ・イエズスはお友だち

福岡地区

第二回福岡地区少年少女練成会が、七月二十四日から二泊三日かけて、小笹の聖パウロ小神学校で催された。

竹森勇神父の指導のもとに、大神学生四名、パウロ会ブラザー、市内の四つの修道会のシスター六名、計十二名のスタッフで、十教会から八十名近くの小学生が参加し、有意義な夏休みのひとときを過ごした。

今年のテーマは、「私たちはイエズスさまとおともだち」―第一日目は、子供たち同士とスタッフ（リーダー）が、まずお友達になろう…ということで、歌、ゲームなどを通して、すっかりうちとけ合った。二日目は、竹森神父のテーマについての話しに続いてグループ毎に共同作業。ひとりひとりの子供たちとお友達になろうと、いつも握手の手を差しのべておられるイエズス様の絵、ポスター等を作成しながら、"みんなイエズス様の仲間・イエズス様と友達"という喜びを味わい合った。また、聖パウロ小神学校のグランドや大自然の中でのびのびと歌やスポーツに興じながら、最後の夜はキャンプファイヤーで雰囲気も一層盛り上がり、各グループの出し物等で、楽しさもクライマックスに達した。そして最終日は、お互いに新しくできたおともだちとの別れを惜しみながら、司教様をお迎えして六名の司祭による共同ミサをもって練成会を終了し、子供たちは、さまざまの思い出を胸に家路についた。

なお、この練成会で場所を提供してくれた聖パウロ会、飲食物・おやつ等の差し入れで協力いただいた各主任神父様方、それに身の周りの世話や、食事の準備と後片づけに奔走してくれた市内の婦人会の方々に心から感謝する次第である。

福岡地区練成会

熊本地区

八月二日から二泊三日の熊本地区少年少女練成会を行った。今回は場所を菊池少年自然の家に移し指導司祭深堀勝人師、シャルトル聖パウロ会シスター一名、神学生四名、聖母訪問会シスター一名、神学生四名のスタッフとともに、少年少女九十二名の子供たちが楽しい、有意義なひとときを過ごした。

練成会のために手取教会に集合するのも一つの楽しい旅行、また手取教会から菊池少年自然の家までのバスの中も楽しい旅行といった感じでお互い親しさを増し、自然の家での二泊三日は「イエズスさまはお友だち」というテーマで、ミサに、ゲームに、ハイキングに、キャンプファイヤーにと自然のすばらしい環境の中で楽しく皆無事に過ごした。帰りのバスに乗るときは、お互いに別れを惜しみ来年の練成会をまた楽しみにして帰路についた。

熊本地区練成会

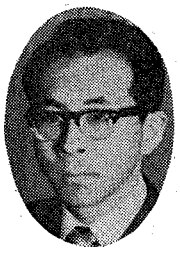
内科、放射線科、循環器科、消化器科
正金診療所
院長　古賀明恭
福岡市中央区天神4丁目4-11　福岡ショッパーズプラザセンタービル7階
休診日日曜、祭日、ダイエー定休日　TEL (713-7912)
診療時間　午前10時～午後6時　昼休みなし
土曜日　午前10時～午後4時

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1―4―23
TEL 771―3657

〈羊飼いの牧場〉

理想と現実の谷間から

平田 敬



いつ頃でしたか、次のような二人の大学生の対話の記事を読んだことがありました。

"今日は暑いね！ ただ、じっと座って、話しているだけで、こんなに全身が、汗でべっとりなってしまって！ ところで、この寮には、お風呂はないのかい？あるよ！

二階と階下に……どちらでも、好きな方を選べるよ！ ふうん……。君は、いつも、どちらを選んでいるの？"

皆さん、学生たちのこんな対話の記事をお読みになられて、現在彼等が、一階の自分の部屋にいると想定して、彼等は、普段、どちらのお風呂を選んでいるとお思いになるでしょうか？ もし、皆さんでしたら、どちらをお選びになるでしょうか？ 私自身、あるグループの研究会で、同じ質問をしてみました。どんな答えが返ってきたとご想像になりますか？ "階下にあるお風呂を選ぶ"という返事でした。実は、学生たちも"階下にあるお風呂"を習慣的に選んでいたのでした。しかし、一階にある彼等の部屋から"階下にあるお風呂"も"二階にあるお風呂"も全く等距離にあり、強いて、異なる点を取り上げれば、階段の「昇り」「降り」が、"後になる"か"先になる"かという問題だけです。現代感覚から合理的に考えれば、"お風呂に入って、陽気に気持よく部屋に帰る"ためには、最後に階段を降りた方が得のような気がいたします。ところが、話題の学生を含めて、私達は、昨今特に、何事においても、まず、安易な方を選び、苦労をともなうむずかしいことを意識的に避けがちです。こんな傾きに流されかける私達に心の中でささやきかけるのが"私に従いたい人は、自分自身をすて、日々、自分の十字架をせおって従ってきなさい"（マルコ八・34）と仰せになるイエズス様の「忠告」と"今、苦しんでいるあなた方は、幸いである……"（マタイ五・15）とされる「山上の垂訓」です。特に"日々、自分の十字架を背負う姿"が"今、苦しんでいるあなた方"とぴったり重り合い、イエズス様のみ後に従う人の「生き様」となって示され、そんな生き方をする人は"幸いである"と自信をもって断言されるイエズス様の逆説的説諭です。しかし、イエズス様が、ここで、"み後に従う人"に"幸い"と約束される幸福は、一般に、人間が、考えている幸福とは、その趣を異にしているようです。なぜなら、人の目に"不幸"としか映らない"苦しんでいる人"などがキリストの目には"幸せ"と映るからです。なぜでしょうか？ その違いは次のようなところにあるようです。私達人間は"理想"をめざして"現実"の中に生きています。しかし、現実に生きているうちに、いつの間にか、理想を忘れ、あるいは、見失い、現実のとりこになり、現実という狭い経験の世界に閉じこもり、その世界の中で、"幸福"を考え、求め、行動しがちです。従って、考え、求める幸福も、視野の狭い現実的なものに終始しがちです。そのような訳で、苦労のない安易な方法で、一番、手っ取り早い幸福を、常に求め、その求める現実的幸福が、安易に得られなかったり、そのような幸福が傷つけられたりすると、すぐ、"不幸"だと考えがちです。ところが、イエズス様は、私達とは違って"理想"と"現実"を同時に眺め「今」という"現実"を"理想"に近づく一コマと考え、「今」という現実の時間のとりこになるところが、かえって、いつかは、過ぎ去り、変わり果てる"現実"の彼方にある"理想"いわゆる"永遠の世界"とその"幸福"を見つめられるのです。従って"今、苦しんでいる人"は「今」という"現実"を見れば、確かに"不幸"と思われるかも知れません。しかし"理想"に近づく一コマと考えれば"難汝を主にす"の言葉のように"不幸"だと断言することは出来ません。むしろ、過ぎゆく時間の彼方にある幸福を見つめて"幸せ"と考えるべきではないでしょうか！ この"彼方の幸福"（永遠の幸福）を「今」という"現実"の中で、はっきり、見つめることができるようになる時イエズス様と一緒に"今、苦しんでいるあなた方は幸いである"と私達も、躊躇なく、いえるのではないでしょうか。そして、日頃の安易な選択から苦労をともなう厳しい選択へ、自己中心的な現実主義から神様のみ言葉に従う神中心的な理想をめざした生き方に脱皮してゆけるのではないでしょうか。十字架上の死という悲劇を通して復活という栄光をかちとられたイエズス様になって、私達も"今の苦しみ、困難など"を"喜び、希望"にかえる秘訣を日々の自己反省のうちに身につけたいものです。

（戸畑教会主任）

会合と催し

▽平田司教
9月15～16日 教区青年大会、午後四時から泰星学園高校で開幕。
16日 里脇枢機卿親任祝賀会、午後六時三〇分長崎の東急ホテル。
22～24日 CLC九州大会、午後四時から北九州市八幡西区の安川電機研修センターで開始。
▽福岡黙想の家
9月1日 雙葉幼・教諭の黙想会
8～9日 一般信徒の黙想会
14～16日 聖書による祈りの体験
16～17日 コイノニア会
19日 ミカエル会
22～23日 バプテスト集会
25～26日 西南大・学生会
28～29日 雙葉中学黙想会

回覧板

CLC九州大会が、九月二十二日（土）～二十四日（月）まで、北九州市八幡西区岡田町三五―二安川電機研修センターで開かれる

――福岡教区の青年諸君に――

来る、9月15日から一泊二日で、福岡泰星高校において、福岡教区カトリック青年大会が行われる。メインテーマには、「出会い」を掲げ、「現代に生きる我々青年は躍動する社会の中で、キリスト者としての証しを求め、兄弟として出会い、触れ合いながら、教区全青年の仲間意識を強め、1980年カトリック全国青年大会に向けて責任と自覚を確認し合う」を主旨としている。

明日の福岡教区を担う若人が一堂に会し、司教、司祭団とのつながり、そして信者同士、特に若者同士の連帯感を強く意識し、自覚し合った上で、これからの教区と教会の発展のために、堅実な信仰と使徒職の精神を確認し合う意味で、この大会を成功させたいものである。

福岡教区の青年諸君、奮って当大会に参加しよう。プログラム等、大まかな内容は8月号の教区カトリック新聞に記載し、大会参加申し込み用紙も各教会に発送しているが、詳細な点、不明な点があれば、大名町教会の竹森神父か、大会実行委員長・中尾泰光君（大名町・TEL092―741―3687）まで連絡を望んでいる。

なお、この大会成功のために、教区の司祭、修道者、信徒の皆様の物心両面における御協力をお願いする次第である。

9月1日

教区青少年担当司祭一同

アジアの難民に心を開こう
キリストはそこにいる

去る一九七九年七月十六日から十九日まで、タイのバンコックで開かれたカトリックインドシナ難民対策会議は、全世界カトリック教会に、難民問題について理解と協力を要請した。「私たちは、難民問題が、少数の国家だけでは解決出来ない国際問題であることを認めている。すべての国は、その能力資源に応じて責任を分担しなければならない。…保護と厚遇を与えることは、キリスト者の責任であり、また、教会の伝統の一面でもある。難民の現状に直面して教会はこれらの責任に恥じない行動をとらなければならない。」と訴えている。難民の姿の中に、キリストを思い出し、今夏、教会に届けられているカリタス・ジャパンのラッフル券に協力しよう。

"任意保険に加入してから車の運転を致しましょう"
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険等々
福岡市博多区中洲5―4―12
AIU福岡ビル内
大石保険事務所 大石真澄
〒810 TEL 272―0671

祭壇・洗礼盤他
石 石 他
理 影 の
大 御 そ
素材
石のパイオニア
髙木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2―21
TEL 52―2417

夏期練成会
サマーキャンプ

大名町教会　六年　渋谷和子

去年も、この練成会にさんかしました、去年も来ていた人、初めてさんかした人もいます。

今年のテーマは、「わたしたちはイエズス様とおともだち」という事で練成会をしました。

いろいろな教会からも、友達があつまっていました。二はく三日で、みんなとあそんだり、おいのりをしたり、歌の練習をしたり、いろいろな行事がありました。

友達もでき三日間をすごしました。

キャンプファイヤーの時、みんないろいろなだしものや、神父様やシスターがたのげきなどもありました。いちばんみんなが楽しそうにみていたのは、やはり神父様がたのげきでした。

わたしたちの班のだしものは、歌と新聞ゲームというのをやりました。いとこたちも、とても楽しそうでした。

それからこの日のお昼すぎに、男子はソフトボール、女子はドッチボールをやりました。

班ごとにわかれてどことやるかをきめて、始めました。わたしたちの班には、いとこのきょうだいがいました。そのいとこたちは、バレーボールをやっているのでうでの力が強いので、みんなとんどんあたっていきました。うちの班は大勝利でした。でもみんなもがんばりました。なぜかと言うと、うちの班のシスターから、「優勝しないと夕食なしよ。」といわれていたのです。みんなよろこんで「夕食が食べられるぞ。」と大よろこびでした。おわかれ会の時、神父様やシスター、しん学生の人たちが、あく手をして一ことずつみんなにいってまわりました。わたしは六年生ですがもう一年だけでもいいから練成会にいきたいなあと思います。

老司教会　五年　許斐香代

サマーキャンプにいって、初めに、去年お世話になったシスター神学生のみなさんにあった時、とてもうれしかったです。それと同時に、グループわけのことが心配になってきました。

私は他の仲間たちと早く仲よくなり、助け合って、サマーキャンプで経験したことを、サマーキャンプに行けなかった人に、教えてあげようと思います。はじめに、こんな決心をしてスタートしました。

サマーキャンプの三日の間、班長を通して、自分のなやみや苦しみなどを仲間に相談しながら、自分たちなりにサマーキャンプを楽しくし、また、シスターや、神学生、他の教会の人たちの協力などによっても、サマーキャンプを楽しくしていきました。

一番、サマーキャンプで、印象に残ったことは、各班での出しもの、シスター神学生げき。私は、二つを見ている時、また、自分がした時、みんなの心は（その人たちみんなは）つながっているかんじがしてきました。それが、イエズス様とお友だちになること近ずいたことになるのだと思います。

このサマーキャンプ（練成会）の目的「わたしたちはイエズス様とお友だち」というのは、この二つの事を見ている時に、した時に、少しずつたっせいしたと思います。私たちが、本当に、イエズス様とお友だちになった時は、ます、まわりの人たちを、本当の友だちにする、そうして私たちは、本当にイエズス様とお友だちになるのだと思います。

私は、このサマーキャンプ（練成会）は、本当に、よいものになり、目的もたっせいできたので、よかったなあと思いました。

サマーキャンプがおわったとたん、もうらい年に早くなって、また、楽しいサマーキャンプの三日間の日々をおくりたいと思いました。

小郡教会　四年　平田優美子

7月24・25・26日にサマーキャンプに行きました。初めてだったので、むねがどきどきして、帰りたいほどでした。

でも、はんべつになって、話し合いなどして楽しくなりました。目標は、「わたしたちはイエズス様とお友だち」という題でした。それには、みんと友だちになることといわれたので、友だちつくりをしました。

24日の日は、はんの人全員友だちになりました。神学生のお兄さんや、リーダーのシスターとも仲よくなりました。遊びや話し合いをとうしてです。

25日、その日は、司教様もいっしょにキャンプファイヤーをする日でした。だしものの練習でいそがしくなりました。

キャンプファイヤーは司教様の前でなので、とてもきんちょうしました。

みんなも同じ気持ちだったでしょう。

人間ピラミッドや、リーダ、それから竹森神父様などのもたろうもおもしろかったです。そしていよいよ26日。楽しすぎて、来た時と反対で、帰りたくなくなってしまいました。

せっかく仲よくなったのに来年会えなかったら、3日間のお友だちになってしまうのですから。でも楽しかったです。

ほんとうに短いような気がしました。

☆　☆

〝マザーテレサとその世界〟一シーン

「マザーテレサとその世界」上映プログラム

11月	1日(月)	福岡市民会館小ホール	午後6:30より2回上映
	3日(土)	熊本市民会館小ホール	午後6:30より2回上映
	4日(日)	北九州戸畑音楽堂	午後1:30より5回上映
12月	13日(木)	福岡市民会館小ホール	午後6:30より2回上映
	14日(金)	熊本市民会館小ホール	午後2:00より5回上映
	15日(土)	北九州戸畑音楽堂	午後6:00より3回上映
	16日(日)	行橋市民会館	午後6:00より2回上映
	20日(木)	福岡市民会館小ホール	午後2:00より5回上映

学　校

11月	2日(金)	雙葉学園　中学、高校生、父兄
12月	12日(水)	雙葉学園　小学高学年、父兄
	14日(金)	熊本信愛女学院
	18日(火)	大分明星学園小学高学年、中学、高校
	19日(水)	久留米信愛女学院
	21日(金)	明治学園
	予定	八代白百合学園

前売券は9月より聖パウロ書院小教区にて発売しています。ご利用下さい。お問い合せは女子パウロ会

(092)531—0942、(092)741—4588

建築設計監理
教会・修道院・学校・幼稚園・他
菅建築設計事務所
所長菅　種雄
福岡市中央区警固3—11—14
TEL　092・741・8852

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL　521—0568

カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行兼編集人 山田成章
電話092—522—5139
振替口座 福岡42981
定価 一部 20円

共同訳聖書作成資金募集
一、募金額 五百万円
一、方法 一口五百円
一、送り先 本誌編集部
寄付者

パパさまは語る

「家庭の起源」をキリストにきく、創世記に原点を

（九月五日の一般謁見において）

かれらは一つの体、神が合わされたものを人が引き離すな

一、来年の秋にローマで開かれる定例司教会議を目指して、このところその直接準備がすすめられています。「キリスト教家庭の役割」というのがその主題となっていますが人類の一またキリスト教的にもーその生活共同体に注視の眼を向ければ、〝起源において〟すでに基礎づけられている問題であります。そこで、この「起源における家庭」の意味に注意を向けて見たいと思います。キリストがこの事について原点を示された環境の中で、聖書のメッセージをより的確にする分析を試みたいと存じます。

二、ファリザイ派の人々との対話の中で、結婚の不解消性について問いかける彼等に、イエズス・キリストは少なくとも二度、この事の起源について言及しておられます。その会話は次の様なものでした。ファリザイ派の人たちは、イエズスに近づいて、彼を試みようとして言いました。「どんな理由でもあったら、ひとは自分の妻を離別してもよいのですか」

イエズスは答えました。「創造主は、その起源から人を男と女に造られた。……それで男はその父と母を離れてその妻に結ばれる。そして両人は一つの肉（一体）となるのだと言うことを読んだことはないのか？つまり、神が合わされたものを人間が分解させることはかなわぬことである。」すると彼等は言う「モーゼは男が妻を追い出すとき、離縁話を作ることを命じたではないですか」と。

イエズスは答える。「モーゼがあなたたちに妻を離別することをゆるしたのは、あなたたちの心の頑固さのためである。しかし起源においてはそうではなかった。（マタイ十九・3、マルコ十・2）

キリストは反論する者達が問題を基礎付けようとする論拠を肯定しようとはしない。彼等が問題にしようとしている次元を認めようとはせず、律法の解釈問題で事を混迷に追いこむことをせずに、起源において（もともと創造者の御旨で）と二度もこの肯定をくり返えされる。それは反対者も暗誦している筈の創世記の表現に彼等の注意を向けさせるためである。

キリストはこの様に昔からの啓示の表現にかけて教えを閉じられたのです。

三、キリストが取りあげて言われる創世記一・27の「起源において」と言う事柄は、創造主が初めからひとを男と女に創られたこと、更にこの創造は、神がひとをご自分の姿に似せて……男と女に創られ、この神の御旨を根拠として、それ以来、男は父と母から離れて、妻に結ばれ、二人がひとつのからだとなる事をさしているのである。この離れる、結ばれる、ひとつになるという聖書のことばをそのままうけて、事柄の最終的肯定とされて結論されている。

「も早、彼等は二人ではない。ひとつのからだである。神が合わされたものを、ひとが引き離すべきではない」と。

このキリストのお言葉によって、婚姻の単一性と不解消性は創世記二・24に残されている最も古い神のみ言葉と同じ内容として示されているのです。

四、キリストのお言葉は永遠の法が人間の創造の事実のようにその起源において布告、制定されたことを肯定して、問題点は明らかになったと考えられる。

創造主によって定められた法を再確認することによって主は、第一の制定者の権威を宣言することによって他のすべての考えの規準となるものと考えるべきであろう。創世記の言葉の中枢をなす「起源において」との表現は、ひとは男として、そして女として創造の奥義の中でつくられたことを二度もくり返えして述べているところで反論する人たちも明らかな指針となるように導かれたであろう。

この事は昔の人にも今日の反論を試みる人にも通用するであろう。それ故にこの事に照らして見ても、この問題を検討するに際して、キリストに問いかける今日の人々の注意すべき事として弁えて置かねばならぬことであります。

五、次週水曜日の集まりの反省の中で私たちも現代にあってキリストに問いかける者の立場でこの事を考えながらマタイ一九・3節以下を考えることにいたしましょう。

キリストが「原始において」とこの様に意味深く説明されることを少しでも理解して、来年の司教会議に今から参加するようにいたしましょう。婚姻とキリスト教的家庭についてキリストが提出されるつとめを、多くの教役者や信者さん達のグループと共に考え合うようにしたいものであります。このつとめは創造以来私たちに提出されたものであると同時に近代の様相を伴って、なお今日でも問題とされなければならないものであります。今日ここで始めて、来週の水曜日にまで続けようとするこの一連の反省は、司教会議の準備のお仕事に遠くから参加することになりましょう。直接に議題と取り組む事ではないにしても、それが湧き起って来る深い根に私たちの注意を集中しておき祈りしたいものです。

（伊東誠二訳）

○祈禱の使徒会○

（一般）受刑者への伝道
（布教）伝道士による布教活動

微光

案山子立つれば群雀空にしづまらず　蛇笏

最近、豊かな稲穂の田圃に、案山子を見ることが珍らしい。せいぜい、鳥威しの簡単な代物である。農家に、ユーモアが欠けてきたためか、実利主義のためか、生存権を奪われた稲田の道化師の未来はうら悲しい。案山子の頭上に、ちょこんと一服している雀には、人間どもを嘲笑している勝利者のさえづりが聞こえる。鳥権（？）を侵害された雀たちは年々賢くなっていくみたい。▼凶悪化した暴走族の暗いニュースは、大きな社会問題となっている。失礼な言い草だが、取締る警察官と暴走族の敵対関係が、案山子と雀に思えてならない。警察官を尻目に、傍若無人の暴挙に出る暴走族は、社会を、法を嘲笑している。むしろ、その無軌道ぶりがかれらの誇るべき存在理由であろうか。案山子と雀にはユーモアを覚えるが、警察官と暴走族には涙しか残らない。反社会集団の無法な足跡は、到る所に、多様な形態で見る。▼当節、省エネルギー時代と賑やかである。若人の溢れるエネルギーを効率よく活用しなければ…。秋の灯に疲れ見ゆるや頬のあたり　桜坡子、秋風に揺らぐ教会に疲れが近づいていないか、点検してみよう。若者が近づかない教会、老化した教会に新しいエネルギーを注入しなければなるまい。海荒れて聴に上るは鰯かな　虚子、ここらで一つ栄養たっぷりの鰯でも食って元気づけようではないか。騒音の渦中にある青少年に、教会の愛情を与え祈りを教えよう。

事務用機器・コンピューター・学校用・幼稚園備品
㈲シオタ事務機・㈱日本幼育社
社長 カシミロ・塩田五郎
福岡市南区大楠2丁目23—15（西田ビル2F）
TEL 代表 092（521）—8266—7

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話 52—3306
52—8622

ヤング・接近

大名町教会　中尾泰光

「若さ―それは二十一世紀へ向かう教会の宝でもある」とガッツポーズを取るのは、大名町教会の中尾泰光君。長崎の大山教会出身で、現在、博多区で車の防錆関係の業務に従事している。二十二歳。

大名町教会では、特に、青年会と水曜会の有力なメンバーで、その若さを存分に発揮している。青年会では小教区の青年同士のヨコのつながりを重視しながらも他小教区の青年との連絡更に地区、教区全体への青年の輪を広げる重要なパイプライン的役割を引き受けている。また、水曜会というグループでは、信仰生活のあり方についての研究を深め霊的生活の向上に努力している。

先月行われた教区青年大会では大会実行委員長を務め、「いやあ…カトリック青年、冥利に尽きます。キリストを信じているという理由で、百余名の青年が、それも様々の面で趣を異にしていながら一堂に会して、兄弟として心の触れ合いと出会いが実現されるのですからね…全くキリスト者ならではの充実感に浸ることができました」と答えてくれた。九月十五～十六日の教区青年大会では、「出会い」をテーマに、明日の教会を担う若者キリスト者としての自覚を新たにし、新しい時代へのキリスト者の証しということについて分ち合い、討議し、決意を確認し合ったが、参加者の一人としての彼は、「むしろ、これからが問題です。せっかくの青年達のファイトと意気込みを無駄にしないように各教会、職場、学校等で、キリストの証人としての証拠を、いつ、どこで、どのように実証するかが青年たちの、今後の大きな課題であって、そのためには、青年同士の結束と自覚、それにやる気が基礎になると思います」とつけ加えた。

来年夏、長崎での全国カトリック青年大会を次のステップに、やがて二十一世紀へと時代は流れる。その新しい時代を名実ともに担うのは今の青年達。そのためにもやはり、まず今のうちから各小教区毎に青年がまとまり、内的にも外的にも、真のキリスト者らしさを身につけながら、他小教区、更には教区全体、そして全国的な青年たちのつながりへ…と輪を広げて行って新しい時代に備えるのが理想的だという。

〝ガッツ〟という言葉が好きだと、無精ヒゲをなでながら、得意のガッツポーズで、「外的、内的両面でキリストの証人になりきれるよう、青春のすべてを賭けても決して惜しくない」と力強く言い切るその瞳の輝きに、二十一世紀の大物、キリストの証し人の姿をかいまみた。　（文責・竹森）

明日の教区の担い手を自覚　手を取り合って証しを、

教区青年大会

既報の通り福岡教区カトリック青年大会は九月十五日(土)から二日間、泰星学園高校（福岡市中央区照国一丁目一〇―一〇）で開かれたが、盛況のうちに終了した。教区の各地域から一一〇人の青年、教区の青年司牧担当司祭である西田邦洋師ほか関係司祭多数が参加した。

大会第一日目、「出会い」をテーマに進行した。先ずレクリエーションで心の柔軟体操、次いで小教区単位の挨拶から、グループ別に自己紹介をして相互の「出会い」を深めていった。

夕食後、鈴木師（御受難会福岡修道院）の「出会い」についての講話があった。講師は「出会い」の対象をキリスト（神）・他人・自分に分類し、「出会い」の条件として、自分らしさ・共感・積極的関心・関心の無条件性などを列挙した。また、よき隣人との出会いにより神との出会いができると力説したが、隣人との出会いを霊的次元だけではなく、全人間的次元で果たす必要性を指摘した。講話後、グループに分散して、講話をもとにした話し合いに入った。その後、キャンドル・サービスによる厳粛な雰囲気の中で夕の祈りを捧げた。第二日目のテーマは「殉教（証し）」。先ず、平田司教と数人の司祭の共同司式ミサがあり、司教は説教の中で、出会い・一致・証しという面から若いエネルギーを燃え立たせるようにと励ました。その後、御聖体の宣教クララ修道会シスターによる講話「殉教（証し）」となった。―現代人特に若者は真正さを求めており、カトリック青年はこの時のしるしを見究めねばならないが、あなたは自分が信じている事を本当に信じているか？あなたは自分が信じている事に生きているか？あなたは自分が行っている事を宣べているか？キリストに従って行くことで、これらの問いに対する確信を持ち、その確信を表現することによって、キリストの救いの業に参与する即ち「証し」が可能となる。さらに、知的な一致、意志の一致、社会との一致の段階を経て神と一致し、自己抑制の上に立つ真の愛を世に広めるよう。―講話後、グループシスカッション全体会を通して、福音を証しして行く決意を新たにした。また、80全国カトリック青年大会実行委員会事務局から、80大会の趣旨、テーマ等の説明があった。最後に、参加者たちは、明日の教区の担い手としての自覚と80大会への方向づけを持って、大会宣言を発表した。

青年大会の参加者たち

ごミサ参加の青年たち

大会宣言文

「我々福岡教区のカトリック青年は、80年代に生きる若者としてこの大会を一つの出発点にし、兄弟として、キリストのうちに一つになってキリストを証しながら、進んで行こう」

内科、放射線科、循環器科、消化器科
正金診療所
院長　古賀明恭
福岡市中央区天神4丁目4-11　福岡ショッパーズプラザセンタービル7階
休診日日曜、祭日、ダイエー定休日　TEL (713-7912)
診療時間　午前10時～午後6時　昼休みなし
土曜日　午前10時～午後4時

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1―4―23
TEL 771―3657

羊飼いの牧場

「祈りの日」の小さなこころみ

鈴木忠一

金曜日―午後七時。黙想の家の台所は活況を呈してくる。ともに二十代のA君、M君の食欲は旺盛である。渇いたのどを冷い牛乳で何度もうるおす。冷蔵庫から残り物を集めての特製うどんに舌鼓をうつ。この二人の若者の顔が美しい。心身の充実と解放感があふれて、弾んでこだまする。御受難会の修練院の小さな苦業、ささやかな断食の一日を終えたひとときわれらの「祈りの日」の幕がおりた舞台裏の一瞬である。

断食は人に気づかれず、隠れたところにおられる父に見ていただくため、人に見てもらおうと思ってはならないとは主イエスの厳命である。やってまーすと大きな声ではいえない。で、小さな声で……この日は前日の日没、木曜日の夜から始めることにしている。主の晩餐を想い起しながら、ご聖体を顕示、たっぷりイエスス様と時を過ごす。蜜言をはり上げ、「キリストに向う祈り」、「イエススの聖名の連禱」など力いっぱい叫び、長い沈黙に入る。古風なのだろうか。今はもう忘れかけている「公教会祈禱文」の中の美しい祈りが好きなのである。

もちろん「教会の祈り」の詩篇を唱うことを大事にはしている。だが日常の折にふれた祈りの中でどれほど古くて美しい祈りのことばを捨ててしまったことか。心に溢れる自由なことばで祈ろうとかけ声は高い。が、そのために祈りが単調で不自由になっていることか肩をひそめることも多い。

「祈りの日」第一部はご聖体による祝福ベネクションで閉じる。この日はよいっぱりの者も早く床につき翌日に備える。

早暁―短い睡眠の後聖堂参集。朝の詩篇で賛美を捧げて後、身仕度を整えて、そそくさと黙想の家を出発、裏の油山にそれぞれのペースで向かう。異様である。手に杖を持つ者、聖書をタオルで包んで腰に巻く者、古いむぎわら帽をかぶる者―半日の単独行にそれぞれが行脚姿をデザインする。それぞれがカッコよくないのである。

市民の森をひかえた油山、日曜日ともなれば行楽の人でにぎわう。が、週日の早朝は人出もまばら。歩きながら祈り、祈りながら歩くには格好の場所である。人里離れた山でしばし祈られた主イエスの御姿を心に刻みながら登る。聖地にちなんで「オリーブ山」と油山をひそかに名づけている。清澄な空気に包まれ、木立の中の小径を歩むほどに心も体も神にむかっていく。歩きながら深まっていく祈りが適当であろう。

「イエスの祈り」を続けている。これは東方教会の祈りの修業のひとつで、主イエスのみ名の絶え間ない呼びかけ、祈りの心を深めていくことが出来るという。一歩あゆむごとに、ひと息ごとに「主イエス・キリスト、罪びとの私をあわれんでください」と呼びかける。呼吸のリズムとともに聖霊のうちに内的な祈りへと導かれると祈りの指導書には書かれている。

ロザリオをたぐりながら、杖で地面を叩きながら、単純に繰返し絶え間なくわれらのオリーブ山中で自下修業中なのである。早朝時には星空を仰ぎながら出発した一同も陽が高くなり山を下りかける頃、ちょっとした飢餓感を味わうことになる。ハイキング・コースを辿りながら弁当持参というわけではない。前夜以来飲まず食わずである。この飽食の時代、少々苦痛である。体中の力が弱く感じ気力も減じてくる。自由に選んだ苦痛が重荷になって、意味を見つけようと考えてもみる。

古来、施しと祈りと断食は基本的なキリスト教的態度として重んじられてきた。神へむかう心の力と人々に対する愛のエネルギーの源と考えられた主イエスご自身も祈りと断食を公生活の準備としておすすめになられた。人びとが慢性的な飢餓状態にあったあの時代においてである。

健康上の理由から断食道場に入る人も少なくないというが、創造主の豊かな恵みを謙虚に味わい知り感謝を深めるために、また今地上で飢餓を強制され生命の尊厳を犯されている兄弟へのつつましやかな遠慮の心から、少々の苦痛をすすんで引き受けよう。これがわれらの「祈りの日」の心である。なによりも主における貧しい人々の群の中に自分を見出したいと希望するからである。復活の光に照された主キリストの御受難を黙想する一日である。

（福岡司教・受難会院長）

会合と催し

▽平田司教
10月7日　門司港教会堅信式
14日　島崎教会堅信式
15～20日　教区の邦人司祭の黙想会
21日　教区修女連の研修会
28日　伊万里教会堅信式
29日～30日　カルジナル・ヘフナー来福、視察

▽福岡黙想の家
10月6～7日　一般信徒の黙想会
東田島レジオ・マリエ
13～14日　禅聖書による祈り
15～20日　教区の邦人司祭の黙想会
20～21日　西南大学聖歌隊の合宿
21日　黙想の家バザー
21～27日　シスター黙想会
28日　大神学院司祭の黙想会

回覧板

◎聖金曜日に要望されていた「聖地献金」に対して、平田司教に宛てた八月二十一日付礼状が東方諸教会筆者からあった。

◎教区邦人司祭の黙想会が十月十五日～二十日まで行われる。信徒のみなさんの祈りをお願いする。

◎東京でのケルン大司教ヘフナー枢機卿が、大名町カテドラルの視察のため、十月三十日～三十一日にかけて来福滞在の予定である。

◎三月から、脳血栓のため入院加療中であった深堀仙石衛門司教は九月二十六日、無事に退院、北九州市八幡東区のパリー外国宣教会北九州支部で静養を続けている。

◎九州地区信徒使徒職研究大会が十一月十七日～十八日に、福岡黙想の家で行われる。信徒使徒職委員会の浜尾司教（委員長）ほか専門スタッフが出席する。誰でも自由に参加することができる。

◎このほど枢機卿に親任された里脇長崎大司教の就任祝賀会が、九月十六日（日）午後六時三〇分から、長崎市内の東急ホテルで盛大に開かれた。長崎県・市の各界名士や国内の教会関係者多数で賑わった。平田司教も教区青年大会の時間をさいて祝賀に駆けつけた。

里脇新枢機卿は、日本司教協議会会長でもあり、文字通り、日本カトリック界の最高指導者となる。

一　友情を祈りつつ考える
サマ　福岡地区中学生練成会
キャンプ

八月二十五日から二泊三日で、福岡地区中学生練成会が、黙想の家で催された。昨年はじめて福岡地区小中学生の練成会が行われたが、今回は中学生だけの練成会が指導司祭深堀勝人師、スタッフ神学生二名、御受難会修練者二名のもとで、中学生男女三十四名が参加して、夏休みの終わりを有意義に過ごした。

「友情」というテーマの中で、一日目は、テーマについて共に考え、中学生同志の親睦（紹介、ゲームなど）のうちに。二日目は、午前中、サマリア人のたとえの聖書のわかち合い、奉仕活動、午後は忠一神父の司式のもとに光の祭儀を行ない静かな祈りの雰囲気の中で二日目を終えた。三日目は、三日間のまとめ、ミサの準備をして平田三郎司教司式のミサに、感謝のうちにあずかり、司教からミサの後に記念品をいただいた。この練成会の三日間、黙想の家という祈りの雰囲気のただずまいの中で過ごし、お別れ会では、皆互いに握手をかわし別れを惜しみながら黙想の家をあとにした。

〝任意保険に加入してから車の運転を致しましょう〟
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険等々
福岡市博多区中洲5―4―12
AIU福岡ビル内
大石保険事務所　大石真澄
〒810　TEL 272―0671

祭壇・洗礼盤他
石石他
理影の
大御そ
素材
石のパイオニア
髙木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2―21
TEL 52―2417

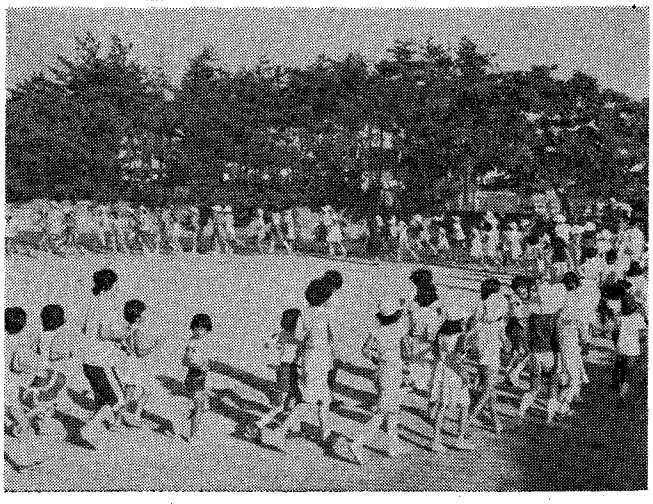
夏の思い出、小学生練成会
イエズスさまと明日も元気

北九州地区

七月二十三日（月）～二十六日（木）まで三泊四日、粕屋郡古賀町大字久保花見のカトリック教会内暁の星幼稚園で、北九州CYG（女子小学生会）のサマー・キャンプが開かれた。

北九州CYGは、カトリック・ヤング・ガールの略称で、北九州地域の各小教区信者の小学三年生から小学六年生までの女子を会員としている。一、いつもイエズスさまのおのぞみにしたがいます。二、もはんによって神さまのみおしえをつたえます。三、おたがいに協力し助け合います。以上三つの約束（スローガン）のもとに、毎月第二・第四日曜日の九時ミサ後集会を開き、いろいろな奉仕活動や夏のキャンプ、クリスマス会そのほか楽しいことたくさん計画しみんなと力を合わせ神さまと人々のために働きながら向上していくように努力するものである。ラバルタ神父（門司教会）、原氏（八王寺）中村氏（戸畑）が共同責任者となっている。

サマーキャンプの主旨は、家から離れ、自然の中で過ごす共同生活を通して、子ども一人ひとりが日頃胸に秘めている思いや夢を少しでも実現させながら、「新しい自分」を発見する喜びにあふれる場を提供することにあると説明している。参加者は女子小学生約一二〇人と二十人の先生（指導者）であった。



北九州地区練成会

佐賀地区

佐賀地区の小学生を対象にした夏の練成会は、七月二十六日～二十九日まで佐賀教会で行われた。

イエズスさまの友だちである私たちを中心テーマにして、第一日目は、イエズスさまはここにいらっしゃるという出会いから始まる。二日目は、イエズスさまの第一の友として呼ばれていることの自覚。三日目は、イエズスさまによろこばれる子供、四日目は派遣のミサで終了した。

この練成会では、テーマにそった祈り、ミサのほか、毎日のプール通い、花火大会、宝さがしなど盛り沢山のレクリエーションに暑さを忘れる楽しさがあった。又ガザルディ神父を中心に宣教クララ会のシスター、青年会員、父兄の協力が大きな力となって、イエズスさまの友だちであることを、みな喜びの中に感じた、楽しい意義ある集いであった。

佐賀地区練成会

十月年忌の司祭

▼エミール・ラゲ神父（パリー外国宣教会）一九二九年十月三日福岡司教館、
▼ジャン・バプチスト・ドラビ神父（パリー外国宣教会）一九六七年十月二十三日北九州市黒崎教会の元主任司祭。

夏期練成会
サマーキャンプ

戸畑教会　四年　藤屋聖子

私は、この四日間楽しかった事は海です。私は海で泳ぐのはあまりうまくないけれど、とっても楽しいです。四日とも海へ行きました。こわかったのは、きもだめしです。始めはこわかったです。前の人を私はおっかけて行きました。でも、ずっと歩いて行くと、こわいものはあまりありませんでした。今まで楽しかったことは、海・サンドイッチ作り、おにぎり作り、キャンプファイヤー、遠足などです。みんなけがもなく楽しいキャンプができるのは、神様のおかげです。神様ありがとうございました。

八王寺教会　六年　匿名

海に行ったこと：私は今でさえ日やけているのに、海に行って、でたらめに真黒にやけてしまってどうしようかと思った。でも色が黒いのは私の一つの思い出となりました。手や顔にお弁当をくっつけて、とてもたのしそうにつくっていたしサンドイッチでは、包丁のとりあい、野菜や卵をぐっちゃぐちゃにして、かってにパンに入れて、やけで食べた。きもだめし、火を囲んでのキャンプファイヤー、どれをとっても楽しかった。去年のキャンプの時は、二日目ぐらいにいっぱい友だちできたけど、今年は、一日で友だちができたので、とてもうれしかった。それに、みんなはとてもユニークでおもしろい人ばかり。来年はもうみんなとあえないけど、とても楽しかった思い出を忘れずにいたいと思います。思い出を一つ一つかみしめて、悲しい時もつらい時など思い出したいと思います。また、クリスマスの時にみんなとあえるので、その時をとても楽しみにしています。

湯川教会　六年　島本和子

楽しかったすいかわり、海でおやつを食べて砂だらけになり、何回も手を洗っておこられたり、キャンプファイヤーのせんしゅせんせい、班長になったり、げきでイエズス様役になり、とてもいそがしい毎日だった。その反面、大分の事故、木戸聞先生のことなど悲しいこともおこっているが、わたしたちのキャンプは、楽しいうちにおわりがちかづいている。神様ありがとうございます。

床工事・室内装飾・清掃取扱一式
有限会社　創和
又野征次
西区荒江1―22―28
TEL (851) 4694

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL 521―0568

カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行兼編集人 山田成章
電話092—522—5139
振替口座 福岡42981
定価 一部 20円

共同訳聖書作成資金募集

一、募金額 五百万円
一、方法 一口五百円
一、送り先 本誌編集部
寄付者

宣教・司牧司教委員会が「聖書週間」を司教会議に提案し、全員の賛同を得、実施にふみきって、今年は第三回目に当たる。

日本の司教団がこの設定を望んだのは、第二バチカン公会議の「啓示憲章」が示した聖書に関しての司牧・宣教の指針を、具体的な形で日本の教会に示す必要を痛感したからであった。

この憲章は、その司牧的項目のなかで、「いのちの言葉」である聖書が、主の聖体とともに、魂のかてとしていつもたいせつにされまた信者が日日の朗読・黙想をとおしてキリストに出会い、親しい交わりのうちに、深い霊的生活に入るようせつに勧めている。さらに、同じキリストを信じながら、まだ一致にいたっていない兄弟たちと共に読むことのできる共同訳聖書の出現を望み、まだキリストを知らない多くの人に「救いの言葉」である聖書を広めるよう心掛けねばならないと説いている。

第3回「聖書週間」を迎えて

福岡司教 平田三郎

一 聖書に親しみ聖書に生きよう —司牧面から—

教会における司牧の大きな目的のひとつは、キリスト信者が、人類への神の使信である聖書をとおして、救いの神の計画はどのようなもので、その計画は、歴史の流れの中で、どのようにして実現に近づき、キリストにおいてどのように完結されたかを教え悟らせるにある。父から遣わされた救い主は、どのような生涯を送り、どのような教えを説かれたか、そのみ言葉を信じ、キリストとともに、キリストにおいて生きることがどんなにすばらしいことであるかを信徒に悟らせ生かすにある。ところで日本の教会は、このような司牧をおもに「公教要理」という本を中心に展開してきたように思われる。この要理書は、字が示すように、聖書に包まれている教えを体系的に要約したもので、信者が何を信じ、どんな掟を守り、どんな秘跡を受けて救いにいたるかを知るために、なくてはならないものである。しかし、それだけでは、あまりにも知的で、目日の実生活には密着せず、掟中心の教育になりかねないものであった。

信者の心にうるおいを持たせるためには、この体系の源である聖書にじかに接し、読み返し味わい祈り、頭でも心でも、神の言葉の力を悟り実生活がもっと神の言葉に生かされるよう公会議は、勧めている。神の言葉の公の朗読は、毎週、主日の共同体の集まりで「みことばの祭儀」の形で行われ、集会を司さどる司祭は、主に代って神の言葉を宣言し、現代人向けに説明し、魂の糧とするが、聖書との接触は週一回だけでは足りない。ちょうど人間の体の生命が、空気と一旦三度の食事をとって生きているように、私たちの魂の生命も、この「いのちの言葉」を空気のように、三度の食事のように、いつも、たびたび取る必要がある。「人の生きるのはパンだけでなく、神の口から出る言葉による」と主はおおせられた。だから聖書は、子供の宗教教育にも、家族の生活にも、個人生活の中にももっと生かされなければならない。「聖書週間」はただ一週間の行事にとどまらず、キリスト教的価値観、人生観に徹するため聖書に親しみ聖書に生きることがどんなに大切であるかを悟り、聖書を生涯座右の書とするための出発点にしていただきたい。この確心を固めるため、各教会、修道院、家庭では礼をとおし、また講演会や研修会、展示会の開催や、家庭での話し合いをとおしてこの聖書意識を高めていただきたい。

二 聖書を人々のうちに広めよう —宣教の面から—

神の言葉に魅せられた魂は、この宝をひとり占めにしておくことはできない。できるだけ多くの人に分かちたい気になるはずである。たとえ、聖書についての知識をあまり持っていないと思っていても、聖書から得た感動を人に伝えることはできる。自分の人生の旅路の燈台となった聖書の力所を友人に伝え、感激を分かち合うことはできる。宗教教義についてじゅうぶんの知識を持ち合わせていなくとも、主は、こういう悩みの時には、こんなことを言われた、喜びの時にはこんなことをなさったと言って、キリストを知らせ、キリストを愛させ、キリストにつかせることができる。これこそみ言葉の宣教でなくて何であろう。

私たちは、日日聖書に親しみ、聖書に生き、聖書的人生観を確立し、生き生きとした信仰生活にいたり、その証しをとおして、人々を信仰の喜びに引き入れなければならない。第三回の「聖書週間」を迎えるに当たり、このいのちの泉を大切にしよう。たびたびそこから飲む決心を立てよう。そしてこの決心を実行に移す光りと力を祈り求めよう。

聖書を知ることはキリストを知ることである。

聖書を読み、黙想し、祈ることによって生きよう。

聖書週間（11月18日～25日）

25年の地道な聖書研究の成果
待望のカトリック新約聖書誕生！

翔べ、小鳥たち。
フランシスコ会聖書研究所訳注 新約聖書

11月1日発行
●聖書の原典の味わいを今日の人々に伝える●日本語の響きを大切にした流れるような訳文●聖書の理解を助ける良心的な注解●伝統ある聖書研究が生み出した今日の名訳●便利な小見出し付き●だれでも読める総ふりがな
B6判・上製（黒・エンジ・青）976頁……1,700円

中央出版社
販売元／中央出版社 東京都新宿区四ッ谷1の2 ☎357-6401 女子パウロ会 東京都港区赤坂8—12—42 ☎479-3941

事務用機器・コンピューター・学校用・幼稚園備品
㈲シオタ事務機・㈱日本幼育社
社長 カシミロ・塩田五郎
福岡市南区大楠2丁目23—15（西田ビル2F）
TEL 代表 092（521）—8266—7

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話 52—3306
52—8622

ヤング・接近

光ケ丘教会　米湊洋子

『〝信仰は一つ、教会は一つ、青年も一つ〟―神の家族である教会にとって大切なことは、信者同士の一致であって、特に教会の発展は、若者キリスト者の一致と協力の如何にかかっていると思う』と語るのは、光ケ丘教会の米湊洋子さん。学生、二〇才。

教会では、日曜学校を手伝いながら、子供たちの宗教教育に自らの若い力を投入している。

去る九月行われた教区青年大会に参加して、若い信仰のエネルギーを燃え立たされたらしい。青年大会で教区全体から、あれほど多数の若者が集まったのにまず驚いた。自分たちと同世代の若いキリスト者が、キリストの一つの信仰に結ばれているということだけで、遠方から一堂に集まった青年、その信仰の輪に感激したという。『他の小教区の青年たちが、信仰生活のあり方、キリストの証人としての使命を確認し合うために集まって、お互いが真剣に語り合い、祈り合い、そして一つになろうとしている姿勢を見て、自分たちの教会、青年会の状態が恥ずかしく思えてなりませんでした。でも、あの大会に刺激されて、私たちの教会でも、青年たち一人ひとりの考え方を見つめ直そうという若者が何名か集まり始めています』と率直な意見を述べてくれた。また、最近では、青年会を盛り上げ、若い人たちの一致と協力と結束を目ざして、主任司祭を中心に、集まりやすい雰囲気をつくるために、聖書研究会、英会話などの手段を取ってみてはどうかとの気運が起こりつつあると聞く。

神の家族、そのメンバーの原動力となる青年たちが、今、何をなすべきかをよく吟味しながら、まずは、やる気、ファイトのある者同士が結束して立上るために、今から青年一人ひとりへ働きかけ、そして、辛苦や喜びなど、若者ゆえに共通する信仰生活のあり方を自覚し合いながら、信仰の輪を広げて行って、超小教区的レベルにまでその輪を広げることができればすばらしいと思う…と、その抱負を語ってくれた。

『常によろこべ』という聖パウロの言葉が好きだと語るその姿に、楽観的で、希望にあふれた、明るい性格、明日の教会を担うファイトあふれる意気込みを伺い知ることができた。

（文責・竹森）

○祈禱の使徒会○

（一般）独身のキリスト者

（布教）南米における宣教師の養成

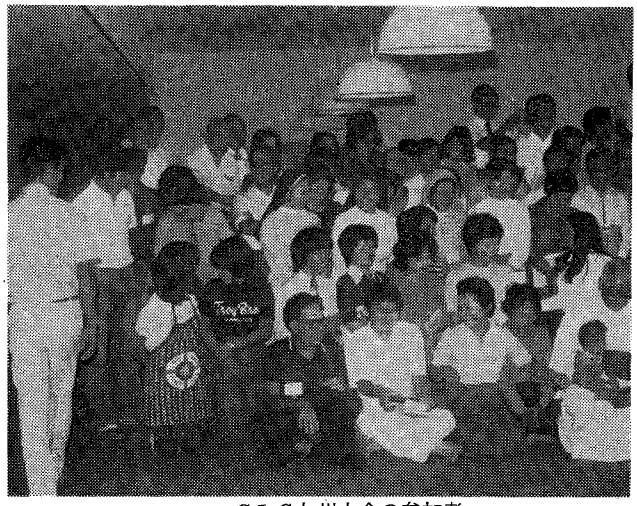
「生きざま」を見直す
'79CLC九州大会

北九州

去る9月22日から24日の3日間79CLC九州大会（大会司祭助言者―渡辺隆義神父・新田原教会、実行世話人―泉家庭会）が、北九州市の安川電機研修センターで開催された。九州各県そして、千葉・東京・名古屋・京都から約80名の仲間が参加した。

今大会のテーマは「生きざま」。今日のように過度に発達した物質文明の中で、真のキリスト者たるには、信仰を「私と神」の意識の中に限定せず、もっと「周囲との関わりにおける自分」を見直してゆかねばならない。「周囲を変えることのできない信仰は何にもならない。」「くらしの刷新を求めてもっとキリストの福音に近づこう。」という願いをこめて、今大会のテーマを「生きざま」と決めた。

大会開催にあたり、平田司教は「キリストの愛のすばらしさを知らない人々、鉄とセメントで固められた球の中に封じ込められていて、外を見ることのできない人々に、外から穴をあけ、光を入れるそのようなCLCの仲間の働きは大変重要です。」と熱意をこめて歓迎のあいさつを述べた。



CLC九州大会の参加者

第1日目の「出会い」のミサの中で、本大会の司祭助言者、渡辺神父は、「自分自身がどのような生き方をしているか、キリストの生き方を映しだしながら、この物質文明の中で神を忘れていないかを見直しましょう。そして兄弟の中に、また自然を通して真の出会いができるように、自分に対し、他人に対し、神に対して素直に心を開き、ザカイのように興味しんしんと見つめ、主から遣わされた者としてお互いに出会いましょう。」と説教した。

第2日（養成の日）の朝の黙想は、山内春治神父（フランシスコ会・長崎）とイシドロリバス神父（イエズス会）によって指導された。その後、メンバーは分科会毎の分かち合いのため、10班に分かれ、生活の見直しにはいった。各自の生活の立場を次の3つに分けサブテーマとした。

1. 物質文明に乱された家庭の中で
2. 物質文明に混迷する社会生活の中で
3. 物質文明にさまよえる若い世代の中で

各分科会の分かち合いの前に、導入として体験発表が行われ、分科会Ⅰでは、泉家庭会の矢野留美子さんが「ロザリオのマリア様」と題し、生活の苦しみの中で信仰の喜びを見出してゆく姿を打ち明けて、多くの仲間が共に涙して分かち合ったことは実に印象的であった。分科会Ⅱのためには、日本連盟派遣の宮坂研一氏が「フィリピンのスラム街や癩収容所のスライドによって現地の様子を解説され、フィリピンの仲間の貧しさとそれと対照的な幼子の様な笑顔を見せられて多くの人がショックを受けた。分科会Ⅲのためには、「日本の教会の息吹き」ということで、北九州社研の深堀氏に8月に開かれたカトリック社研全国集会の模様を話していただいた。その中で、病身をひきずって演壇に立たれたムルグ神父のことばとして「自分のガンとの闘いはたいしたことはない。それより多くの社会問題がありながら、それを見ようとしない、関わろうとしない信徒、教会のガンこそ大変なことだ」と言われた。

養成のミサの中でスペインから帰国早々この大会に参加したリバス神父は、「痛みを感じる見直しこそ本物である。」そして、「日本人の司祭がたくさん参加してCLCを支えてくださるのが大変うれしい」とも。また「自分の弱さ、ボロを知った時、キリストを知る。だから恐れないで信仰をほり下げてゆこう。」と説教した。

第3日目（派遣の日）は朝の黙想の後、静修の時間へ。赦しの秘跡、霊的指導を受け素直にされた仲間たちは、その後、全体集会で大会の体験や決心などを出し合い分かち合った。

大会のしめくくりの派遣のミサは平田司教司式で行われた。ミサの中で、8名の仲間が有期奉献をして、神と仲間へ委託と奉仕を約束した。こうして、大会は祈りのうちに、そして生き生きとした雰囲気の中で、無事終了し、仲間たちはそれぞれの現場へ派遣されていった。

内科、放射線科、循環器科、消化器科
正金診療所
院長　古賀明恭
福岡市中央区天神4丁目4-11　福岡ショッパーズプラザセンタービル7階
休診日日曜、祭日、ダイエー定休日　TEL（713-7912）
診療時間　午前10時～午後6時　昼休みなし
土曜日　午前10時～午後4時

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1―4―23
TEL 771―3657

〈羊飼いの牧場〉

身辺雑感

畠山七郎

ハイネは、幽霊の異常な行動を説明して、幽霊も、私たちが彼らを恐れると同じように、私たちを恐れているという意味の誰かの独創的な説をあげています。しかしわたし自身の幽霊についての経験の記憶から編集しうる、幽霊と人間の足の速さの比較表から判断しますと、そうとばかり言えません。

幽霊を信じるのに乗り越せない障害物が一つあります。つまり、幽魂は決して裸で出ないことです。幽霊は死体を包む白布の姿か、生前の服装かで姿を見せます。そうだとすれば、幽霊の存在を信じるということは、死者にはすべてが消滅したあとでも、自分の姿を人の目に見えるようにする力があるばかりか、同じような力が織物にも本来備わっているということを、信じるということになります。織機によって作られる織物がこのような力を持っていると仮定するならば、そのような織物がそうした力を振るうのはどんな目的からなのか、そしてなぜ洋服の化け物が、本体の幽霊なしで、時には出歩かないのか、これらは意味深い謎です。そしてこれらの謎は、この流行している信仰の根深い主根にぐっと手を伸ばし、これをつかんで激しくゆさぶるのです。

昔、古い校舎がありました。雨が降ると雨もりがし、風が吹くと方タガタ音がして、雨が降る夜など幽霊が出ると云う話しが、いつの頃からか語りつがれていました。

なんでも、そこは戦時中、軍隊が使用していて、終戦の時、軍人が自害したとか、しなかったとか。その後、幾人かの人が夜、体が動かなくなるほど、なにかにおさえつけられたとか、つけられなかったとか。そんな話が、時がたつにつれて、上級生が新入生に、毎年毎年、自分たちの創作を加えて語りつがれていきました。五、六年たつと新入生も、ひげづらになり、精一ぱいの想像をめぐらせて怖い話しをきかせてよろこぶようになりました。然し、その想像力は話す人自身を怖がらせることになりました。それは上級生だけが補習で夏休み中に残るようになったからでした。その時彼らはいやという程、自分自身が想像してつくり上げた幻影におびえたのでした。白い布が、風の音と窓のきしむ音が、自分たちの想像力と重なって幻影を見たと思ったのでしょう。

私たち人間は、しばしば自分が想像したり、作り出したものによっておびやかされることがあるものです。

かみさま、
ゆきが　すごく　つもって、かっこうが、やすみに　なったときのこと　おぼえてますか、またあんなふうに　してせらえないかなあ。　ガイ、

かみさま、
ユダヤじんたちがみんな、うみのみずのあったところをとおりぬけて、エジプトからでていったところを、せんせいがよんでくれました。これからもがんばってください。わたしはユダヤじんです。

あいをこめて　ポーラ、

これは、アメリカの幼児が書いた「かみさまへのてがみ」と題する本からのものですが、日本でもこの訳本は大へんな売れ行きで、「続かみさまへのてがみ」も最近出版されたようです。私たちは祈っているでしょうか、私たちの祈りはどんな祈りなのでしょうか。

祈りとは「取るに足らないことが明々白々なたった一人の嘆願者のために、宇宙の全法則を廃棄してくれるように頼むことだ」と云うことになってはいけないでしょうか。

電気的、電磁的、機械的な振動たとえば交流、電波、光、音などすべて周期的な変化をするものにおいて、一秒間にくりかえされる変化の数を、周波数と云うことはよく知られています。周波数の多さに従って中波とか、短波とか超短波とか呼ばれ、あるものはテレビ放送のため、あるものはラジオのために使われています。ゆるやかな波をうっている波長をだんだんはげしく波うた せ振動の数をふやし無限にその数を増して行くならば、あまりにも数多い振動のために、あたかも振動していないように真直になって行くのです。極端に波の数を増していったために波が一つもないようになってしまうのです。極端とは、無限とは、何とも不可思議なものです。最も短くなっていったものは、最も長いかのようです。

類似的に考えられるものかどうかはよくわからないのですが、神の愛は無限で、その最高の極みは人間にしかなり得ないのではないでしょうか。そしてその人間性の極みは謙遜と従順における十字架の死以外にはなかったのです。わたしたちとともにいる神、キリストの十字架は、その謙遜と従順と愛の極みにおいて最高の神でしかあり得なかったのではないでしょうか。

（福岡小神学校）

十一月年忌の司祭

▼フレデリック・ボア神父（パリ外国宣教会）一九七七年十一月三日北九州市援助修道会黒崎修道院付司祭

▼スバノーニ・セヴェリーノ神父（ミラノ外国宣教会）一九六二年十一月二十七日唐津教会主任

会合と催し

★平田　司教

11月4日　二日市教会堅信式
5～8日　全国司教会議・ケルン大司教歓迎会
11日　西新教会堅信式、本渡殉教祭
18日　唐津教会堅信式
21日　サン・スルピス大神学院祭
23～24日　宣教クララ修道会主催の研究会
25日　呼子教会（増改築）祝別式・堅信式

★福岡黙想の家

11月1日　東田島教会婦人会の黙想会
3～4日　北九州レジオ・マリエの集まり
5～10日　通勤信徒の黙想会
10～11日　大神学院神学部長の会合
11日　湯川教会信徒の黙想会
17日　福岡婦人有志の会
17～18日　九州信徒使徒職大会（浜尾司教来福）
18～19日　コイノニア会
22日　ミカエル会
23～25日　佐賀の宣教クララ修道会主催の研究会

移住の日献金（9月9日）

大名町	65,510	馬渡島	10,000	飯塚	7,500
浄水通	43,497	呼子	5,800	田川	3,300
光ケ丘	16,224	佐賀	15,000	新田原	48,750
箱崎	7,000	唐津	6,700	行橋	12,759
東田島	17,500	伊万里	5,000	手取	25,145
西新	20,248	鳥栖	4,115	荒尾	12,000
大楠	9,511	武雄	4,864	人吉	17,500
美野島	10,000	多久	4,025	本渡	14,000
茶山	9,795	門司	21,000	健軍	12,000
高宮	13,310	門司港	15,555	帯山	13,000
考司	19,000	小倉	48,080	水俣	12,710
吉塚	15,015	湯川	30,205	大江	10,220
古賀	13,350	戸畑	43,790	崎津	10,000
二日市	14,000	若松	6,676	島崎	24,600
久留米	37,620	天神町	16,000	玉名	9,500
大牟田	7,450	八王寺	7,000	菊池	25,000
吉野	1,240	黒崎	15,000	八代	12,535
今村	82,500	水巻	11,400		
小郡	5,132	直方	5,430	合計	954,061

回覧板

▽カトリック福岡地区婦人の集いでは、十一月十七日（土）、浜尾文郎司教を迎えて黙想会を開く。「婦人の信仰」をテーマに、十時から、福岡黙想の家で行う。▽去る十月十二日～十一月二十三日まで、小林司教による「聖霊による生活刷新ゼミナール」が、毎金曜日午後七時から開かれている。熊本・手取教会の主催である。

*任意保険に加入してから車の運転を致しましょう。
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険等々
福岡市博多区中洲5－4－12
ＡＩＵ福岡ビル内
大石保険事務所　大石真澄
〒810　ＴＥＬ 272－0671

祭壇・洗礼盤他
石石他
理影の
大御そ
素材
石のパイオニア
髙木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2－21
TEL 52－2417

真の礼拝者の原点を聖書に
問う、教区司祭の黙想会

恒例の教区司祭の黙想会が、十月十五日（月）～二十日（土）まで、東京教区の沢田和夫師（東京カトリック神学院教授）の指導のもとに、福岡黙想の家で行われた。

〈私の事情により、全員参加することは困難であったが、常時、二十人以上の司祭たちが、真剣に「司祭職」・真の礼拝者の重みを黙想した。特に、病み上がりとはいえ、元気そうな深堀老司教が激励に見え、久方ぶりに歓談のひと時を過ごした。

サン・スルピス会の創立者オリエ師は「神はこの世に二つの驚くべき事を与えた。それは、司祭と神の母マリアである」と書き遺しているが、司祭職が、何はさておき神の恩恵であり、神の民である教会への贈りものであること―司祭職の私物化は許されない―を聖書は答えてくれるであろう。

「父が、私を愛されるのは、私が生命をふたたびとりもどすために、自分の生命を与えるからである」（ヨハネ10・17）生命をかけた司祭職こそ父なる神のみ旨であり、キリストの現存となる。

旧新約聖書を駆使して真の礼拝者の在り方を考えさせた今回の黙想会は、祈りのシンフォニーであった。聖書は神への賛美を教える。

教区司祭の黙想会

歳末街頭募金、新年会など
北九州信徒協代表者会議

十月十四日（日）、北九州地区信徒使徒職協議会は、十五小教区の代表者会議を行ったが、つぎのとおり、話し合った。

一、教区信徒協役員会報告

(1)日本司教団信徒使徒職委員会九州集会の件

十一月十七日十八日福岡黙想の家で開催される。北九州地区には七名の参加割当てがあり、参加費は教区信徒協会計が負担する。交通費は自己負担。参加希望者は十月三十日までに若松教会松尾光敏氏宛（〒八〇八若松区藤ノ木一丁目四―二三電話七七一―二九三六）申込むこと。集会プログラムは近日中に松尾氏から各小教区へ発送の予定である。

(2)「現代に生きる」リフレットの件

No.11とNo.12が発行された。北九州地区に各五〇〇部づつ割当てがあった。一部十円であるが、今回は地区信徒協会計から支出し、各小教区へは信徒数割りで無料配布する。No.13以後は各小教区からの希望部数を取りよせることとする。希望部数を出来るだけ早く、若松教会松尾光敏氏宛連絡のこと。

二、「国際児童年に関する集い」の件

親子合同参加の行事を、下記のプログラムで実施する事に決定。各小教区は協力参加のこと。日時は十一月十八日（日）午前十一時～午後四時。場所は新田原教会。内容としては、合同ミサ、展示物コーナー、話し合いコーナー、ゲームコーナー。行事責任者は門司教会岳田氏。不明の点は門司教会へ問い合わせのこと。各小教区は参加者数を十一月十日までに門司教会へ連絡のこと。

三、マザー・テレサ映写会の件

特に、信徒協に対しての仕事は求められていない。各小教区毎に前売券の販売促進に協力を願う。

四、歳末街頭募金に関する件

実施予定教会―八教会、募金の集計、配分を十二月十九日（水）午後七時三〇分から戸畑教会で。

五、布教用16ミリ映写機を地区信徒協にて購入の可否について、

「購入するとすれば20～30万円が必要である。現在の会費では、直ちに購入は出来ない。別途に各小教区から費用を徴収してまで購入する必要はない」というのが大多数の意見であった。行橋教会の追立氏から、CLC泉家庭会で最近16ミリ映写機を購入した。希望があれば、貸し出すとのことである。また、門司教会の幼稚園にもあるので貸し出し可能とのこと。

六、司祭、信徒協代表者との新年親親会の件

特別なテーマでの話し合いはせず、親親を主とした新年会開催に大多数が賛成であった。司祭団代表者亜田師（戸畑）と相談して開催を準備する。一応予定日を一月十五日（火）「成人の日」とすることを考えている。

良書案内

山内清海著

主日の黙想――聖書と典礼――

長年、神学生とともに生き、黙想してきた著者にして、はじめてなし得た労作である。手頃な、親しみ易い黙想書というべきであろう。「主日のミサ聖祭の、汲めども尽きぬ霊的宝を包含する聖書朗読について黙想なさるかたがたに、その全体的、体系的なアウトラインだけでも提供できれば…」の著者の願いによって、主日の神秘をA年、B年、C年に区分して黙想に導き、読者の心を大切にしているところが有難い。

典礼にキリストの現存を見る著者は、さらに一歩進めて、典礼におけるみことば―語りかける神キリスト―への注意を呼びかけている。主日に朗読されるみことばの一つ一つに吹きつけられた神の息吹きを寄せ集めて、「聖霊を受けよ」と近づくキリストの、全体的心を考えさせてくれる。活字としてのみことばではなく、朗読されるみことばに細心の関心を求めている。永遠に生きる神のみ心は、生きた言葉、朗読の形で提示されるであろう。旧約の人にも、新約の人にも、男にも女にも、同じ神は同じ事を要求する。「天に在ますわれらの父よ、み名の聖とされんことを…」すなわち、真の礼拝者の生活を約束し、日々の十字架の中に、父から派遣されたキリストの現存を信じてゆくことである。

心と霊をもって礼拝する者は、典礼におけるみことばに、父と子であるわたしたちの語らい―祈り―を感じ取ることができる。そこには、神と私たちとの交流の場がある。そこには、天の父に顔を向けてさんげする、と同時に賛美する人間の美しい姿が画かれている。

わたしたちとともにいる神「エンマヌエル」は、朗読されるみことばの中に生きている。みことばの祭儀を通して感謝の祭儀へ、語りかける神は、生命をかけた最高の愛を表明する神へ変容するのである。みことばは肉となり、食物となって、わたしたちの仲間入りをする。「主はみなさんとともに」この喜びが常に読者のものとなるように著者は心を配ってくれる。平易な語りかけは、より多くの読者の心を捉えることと思う。

一般的に言って、日頃、新約聖書に比して疎遠になり勝ちな旧約聖書に、より多く眼を向け、読み、かつ黙想する機会を与えてくれる本書は、貴重なものであると言わなければならない。中でも、主日のミサのオリエンス宗教研究所発行の「聖書と典礼」を併用して聖書全体、人類史の流れを通して示される〝み旨〟を黙想させる本の構成は、心憎いほどの見事な演出である。　定価三、〇〇〇円

床工事・室内装飾・清掃取扱一式
有限会社　創和
又野征次
西区荒江1―22―28
TEL (851) 4694

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL 521―0568

カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行兼編集人 山田成章
電話092—522—5139
振替口座 福岡42981

定価 一部 20円

共同訳聖書作成資金募集
一、募金額 五百万円
一、方法 一口五百円
一、送り先 本誌編集部
寄付者

パパさまは語る

宣教は神の意志から、愛をもって統一した教えを

教会は本質的に宣教的である（世界宣教デーにおいてのミサ中の教皇の説教）

主における親愛なる兄弟、姉妹の皆さん。特に親愛なる若人の皆さん。世界宣教高揚の日の前日から、私は特殊なうれしさを心に感じ取りながら、ミサ聖祭を司式いたしました。

ローマ教会の信者さんである皆様と一堂に会して、この様な有意義で重要な機会に、世界に散在する諸教区のみならず、ことに更に人々に福音を告げるために苦労しておられる宣教者、修道士、修道女の方々と結ばれていることを痛感しているのです。

兄姉の皆さん。ローマの教区と皆さんの霊的生活のために非常に重大なみ摂理のときです。ここローマで、キリスト教の核心に立っていれば、私たちは普遍的な教会の響きを聞きとれるのです。万民の心の要請をはっきり受けとめ、疲れを知らずキリストのみ名に抵身して、証しをし、宣言し、改心させ、新しいキリスト教共同体をつくり出して行っている方々の働きに参加しようとするのです。

少しくまとめて、皆様と一緒に典礼の朗読にはげまされて、教会の宣教活動の理由、条件、活動企画を黙想し探し出して行きたいと思います。

一、この事業の一義的でしかも究極的な意味は何でありましょうか

これが第一の問題です。そして解答は単純で断定的でさえあります。教会は神の明示された意志がそうであるからこそ宣教的であります。

イエスは、使徒たちにその任務その派遣について、またかれらの選択について何度も言及されました。「選んだのはあなたたちではない。私があなたたちを選んであなたたちが行って実を結び、その実がとどまるようにあなたたちをたてたのです」（ヨハネ十五・16）

天に昇られる前、イエススは公的に決定的に使徒たちに——そしてかれらを通じて全教会に宣教の派遣を行われます。「全世界に行って、全被造物に福なおとづれを宣言しなさい」（マルコ十六・15）そして福音宣教は附け加える、「そこでかれらは方々に説教しに出掛けて行った」。（マルコ十六20）

この時から、使徒たちもその弟子たちも地上の八方の途を辿り、不快をのり越え、疲労に打ちひしがれながら、人々に遭い、部族、諸国民にのり出して行き、そのために苦しみ、福音を宣言するために生命すら捧げたのであるが、それは神の御意志がそこにあって、この神に対しての自分たちの態度としては従うこと、愛することしかないからである。

聖パウロはその弟子テモテに書いている。「神はすべての人が救われて真理の認識に至ることを望まれる」と。（テモテ前二・4）

〝救の真理〟こそ、かかって救世主イエスス・キリスト—神と人との唯一の仲介者——人間の超自然的さだめの唯一の啓示者であります。そしてイエススは教会に福音を伝える使命を与え、この使命にキリスト者はあづかっているのであります。その本性からしてキリスト者は宣教者であります。尊敬すべき先達、パウロ六世は「福音宣教について」の教書の中で申されます、「福音宣言を人々にもたらすのは教会の任意にまかされた奉仕ではない。すべての人が信じ、救われるように主イエススの意志によって課せられた義務である。そしてこのメッセージこそが必要なのである。それはユニークなものであって、どうでもよいものでもなければ、適宜に他説と融和させられるべきものでもない。人々の救いがそこにかかっている。天啓のすばらしさが表明されている。この世のものでない知恵を含んでいる。それはそれだけで信仰心を起こさせ、この信仰は神の全能に基をおいている。それは真理である。使徒が全生涯を全精力をそこに賭け、必要とあらば生命をかける価いのあるもの。（五）「福音宣教。まさにこれこそ、教会の固有の召命であり恩寵である。教会の最も深いおこりそのものである。教会は福音をのべるために存在する……」（十一項）

時として、或る人々は、宗教的自由を楯に、福音をおしつけることは出来ぬ、各自の心の正しさで既にキリストに属する人々に福音を述べることは無益であり迷信的でさえあるとする。これに対してパウロ六世は既に明解な答えを与えられた。「たしかに、兄弟たちの良心が如何にあろうと、それを責めることは間違いである。しかしながら、これ等の良心に福音的な真理とイエスス・キリストの救いを明示する事とは別問題である。かれらのこの事に関する考えは、十分尊敬する事を怠らないかぎり宗教的な自由を犯さないばかりか、信じるものが高貴で優秀な道を紹介することこそ、選択の自由を持った自由への賞讃であると言うべきであろう。キリストとそのみ国をもたらすにあたって、敬意をはらいつつ人々に述べることは、福音の権利でもあり宣教の義務でもある。それはまた、救いの新しいたよりの紹介を兄弟より受ける人間の権利でもあるであろう。」（エバンゼリイ・ヌンシアンディ）

以上の言葉は、あらためて神の絶対命令であり、キリスト者としての責務を表明しているものである。

二、ここで第二の問題点、宣教事業のために本質的と思われる条件が何であるかにふれて見たい。それは教えにおける統一である。

世を去る前に、イエススは次の様に祈られた。「私はただかれらのためにではなく、かれらの言葉によって私を信じる人々のために祈る。かれらが一つであるように……父よあなたが私におられ、私があなたにいるように、かれらも私たちの中で一つでありますように：それは世があなたこそ私をお遣わしになったことをかれらが信じるためです。（ヨハネ十七・20—21）また、聖パウロはこの事に気をもんだ様にして弟子テモテに書き送っている。「神はただおひとり。神と人との仲介者もひとりイエスス・キリストである。真の人であられて私たちのために代償として自らをささげられた。（テモテ前二・5—6）もしも、信仰に統一がなければ、誰がそれを告げることが出来ようか？ また何を告げることになろうか？ それがなくて、これ程神秘に満ちた教えと、要求の多い道徳を信じる気にならせる事が出来ようか？教義的な異論や相異は混乱を生じ、幻滅を生じるしかないでしょう。福音の内容の様に本質的で、デリケートな問題に関して種々の仮説や学説を考え出して、表面だけの説得を試みる訳にはゆかないでしょう。福音宣教はその特徴とし

（二面に続く）

事務用機器・コンピューター・学校用・幼稚園備品
㈲シオタ事務機・㈱日本幼育社
社長 カシミロ・塩田五郎
福岡市南区大楠2丁目23—15（西田ビル2F）
TEL 代表 092（521）—8266—7

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話 52—3306
52—8622

(一面から)

て、信仰の唯一性と規律における単一性が是非とも必要なのであります。

パウロ六世の均衡を保った深い洞察に思いを集中して見ましょう「福音宣教者に人々が期待するところは真理である。しかも深められ、伝えられるものが神、自身である第一真理に外ならない。それ故、福音の宣教者は自己の犠牲や苦痛にもめげずに、自分が他人に伝えることをためらってはならぬ。自己主張のために、奇抜さで人々を驚かせるために、真理そのものを裏切ったり、偽装するなどもっての外である。かれは真理を拒んではならない。研究の怠りや自分の都合、おそれなどの理由で、啓示された真理を曇らせるべきではない。学ぶことを怠らず、ためらいなく真理につかえるようでなければならぬ。(エバンゼリイ・ヌンシアンディ)私たちはこれ程あきらかに、力強いパウロ六世のすすめに感謝すると共にすべての人が真理を学び、認めて、確かで明確な福音宣教の素質に欠けないために、教会の正統の教説にしたがうように祈って止まないものである。

三、さて、最後の質問に移ろう。福音宣教の事業の術は如何にあるべきかである。

この設問への答えも非常に簡単である。それは愛である。福音宣教の唯一で欠くことの出来ないものは、イエススに対する個人的で、徹底した内的愛の熱情である。リジュの聖テレジアのはずんだ叫びを想い起こします。「私の召命、それは愛です。母なる教会の中で私は愛でありたい。それがすべてです」私たちのためにもこうあって欲しい。愛ははげしく、勇敢である。しかも、人類の四分の三の人々に、イエススは今も見も知らぬ他人である。だからこそ、教会は自発的な男女の宣教者を、福音を叫ぶために必要としている。若き青年男女よ、あなたをお呼びになる神の声に心を向けてみよう。

神愛と献身と熱心のすばらしい理想が、皆さんの前に立って、皆さんを呼ばれているのです。人生というものは、それをひとが賭ける度合に応じて、大きく美しい。憶病であってはならない。愛はおしづけではなく、兄弟たちへの愛の献身の中で最高の喜びを見出すのです。愛はまた、温順で恩寵の働きに依存する。聖霊が魂の中に浸みとおり、人々を変容させる。一方、困難も大きい。特に、現代において信者さえ、現代史の中で無神論、世俗精神、自立道徳の精神にわづらわされている。だからこそ、聖霊に対する絶対的な信頼が必要とされるのであります。宣教事業にはこの様に、涙のうちに蒔かねばならぬ時でさえ、十字架をうべないながら、真福八端の精神のうちに行われるのです。

最後に、種々な型の使徒職の務をなしながら、愛は利発で、根気よいものである。模範による使徒職、祈祷の使徒職、苦痛による使徒職、愛徳の使徒職など、ローマの、そして全世界の教区でなされている有効かつ、活発に行われている、教皇直轄の事業によって取りあげられた方法と発意に沿った活発な発展を目指すものである。

四、それにしても、私は現今の宣教義務について、教会とそれを形成するメンバーにとって緊急と思われるものを黙っている訳にはいかない。今日、キリストのメッセージに根本的に逆らおうとする、雑多な型の反福音がある。すべての超自然的なもの、超地上的な責任を排除する精神、自然法と啓示の道徳から独立して考えられる倫理観、地上の安楽さを唯一の生き方としか考えない快楽主義、それから、非常に多くのキリスト信者をおかしている霊的熱心の低下、世俗的精神への同調、進歩的と言われる誤ったライシズム、社会や政治を最高規準とする考えなど、など。

これらに対して、常に聖パウロの叫びを、平常、心としよう。曰く、「キリストの愛、われらに迫る」(コリント後五・14)この使徒の叫びは、今日において特別な自重をうながしてくれる。これこそ全キリスト信者に――全世界の教区、小教区、すべての修道会の宣教的命令とすべきである。実に、キリストの愛こそ私たちを証しに迫い立て、告げ知らせること、すべての人に、何が何でも、よきおとづれを宣言するようにうながすものであります。

そして、皆さんはただ今、此処で真理の宣言者であるのです。何も恐れる必要はありません。キリストの愛が皆さんをはげまし、決意をうながさせる筈です。何故なら、「神かもし私たちと共におられるなら、誰が私たちに逆らえましょうか」(ローマ八―31)

まこと、「誰もキリストの愛から私たちを引き離すことは出来ないから」です。(ローマ八―35)更に、私たちは全世界の地域、国民の中で不幸にも福音が宣べられない国々、教会が禁制となっている人々の事を想うべきでしょう。教会は、ただ神の父性と、キリストによる救いの慰めと全人類の兄弟性を告げるだけの事を望んでいるのです。宣教師たちは真で正しい平和、キリストの愛の平和と私たちの兄弟であり、救い主である方を知らせたいだけです。全人類は、真理と恩寵の活きた水にあかされることを望んでいるのです。だから、神のお言葉が、自由にす早く地上のすべての人にひろがる(詩一四七・15)ことが出来るように祈りましょう。

五、このために、教会には先づ何より、祈りによる宣教魂が望まれる。私たちの祈りによって、宣教師方の傍に寄って行こう。この様な稀有な状況にあって、私たちは決して祈りをあきらめてはならない。先づ、ミサ聖祭において、すべての人の救いのためのキリストのいけにえを通して祈りましょう。御聖体が、キリスト信者を堅固で熱心に保って下さるように!!

また、絶えず信頼を大にして童貞聖マリア、宣教者の元后に祈ることを忘れまい。お母さに、信者の宣教のいやます望みとより深い福音宣教の責任を自覚させて下さるように祈りましょう。特別にロザリオを手に、イエススを知らせ、愛させようと、試錬と苦しみの中にいる人々と一緒にいることを祈りましょう。教会誕生の日、聖霊降臨の日に、使徒達や弟子達婦人達と席を共にしておられた聖マリアは、常に、教会と共におられ、彼女こそ最初の宣教者であり、福音を告げるすべての人の支えでいらっしゃるのです。

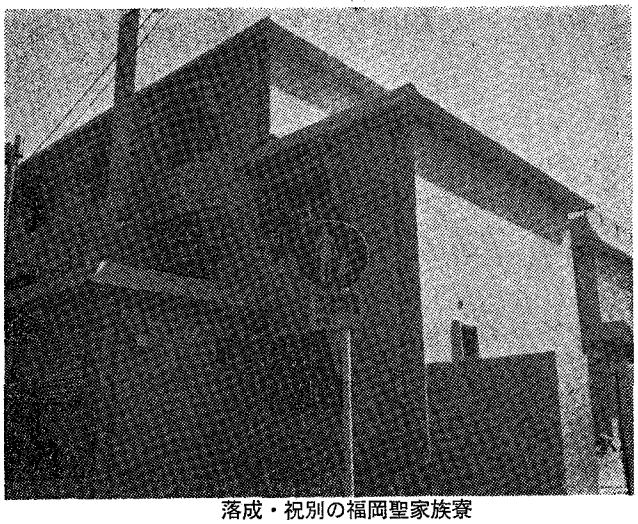
(伊東誠二訳)

福岡市内に礼拝会の新支部
一般女子寮で布教に協力

十一月一日午後三時から、モダンな三階建ての福岡聖家族寮(礼拝会経営、福岡市中央区今川町一―二一二四、電話七五一一二五七八)の落成、祝別式が行われた。平田司教が建物各部屋の祝別、ベネジクシオンを挙行、ついで、落成式典、祝宴と続き、近在の司祭、修道者、工事関係者や隣保班の人が参列して、前途を祝した。

礼拝会修道会は、福岡教区には初のお目見えで、当分、三名のシスターがOL中心の一般女子寮を運営することになっている。

この修道会は、一八五六年聖マリア・ミカエルによって、スペインのマドリードに創立され、国内では、東京都世田谷区(本部)、練馬区、愛知県一宮市、大阪府泉南郡や茨木市、また横浜市に各支部を有し、幼稚園、女子寮、移住者用施設や小・中学生を対象にしたインタナショナル・スクールで活躍している。



落成・祝別の福岡聖家族寮

○祈祷の使徒会○

(一般)結婚準備の適切な指導

(布教)中国の教会

内科、放射線科、循環器科、消化器科

正　金　診　療　所

院長　古賀明恭

福岡市中央区天神4丁目4-11　福岡ショッパーズプラザセンタービル7階

休診日日曜、祭日、ダイエー定休日　TEL (713-7912)

診療時間　午前10時～午後6時　昼休みなし

土曜日　午前10時～午後4時

各種高圧ガス・溶接材料・その他

松尾産商株式会社

社長　松尾光敏

北九州市若松区藤ノ木1―4―23

TEL 771―3657

ドイツのヘフナー枢機卿来福
カテドラル、大神学院を視察

十月三十日定刻一九時一分、新幹線『ひかり25号』が博多駅にすべりこんできた。ケルン大司教ヨゼフ・ヘフナー枢機卿、司教総代理モンセニョール・ノルベルト・ヘルドホック、枢機卿会妹マリア・ヘフナーさん、通訳のイエズス会のモア神父（上智大学経理課長）一行の到着である。福岡司教館で少憩の後、早速、歓迎夕食会に移った。教区内の司祭三十八名が出席。平田司教は、歓迎の挨拶の中で、信徒数や教区内で働いている司祭数などの教区の概況を、英語で説明した。これに答えたヘフナー枢機卿は、福岡教区の温かい歓迎を謝し、司教の説明によって、福岡教区が布教地であることを知ったが、教区の一人ひとりの司祭がパン種になった積りで頑張って欲しいと激励した。このあと、会食に入ったが、枢機卿の旅行疲れの事情を考慮して、一時間二〇分ほどで解散した。枢機卿一行は、カテドラル前の西鉄グランドホテルに宿泊した。

翌三十一日、大名町カテドラルをつぶさに視察、老朽化と白蟻被害による聖堂の痛ましさに心を動かされた様子であった。その後、福岡サン・スルピス大神学院を訪問し、教授、神学生と交歓した。枢機卿は、大神学院でのミサの中で、キリストとの一致から来るキリストの宣教についてラテン語で説教し、宣教の重要性を訴えた。ミサ後、教授、神学生と食事を共にして、国境を越えた、キリストにおける兄弟の喜びを分かち合った。

枢機卿は、広島教区に立ち寄った後の福岡訪問であった、と聞いていたが、七十二歳の高令のわりには、元気そうに見つけられ、安堵の胸をなでおろしたことであった。枢機卿は、福岡地区でのハードスケジュールを精力的に消化して、十一時二〇分、板付空港から仙台へ旅立って行った。

ヘフナー枢機卿（中央）とその左令妹

会合と催し

☆平田 司教
12月8日 福岡小神学院祝日ミサ
9日 湯川 教会 創立30周年祝、いとし子の家10周年祝
11～13日 司教協総会
16日 西新教会堅信式
24日 クリスマス・イブミサ

☆福岡黙想の家
12月2日 老司教会の黙想会
3～8日 通勤者の黙想会
7～8日 西南大・学生の聖書輪読会
8～9日 信徒の黙想会
15～16日 日岡学園受験者の黙想会
22～24日 英会話ゼミナール
26～1月2日 シスターの黙想会

十二月年忌の司祭

▼ヤコボ・マグラ神父（聖コロンバン会）一九七六年十二月十八日
熊本マリスト学園付司祭
▼パウロ青木功神父一九七三年十二月十九日元行橋教会主任
▼ジャンマリーコール神父（パリ外国宣教会）一九二七年十二月二十日元久留米教会主任

信徒の転出入の手続き
新しい方法採用に決定

十一月十二日から二泊三日、大阪で国内移動信徒担当者全国会議が開かれたが、先きに、カンチェラリウス会議で決定された信徒の転出入の際の新しい手続き方法が今後採用されることになった。

福岡教区でも、徐々に、新しい転出入の書類で手続きされるように、各地区の司祭集会の場で説明会が開かれている。

さしあたり、行方不明の信者が、年間でかなりの数に上るという現状での対応策として、こういう住所不明の信者を、一人でも少なくするという目的で、長年、具体案が検討されてきた。今回、ようやく、その新しい方法を取ることに決定したものである。確かに、転出する側、転入する側の双方ともに、これまで以上の複雑さと面倒さがともなうことになるが、各小教区の主任司祭の協力をお願いする次第である。

布教の日献金（10月21日）

大名町	57,150	馬渡島	12,000	飯塚	12,000
浄水通	45,537	呼子	7,821	田川	4,915
光ケ丘	29,300	佐賀	15,000	新田原	64,157
箱崎	7,000	唐津	13,900	行橋	13,205
東田島	23,204	伊万里	6,000	手取	27,768
西新	36,411	鳥栖	5,400	荒尾	10,000
大楠	5,890	武雄	4,594	人吉	11,600
美野島	10,000	多久	3,810	健軍	12,000
茶山	7,100	門司	25,000	本渡	10,900
高宮	21,700	門司港	14,364	帯山	9,000
老司	14,000	小倉	70,877	水俣	3,700
吉塚	15,000	湯川	28,633	大江	11,590
古賀	12,000	戸畑	40,110	崎津	10,000
二日市	41,000	若松	7,510	鳥崎	27,500
久留米	36,530	天神町	30,000	玉名	10,000
吉野	1,850	八王寺	14,000	菊池	40,000
大牟田	11,250	黒崎	15,000	八代	16,240
今村	173,260	水巻	22,915	サン・スルピス大神学院	35,827
小郡	5,510	直方	4,505	合計	1,225,533

浄水通教会バザー抽籤券の当せん番号

1等 1本 941
エンジン付自転車

2等 10本
高級ステンレス鍋
11，343，349，413
463，526，9293
08，1009，1577

3等 15本
タイガ印ポット
288，436，870
339，606，930
922，749，345
613，1128，1403
159，1522，233

第4回チャリティー募金福引券当せん番号（カリタス・ジャパン）

1等 3本 B組 167238 C組 114622 E組 179447

2等 6本 組番号共通（A・B・C・D・E・F） 146524

3等 6本 組番号共通（A・B・C・D・E・F） 167841

4等 24本 組番号共通（A・B・C・D・E・F） 112701 114457 132704 184533

5等 90本 組番号共通（A・B・C・D・E・F） 下4ケタ 2541 Aの下4ケタ 3881 Bの下4ケタ 3881 Fの下4ケタ 3881

6等 150本 各組共通（A・B・C・D・E・F） 下4ケタ 3528 8753 B組 4648 C組 4648 F組 4648

"任意保険に加入してから車の運転を致しましょう。
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険等々
福岡市博多区中洲5－4－12
AIU福岡ビル内
大石保険事務所 大石真澄
〒810 TEL 272－0671

祭壇・洗礼盤他
素材 石 石 理 影 大 御 そ 他
石のパイオニア
髙木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2－21
TEL 52－2417

見つめよう司祭への道
大神学院の〝召命の集い〟

サン・スルピス大神学院の年中行事の一つとなっている「召命の集い」が、十一月三日、当神学院で催された。

午前十時三〇分からの開会にも拘らず、早朝から続々と集まり、五〇〇人以上の、九州各地からの父兄・少年で賑わった。

定刻前に到着した人たちには、大神学院生活を紹介した幻灯（司祭への道）を見せたり、校内案内でサービスした。

十時三〇分、神学院聖堂前で開会式、そして、少年たちが参加するミサの聖歌の練習に励み、静かに入堂。十一時、五、六名の司祭による共同ミサが捧げられ、聖歌奉仕の大神学生とともに、神学院の厳粛な、神々しい雰囲気に酔いしれた。

中食後、レクリエション、アトラクションとして神学生の漫才、歌などが披露され、遠来の少年たちをねぎらった。

本年の集会のテーマは、〝司祭の召命と家庭の重要さ〟であったが、一時一五分から、一五〇人位の父兄のため〝司祭の召命〟についての講演があった。そのあと、神学生の劇〝司祭の召命〟を観覧、綱引きで余った若いエネルギーを発散して、三時すぎ帰途についた。

観劇の〝召命の集い〟の参加者たち

修道誓願宣立五十年の祝い
シスターマリア・カタリナ

十一月十一日（日）午前九時三〇分から、浄水通カトリック教会において、サン・モール修道会福岡修道院のシスターマリア・カタリナの修道誓願宣立金祝の感謝ミサが盛大に行われた。

シスターマリア・カタリナは、北イタリアの信仰深い両親の六人姉弟（女四、男二）の第三子として生まれた。今から五十四年前、イタリアのチェナーテのサン・モール会に入り、一九二九年九月、パリーで初誓願。一九三八年十一月、来日以来四十一年間、祈りと労働の生活を捧げている。四姉妹のうち、三人が同じサン・モール会に入会し、マレーシア、フランス、日本で元気に過ごしている。

この喜びのシスターに、教皇ヨハネパウロ二世は「今日までうけた数々の恵みを感謝し、さらに大きな信頼と寛大な心をもって、神の賜ものである生命を新たに主に捧げ、神の国の発展と愛の証しとなるようにつとめて下さい」、と激励と祝いの言葉を与えている。

生活の場で生きざまを見直す
信徒使徒職委員会九州集会

十一月十七日（土）午後五時から一泊二日で、日本司教団信徒使徒職委員会九州集会が、福岡黙想の家において開かれた。〝生活の見直し〟をテーマに、九州その他から四十一名の参加者があった。

定刻、受付けが開始され、五時三〇分から、オリエンテーションに入った。開催地の平田司教は、「福音を生きる信徒として、信徒独自の働きの場所において、信徒独自の働きを通じて、生活の見直しをして行くことが大切である。この短かい時間であるが、それぞれの角度から検討・研修し、頭だけの理解に止まらず、聖霊をいただいて心の改めにまで進んで、神に感謝しながら、よりよい充実した集会になるように祈る」と歓迎と激励の挨拶をした。つぎに、集会担当の浜尾司教は「九州地方の五教区が集まって開催する地方集会は、二年に一回、全国集会は東京において、地方集会のない年に一回と開催している。これからも、出来るだけ地方集会を充実したものにして行きたいと考えている。ただ今、平田司教から励ましのことばをいただき、より一層実りあるものにいたしたいと思う。信徒使徒職は、信徒の現実に具体的なものを見つめて、深く見直していくことが大切と思う。今年三月、ヨハネ・パウロ二世教皇がはじめて出した回勅の最大の関心事は、人間の問題であった。勿論、教会である以上、神の問題が重大であることは当然であるが、この度、強調された点は、人間の問題しかも、具体的に歴史的に存在している人あの人、一人ひとりの問題である。キリストのご託身と十字架と復活というあがないの業によって、キリストはすべての人一人ひとりと自分を同一視されたということである。キリストのすべての業は、人間の幸せにかかっていると述べている。このように、一人ひとりの人間は神に愛されている。生きている場、働いている場、その場の福音化が教会の使命である。そして、日本における人々の救いを願うことが大切である」、と集会の基本的方向を説いた。深水正勝神父は、参加者の具体的オリエンテーションとして「今回のテーマを中心に、本音に帰って腹蔵なく話して頂きたい。題材はあくまで信徒の使徒職〝境内の外、月曜日～土曜日まで〟の日々の生活の中の問題を福音的に見直すことに中心をおいて、地元の特色を生かして欲しい」と要望した。集会では自己紹介、全体会の事例発表やグループ討議の発表、質疑応答を通して、参加者の信徒使徒職への理解と熱意が深まっていった。

翌日午後二時、浜尾司教は集会のまとめを発表した。

一、信徒使徒職は信徒の福音化である。教皇回勅は一人ひとりの人生に神が共に歩くことを強調している。人間の問題に関心を深めるようにしよう。

二、人間一人ひとりを大切にすること。飢えている（食物、友だち、聖なるもの）人に何かをしてあげることが必要である。

三、教会的共同体は気が合った人ばかりの集まりではなく、自分より正反対の人もいることを忘れてはならない。それにも拘らず、お互いに兄弟のような交わりを努力しなければならない。

四、公会議後の問題として、種々の立場からの社会悪、社会のひずみが出てきた。アジアの中の日本人、子供・家庭の問題、社会の機構の問題、どれをとってみても、そこには人間が生きている。この人間に働きかけ、変えていくことが可能である。救いは個人のためばかりでなく、人類全体を対象にしている。すべての人の救いに参与するのが、キリスト教の姿勢であり、神のまなざしであると思う。

教会はキリストにおける秘跡すなわち、神との親密な交わりと全人類一致のしるしであり、道具であるから、みずからの本性と普遍的使命とを―これまでの公会議の教えを守りつつ―その信者と全世界により明らかに示そうとするのである。現代の状況は、教会のこの義務をいっそう緊急なものにしている。それは社会、技術、文化の種々のきずなによって、今日、より強く結ばれているすべての人々が、キリストにおける完全な一致をも実現すべきだからである。この認識に立って、信徒使徒職の実践に邁進していただきたい。誰れでも生命を受けている人は神の子である。神の子としての尊厳を示し合わなければならない。ミサ後解散。

床工事・室内装飾・清掃取扱一式
有限会社　創和
又野征次
西区荒江1―22―28
TEL (851) 4694

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL 521―0568